

**静岡市の子どもたちにとって
望ましい教育環境についてのアンケート
【 集計・分析調査結果 】
報告書**

**令和 4 年 10 月
静岡市 教育委員会**

目次

I	調査の概要.....	1
II	調査の結果.....	2
	[小・中学生調査：問1・未就学児調査：問1] お子さんの通学・通園状況について、教えてください。.....	2
	[小・中学生調査：問2・未就学児調査：問2] 静岡市の目指す子どもの姿について、大切だと考える姿はどのようなものでしょうか。.....	12
	[小・中学生調査：問3・未就学児調査：問3] 小・中学校に期待する特色ある教育活動はどのようなことでしょうか。.....	16
	[小・中学生調査：問4・未就学児調査：問4] 学校施設・整備の充実について望むことは、どのようなことでしょうか。.....	20
	[小・中学生調査：問5] お子さんが在籍している学年の学級数について、お答えください。.....	25
	[小・中学生調査：問6・未就学児調査：問5] 小・中学校における望ましいと思う1学年あたりの学級数とその理由について、お答えください。.....	35
	[小・中学生調査：問7] 望ましいと思う1学年あたりの学級数は、現在の学級数と比べていかがですか。.....	51
	[小・中学生調査：問8・未就学児調査：問6] 今後、児童生徒数が大きく減少する学校について、どのように対応したらよいと思いますか。.....	62
	[小・中学生調査：問9・未就学児調査：問7] 一定の学校規模や学校配置を検討するにあたり、どのようなことを重視して考える必要があると考えますか。.....	65
	[小・中学生調査：問10・未就学児調査：問8] 今後、学校統合などで学校が空き施設となった場合、どのような活用が望ましいと思いますか。.....	69
	[小・中学生調査：問11・未就学児調査：問9] 市立小・中学校の適正規模・適正配置についてご意見があれば、ご記入ください。.....	73

I 調査の概要

1. 調査の目的

平成28年9月に策定した「静岡市立小・中学校の適正規模・適正配置方針」の改定に伴い、静岡市教育委員会にて実施した市立小・中学校に通う子どもの保護者及び未就学児の保護者代表を対象とした適正規模・適正配置にかかるアンケート調査「静岡市の子どもたちにとって望ましい教育環境について」の回答データを集計・分析することで、より保護者の意向を本方針改定の参考とすることを目的とする。

2. 調査の項目

- ・お子さんの通学・通園状況
- ・静岡市の目指す子どもの姿について、大切だと考える姿
- ・小・中学校に期待する特色ある教育活動
- ・学校施設・整備の充実について望むこと
- ・お子さんが在籍している学年の学級数
- ・小・中学校において望ましいと思う1学年あたりの学級数とその理由
- ・小・中学校において望ましいと思う1学年あたりの学級数にするために望ましいと思う対応
- ・今後、児童生徒数が大きく減少する学校への対応
- ・一定の学校規模や学校配置を検討するにあたり、重視して考える必要があること
- ・今後、学校統合などで学校が空き施設となった場合、望ましいと思う活用
- ・市立小・中学校の適正規模・適正配置についてご意見（自由回答）

3. 調査の方法

対象者：【小・中学生調査】静岡市立小・中学校に通う子どもがいる保護者（家庭）
37,053人（1家庭1回答）
【未就学児調査】静岡市立こども園に通う子どもがいる保護者代表
約110人（各施設2人、55施設に依頼）

調査方法：【小・中学生調査】小・中学校を通じて各家庭へ配布・ウェブ回答
【未就学児調査】こども園を通じて保護者代表（1～2人）へ配布・ウェブ回答

調査期間：【小・中学生調査】令和4年7月15日～令和4年8月2日
【未就学児調査】令和4年8月8日～令和4年8月19日

4. 回収状況

調査種類	対象人数（家庭）	有効回収数	有効回収率
小・中学生調査	37,053人	10,880票	29.4%
未就学児調査	110人	72票	65.5%

5. 報告書を読む際の注意点

- * 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。
- * 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。このため、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- * 1つの質問に2つ以上答えられる“複数選択可”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合があります。
- * 問や選択肢が長い場合、スペースの関係上、省略して表記していることがあります。
- * ウェブ調査を実施したことから「無回答」はありません。そのため、グラフにも「無回答」は掲載していません。
- * サンプル数が20以下の場合、コメントは省略しています。
- * 小・中学生調査は学校の規模別のクロス集計を掲載していますが、市内には「大規模校」、「過大規模校」に該当する中学校がないため、グラフでは省略しています。
- * スペースの関係上、小中一貫教育グループ校別のグラフでは10.0%以下の数値を掲載していません。

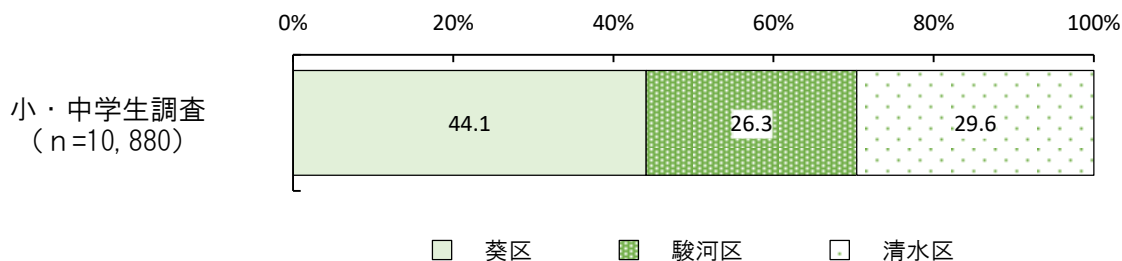
II 調査の結果

[小・中学生調査：問1・未就学児調査：問1]

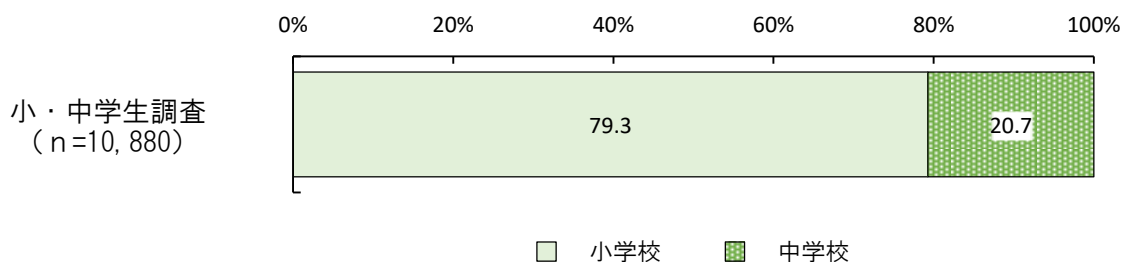
お子さんの通学・通園状況について、教えてください。※小・中学校に兄弟姉妹がいる家庭については、未子を対象にお答えください。

1) お子さんが通学している学校（小・中学生調査のみ）

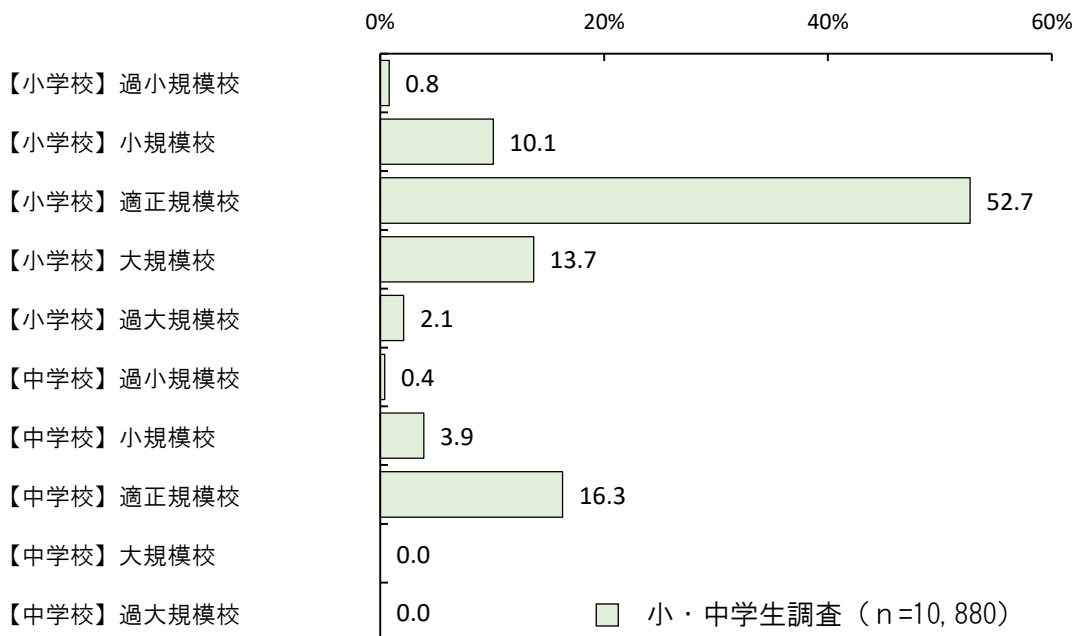
① 学校の所在地



② 学校の種類



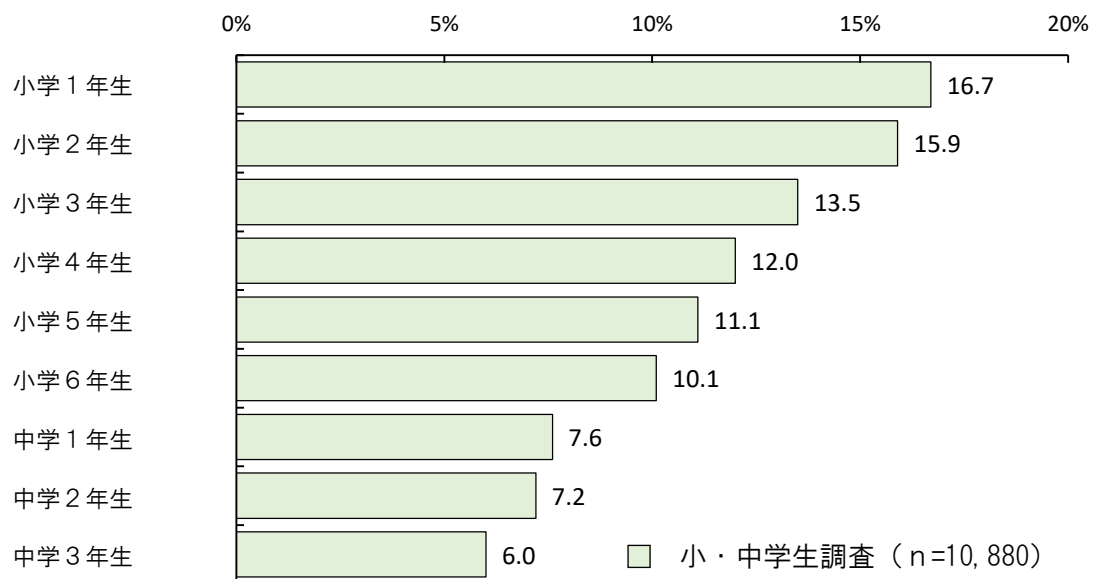
③ 学校の規模



学校の所在地は、「葵区」が44.1%と最も多く、次いで「清水区」が29.6%、「駿河区」が26.3%となっています。

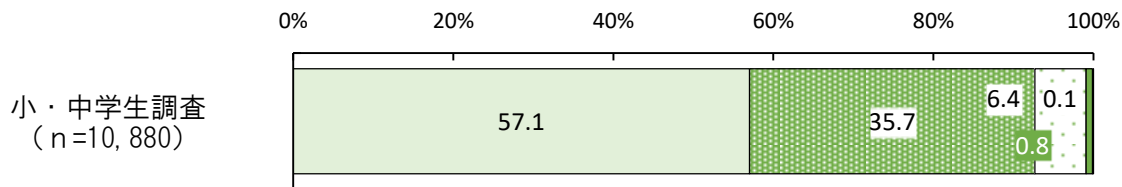
学校の種類は、「小学校」が79.3%、「中学校」が20.7%となっています。

学校の規模は、「【小学校】適正規模校」が52.7%と最も多く、次いで「【中学校】適正規模校」が16.3%、「【小学校】大規模校」が13.7%などとなっています。

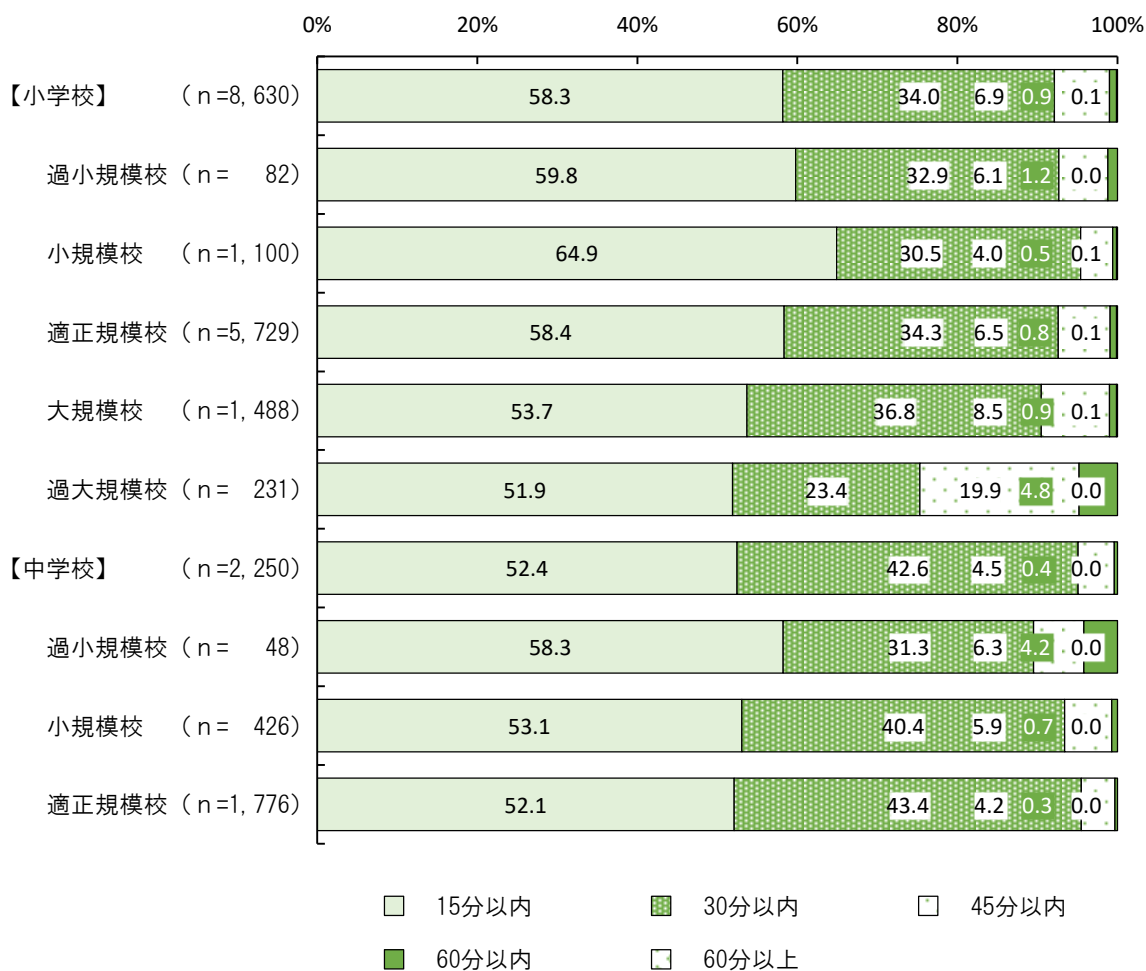
2) お子さんが在籍している学年（小・中学生調査のみ）

お子さんが在籍している学年は、「小学1年生」が16.7%と最も多く、次いで「小学2年生」が15.9%、「小学3年生」が13.5%などとなっています。

3) お子さんの通学時間（小・中学生調査のみ）



学校の種類別・学校の規模別

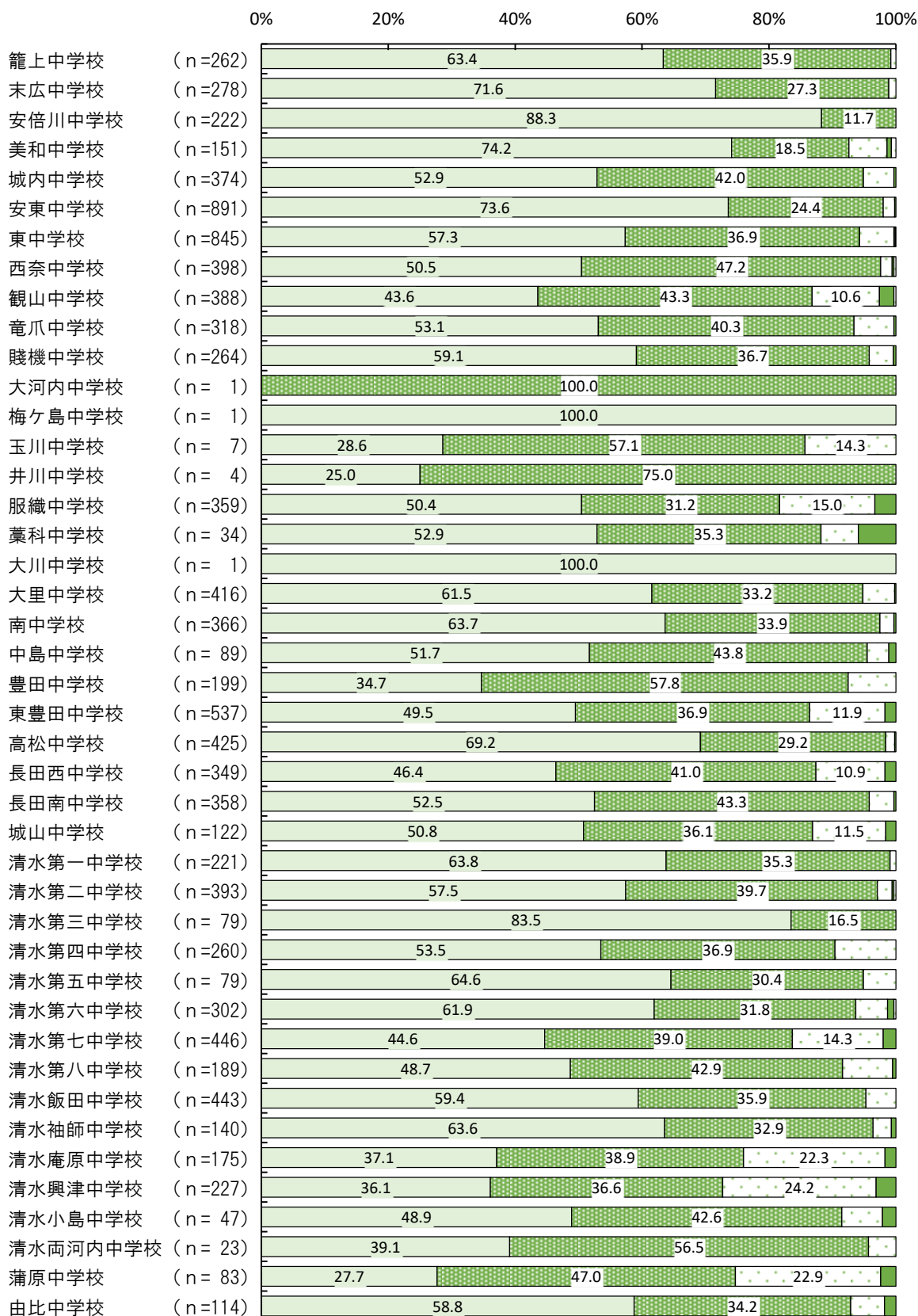


お子さんの通学時間は、「15分以内」が57.1%と最も多く、次いで「30分以内」が35.7%、「45分以内」が6.4%などとなっています。

学校の種類別でみると、《小学校》で「15分以内」が多く、「30分以内」が少なくなっています。

学校の規模別でみると、《【小学校】小規模校》で「15分以内」が6割を超えて多くなっています。また、《【小学校】過大規模校》で「30分以内」が3割を下回って少なく、「45分以内」が約2割と多くなっています。

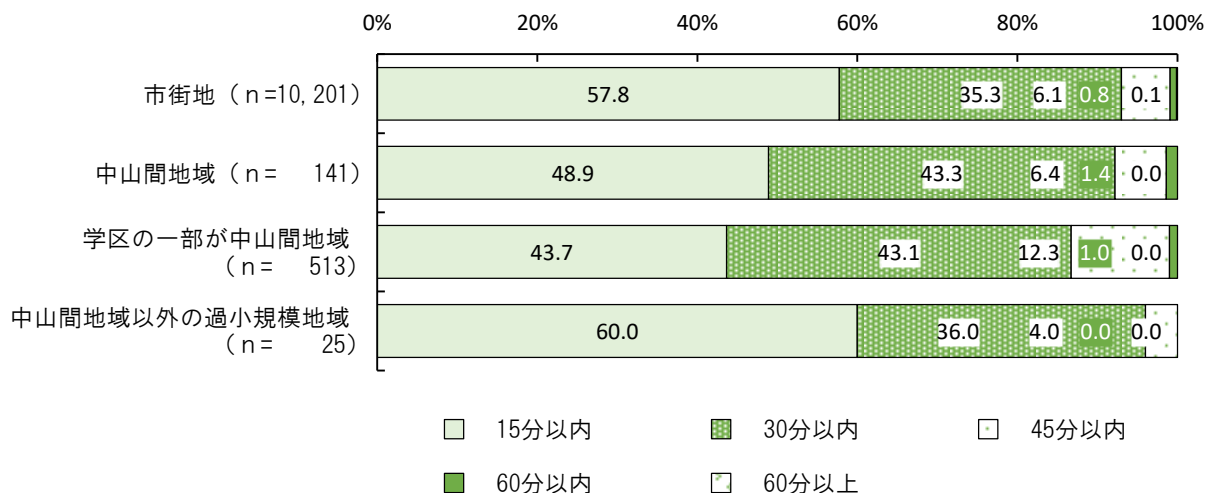
小中一貫教育グループ校別 ※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す



15分以内
 30分以内
 45分以内

 60分以内
 60分以上

学区の種類別



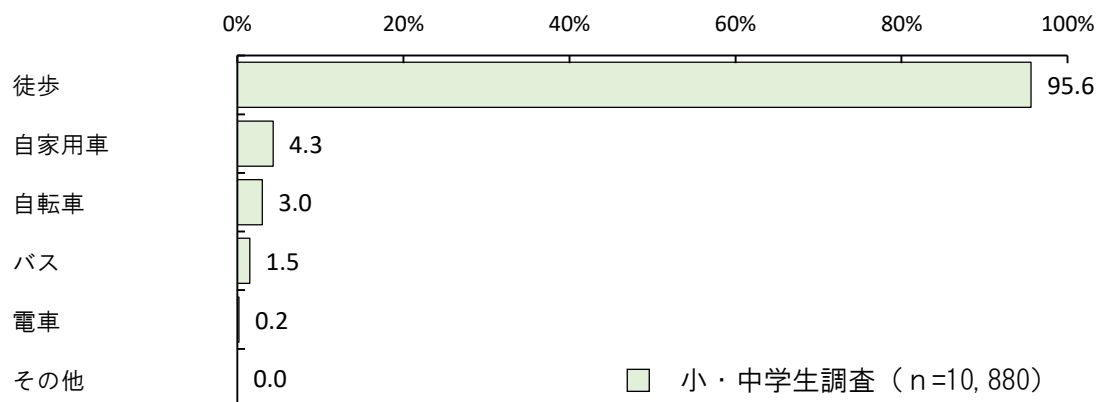
小中一貫教育グループ校別でみると、《安倍川中学校》・《清水第三中学校》で「15分以内」が8割を超えて多く、《豊田中学校》・《清水両河内中学校》で「30分以内」が半数を超えて多くなっています。また、《清水庵原中学校》・《清水興津中学校》・《蒲原中学校》で「45分以内」が2割を超えて多くなっています。

学区の種類別でみると、《中山間地域》・《学区の一部が中山間地域》で「30分以内」が4割を超えて多く、《学区の一部が中山間地域》で「45分以内」が1割を超えて多くなっています。また、《中山間地域以外の過小規模地域》で「15分以内」が6割と多くなっています。

注) 学区の種類別

区 分	中学校	小学校
①市街地 中学校:35校 小学校:61校	下記②～④を除く35校	下記②～④を除く61校
②中山間地域 中学校:6校 小学校:17校	大河内中 梅ヶ島中 玉川中 井川中 大川中 両河内中	北沼上小 賤機北小 賤機中小 松野小 大河内小 梅ヶ島小 玉川小 井川小 服部西小 清沢小 水見色小 中藁科小 小布杉分校(H22～休校中) 大川小 小河内小 穴原小 両河内小
③学区の一部が中山間地域 中学校:2校 小学校:4校	賤機中 藁科中	西奈小 南藁科小 庵原小 由比北小
④中山間地域以外の過小規模地域 中学校:0校 小学校:2校		美和小 久能小

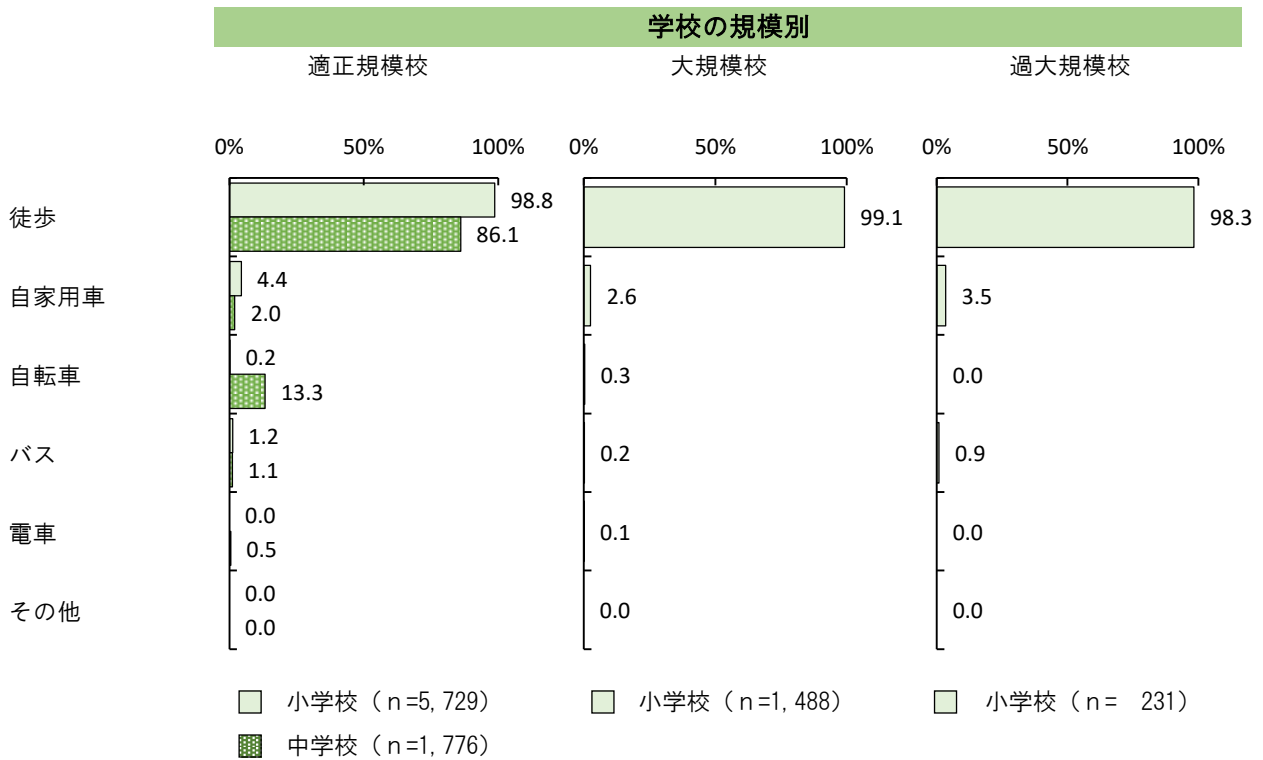
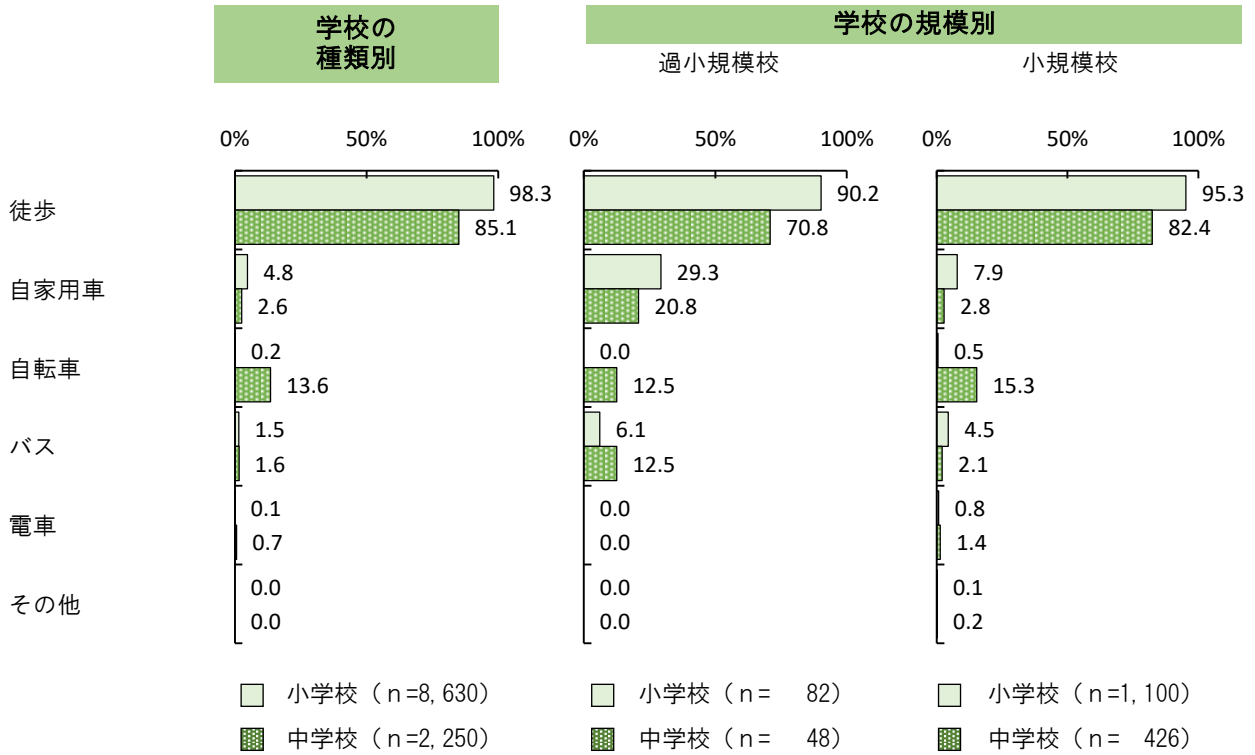
4) お子さんの通学方法（複数選択可）（小・中学生調査のみ）



お子さんの通学方法は、「徒歩」が95.6%と突出しています。

学校の種類別で見ると、《小学校》で「徒歩」が多く、「自転車」が少なくなっています。

学校の規模別で見ると、小学校・中学校ともに《過小規模校》で「自家用車」が2割を超えて多くなっています。また、《【中学校】過小規模校》で「徒歩」が約7割と少なく、「バス」が1割を超えて多くなっています。さらに、《【中学校】過小規模校》・《【中学校】小規模校》・《【中学校】適正規模校》で「自転車」が1割を超えて多くなっています。

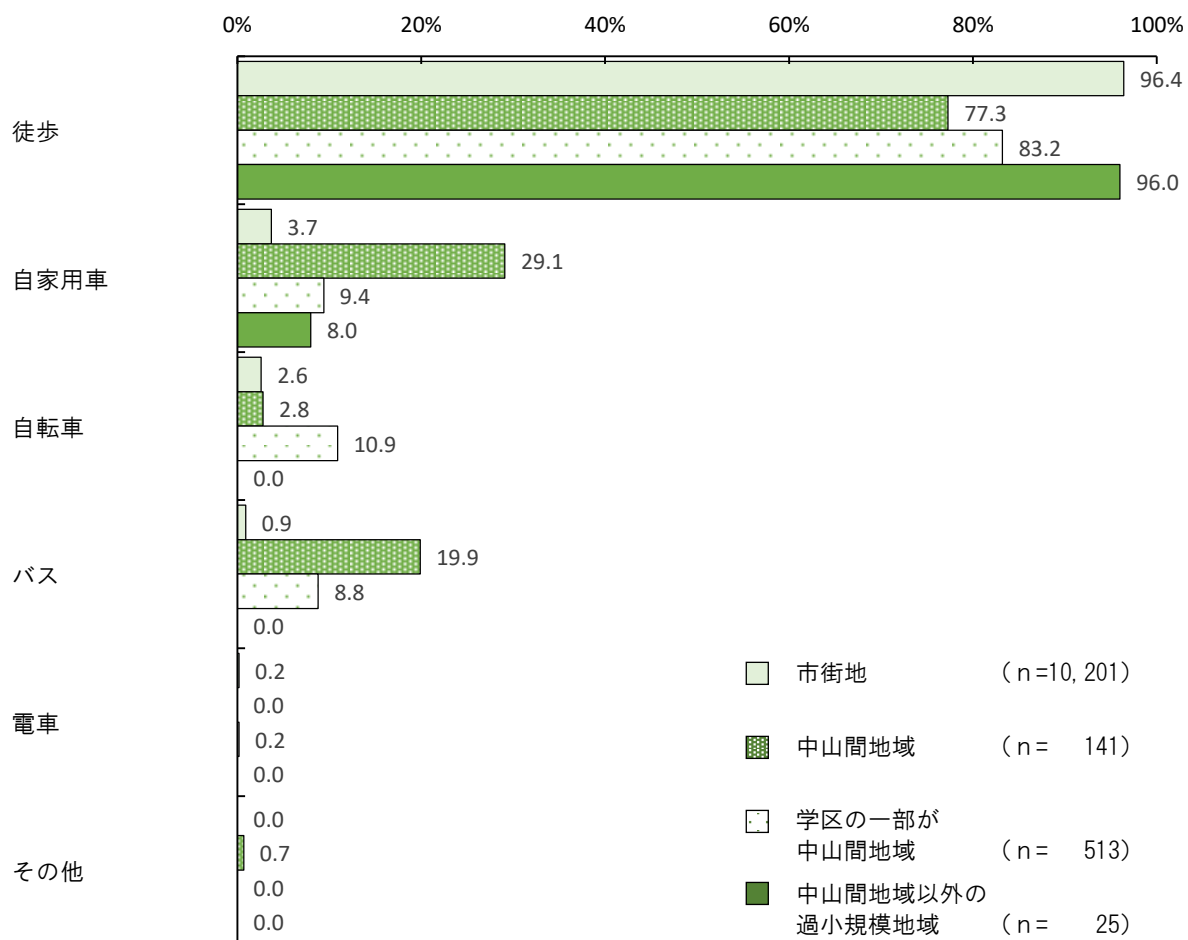


小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す

	調査数 (n)	徒歩	自家用車	自転車	バス	電車	その他
全体の割合より 15ポイント以上多い							
全体の割合より 15ポイント以上少ない							
全 体	10,880	95.6	4.3	3.0	1.5	0.2	0.0
籠上中学校	262	95.8	1.9	4.6	0.0	0.0	0.0
末広中学校	278	100.0	5.0	0.4	0.0	0.0	0.0
安倍川中学校	222	99.5	3.2	0.9	0.0	0.0	0.0
美和中学校	151	84.1	5.3	6.6	8.6	0.0	0.0
城内中学校	374	95.7	3.2	0.0	4.0	4.5	0.0
安東中学校	891	99.8	1.3	0.3	0.0	0.0	0.0
東中学校	845	90.2	2.4	9.1	1.5	0.0	0.0
西奈中学校	398	99.2	3.3	0.3	0.0	0.3	0.0
観山中学校	388	81.7	4.9	17.0	0.3	0.0	0.0
竜爪中学校	318	93.1	3.5	6.3	0.0	0.3	0.0
賤機中学校	264	72.7	7.2	21.2	7.2	0.0	0.0
大河内中学校	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
梅ヶ島中学校	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉川中学校	7	28.6	71.4	0.0	71.4	0.0	0.0
井川中学校	4	100.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
服織中学校	359	93.3	5.0	3.3	4.5	0.0	0.0
藁科中学校	34	82.4	20.6	2.9	8.8	0.0	0.0
大川中学校	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大里中学校	416	98.8	1.9	1.0	0.0	0.0	0.0
南中学校	366	98.6	2.7	2.2	0.3	0.0	0.0
中島中学校	89	100.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0
豊田中学校	199	99.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0
東豊田中学校	537	94.2	3.9	5.0	0.0	0.0	0.0
高松中学校	425	99.1	1.9	0.9	0.2	0.0	0.0
長田西中学校	349	94.6	4.9	3.2	4.0	0.0	0.0
長田南中学校	358	99.7	2.2	0.0	0.0	0.0	0.3
城山中学校	122	98.4	9.8	0.0	0.0	0.0	0.0
清水第一中学校	221	100.0	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0
清水第二中学校	393	99.5	2.0	0.0	0.3	0.0	0.0
清水第三中学校	79	98.7	7.6	0.0	0.0	0.0	0.0
清水第四中学校	260	97.3	5.8	1.2	0.8	0.0	0.0
清水第五中学校	79	96.2	5.1	0.0	1.3	0.0	1.3
清水第六中学校	302	98.7	9.3	0.3	2.0	0.0	0.0
清水第七中学校	446	99.8	2.5	0.0	0.0	0.4	0.0
清水第八中学校	189	100.0	5.8	0.5	0.0	0.0	0.0
清水飯田中学校	443	98.9	2.9	0.2	0.0	0.0	0.0
清水袖師中学校	140	98.6	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
清水庵原中学校	175	91.4	20.0	0.6	13.7	0.0	0.0
清水興津中学校	227	98.2	2.2	0.0	3.1	0.0	0.0
清水小島中学校	47	100.0	27.7	0.0	0.0	0.0	0.0
清水両河内中学校	23	17.4	17.4	13.0	87.0	0.0	4.3
蒲原中学校	83	95.2	12.0	0.0	0.0	6.0	0.0
由比中学校	114	96.5	9.6	1.8	0.0	0.0	0.0

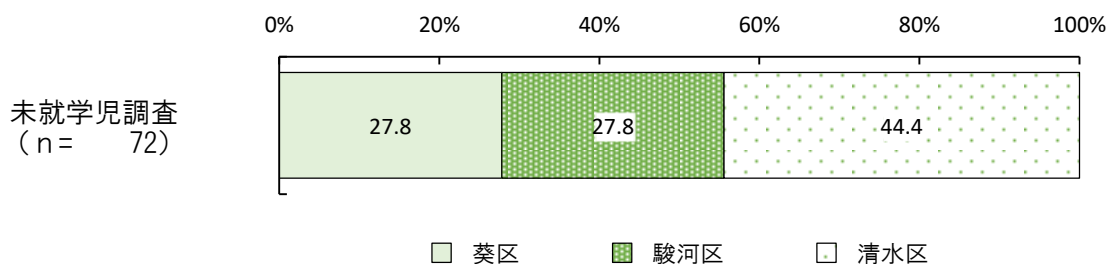
学区の種類別



小中一貫教育グループ校別でみると、大半の学校で「徒歩」が8割を超えているものの、《賤機中学校》で72.7%、《清水両河内中学校》で17.4%と8割に達しておらず、特に《清水両河内中学校》で非常に少なくなっています。また、「徒歩」が少ない《賤機中学校》では「自転車」、《清水両河内中学校》では「バス」が多くなっています。さらに、《藁科中学校》・《清水庵原中学校》・《清水小島中学校》で「自家用車」が2割を超えて多くなっています。

学区の種類別でみると、《中山間地域》で「徒歩」が8割を下回って少なく、「自家用車」、「バス」が多くなっています。また、《学区の一部が中山間地域》で「自転車」が約1割と多くなっています。

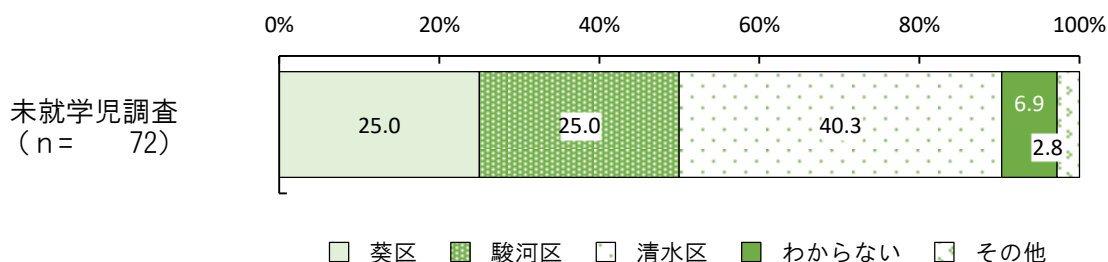
5) お子さんが通園しているこども園の所在地（未就学児調査のみ）



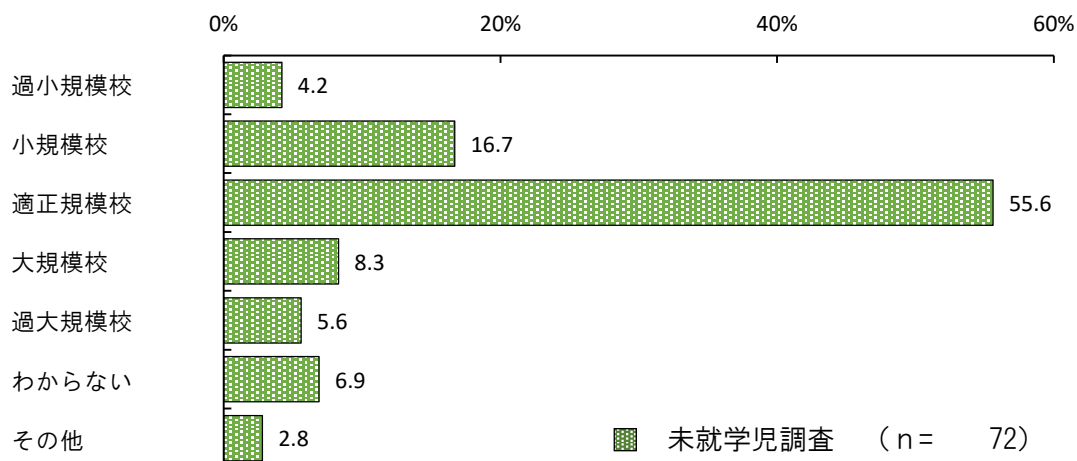
お子さんが通園しているこども園の所在地は、「清水区」が44.4%と最も多く、次いで「葵区」、「駿河区」がそれぞれ27.8%となっています。

6) お子さんの進学予定先の小学校（学区）（未就学児調査のみ）

① 進学予定先の小学校の所在地



② 進学予定先の小学校の規模

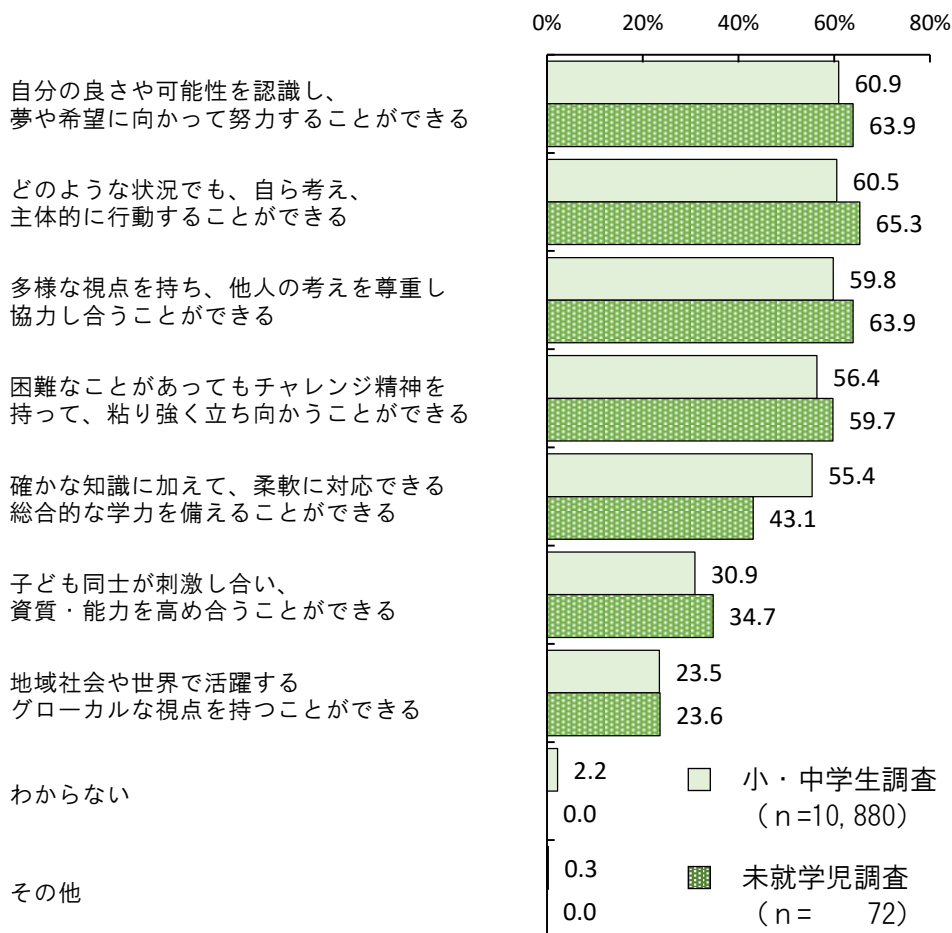


進学予定先の小学校の所在地は、「清水区」が40.3%と最も多く、次いで「葵区」、「駿河区」がそれぞれ25.0%、「わからない」が6.9%などとなっています。

進学予定先の小学校の規模は、「適正規模校」が55.6%と最も多く、次いで「小規模校」が16.7%、「大規模校」が8.3%などとなっています。

[小・中学生調査：問2・未就学児調査：問2]

静岡市の目指す子どもの姿について、大切だと考える姿はどのようなものでしょうか。（複数選択可）

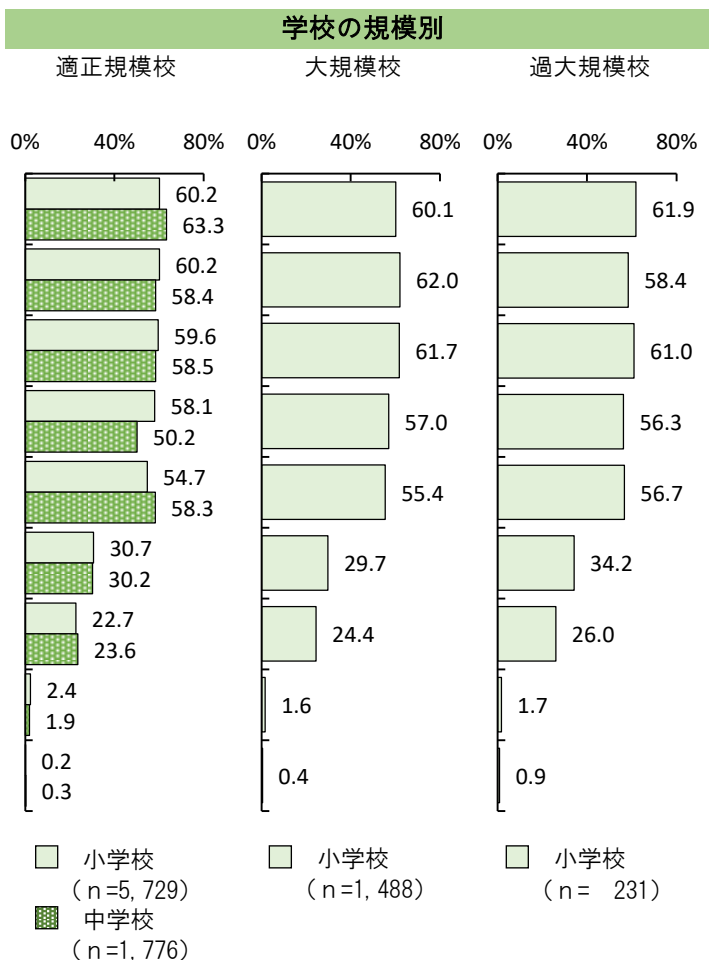
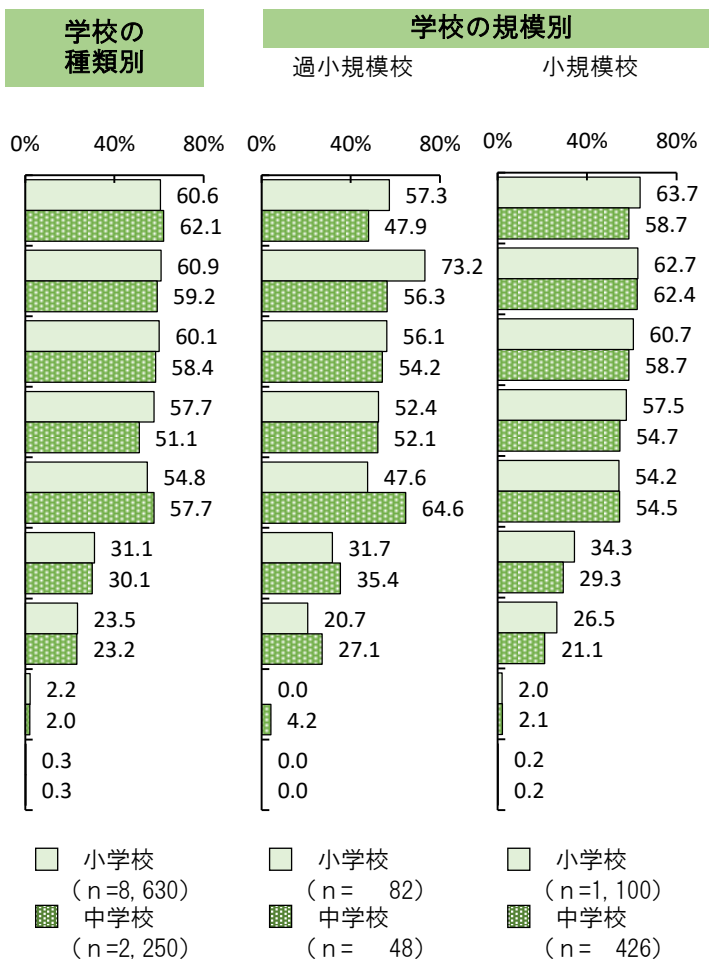


小・中学生調査では、「自分の良さや可能性を認識し、夢や希望に向かって努力することができる」が60.9%と最も多く、次いで「どのような状況でも、自ら考え、主体的に行動することができる」が60.5%、「多様な視点を持ち、他人の考えを尊重し協力し合うことができる」が59.8%などとなっています。

未就学児調査では、「どのような状況でも、自ら考え、主体的に行動することができる」が65.3%と最も多く、次いで「自分の良さや可能性を認識し、夢や希望に向かって努力することができる」、「多様な視点を持ち、他人の考えを尊重し協力し合うことができる」がそれぞれ63.9%、「困難なことがあってもチャレンジ精神を持って、粘り強く立ち向かうことができる」が59.7%などとなっています。

学校の種類別でみると、「小学校」で「困難なことがあってもチャレンジ精神を持って、粘り強く立ち向かうことができる」が多くなっています。

学校の規模別でみると、「小学校」過小規模校で「どのような状況でも、自ら考え、主体的に行動することができる」が7割を超えて多くなっています。また、「中学校」過小規模校で「自分の良さや可能性を認識し、夢や希望に向かって努力することができる」が半数を下回って少なく、「確かな知識に加えて、柔軟に対応できる総合的な学力を備えることができる」が6割を超えて多くなっています。

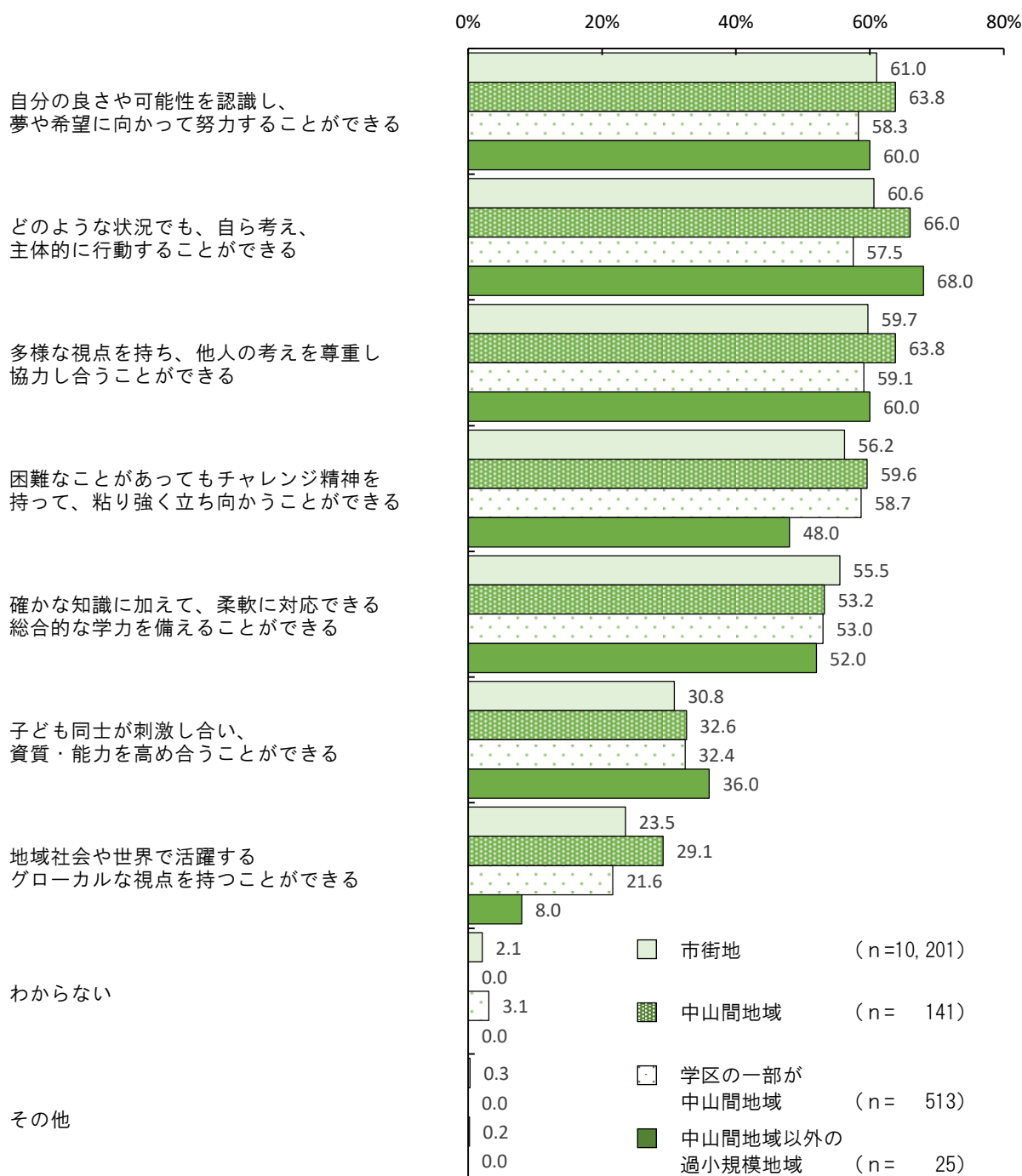


小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す

	調査数（n）	夢や希望に向かっていることができる	自分の良さや可能性を認識し、こ	え、主体的に行動することも、自ら考	どのような状況でも、	を尊重し協力し合うことができ	多様な視点を持ち、他人の考え	向かうことができる	困難なことがあってもチャレンジ精神を持って、粘り強く立ち	応じることができる	確かな知識に加えて、柔軟に	子ども同士が刺激し合い、資	さる	地域社会や世界で活躍するグ	わからない	その他
全体の割合より 15ポイント以上多い																
全体の割合より 15ポイント以上少ない																
全 体	10,880	60.9	60.5	59.8	56.4	55.4	30.9	23.5	2.2	0.3						
籠上中学校	262	68.7	67.2	64.5	58.0	59.5	33.2	25.2	2.3	0.0						
末広中学校	278	68.0	65.8	64.7	60.1	60.4	35.6	27.7	1.1	0.0						
安倍川中学校	222	63.1	63.1	61.7	55.9	44.6	30.6	24.3	3.6	0.0						
美和中学校	151	60.9	59.6	56.3	55.0	49.7	27.8	16.6	4.0	0.7						
城内中学校	374	61.2	65.5	59.4	51.9	61.0	28.3	31.3	1.6	0.3						
安東中学校	891	62.3	62.5	58.1	56.9	56.2	30.0	25.7	1.3	0.3						
東中学校	845	61.5	61.3	63.3	49.6	54.4	28.9	24.1	2.5	0.1						
西奈中学校	398	53.5	56.8	58.0	56.8	55.5	28.4	24.9	2.5	0.3						
観山中学校	388	60.8	54.9	56.7	54.9	51.8	30.4	22.9	4.1	0.3						
竜爪中学校	318	61.0	56.6	60.1	55.0	51.3	29.9	20.1	2.8	0.0						
賤機中学校	264	64.0	64.4	62.9	59.8	51.9	30.7	22.3	1.1	0.4						
大河内中学校	1	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
梅ヶ島中学校	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
玉川中学校	7	57.1	42.9	85.7	71.4	71.4	42.9	57.1	0.0	0.0						
井川中学校	4	50.0	50.0	25.0	50.0	75.0	25.0	25.0	0.0	0.0						
服織中学校	359	62.4	58.2	63.0	55.7	57.7	34.3	25.9	1.7	0.6						
藁科中学校	34	67.6	64.7	64.7	61.8	67.6	41.2	29.4	2.9	0.0						
大川中学校	1	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
大里中学校	416	57.9	59.1	55.8	57.0	57.9	33.2	19.7	2.2	0.7						
南中学校	366	60.7	58.5	59.6	56.0	51.9	30.6	22.1	2.2	0.0						
中島中学校	89	57.3	57.3	61.8	50.6	55.1	34.8	22.5	4.5	0.0						
豊田中学校	199	63.8	56.3	57.8	56.8	56.8	33.7	23.1	3.5	2.0						
東豊田中学校	537	62.0	61.5	62.4	60.1	59.0	30.9	24.2	1.1	0.0						
高松中学校	425	60.5	60.7	58.4	56.5	58.1	28.7	19.8	2.4	0.0						
長田西中学校	349	57.3	60.2	61.9	55.0	56.2	27.5	20.6	2.0	0.6						
長田南中学校	358	58.9	61.5	62.8	58.9	58.7	31.0	23.5	2.0	0.6						
城山中学校	122	69.7	68.9	59.8	63.9	52.5	32.8	26.2	0.8	0.0						
清水第一中学校	221	60.2	67.0	55.2	51.6	61.1	28.5	23.1	2.3	0.5						
清水第二中学校	393	62.6	52.9	60.6	56.2	57.3	33.3	21.9	2.0	0.8						
清水第三中学校	79	51.9	62.0	48.1	67.1	53.2	36.7	21.5	1.3	0.0						
清水第四中学校	260	67.7	63.1	61.5	61.2	52.3	35.4	22.3	0.8	0.0						
清水第五中学校	79	55.7	67.1	63.3	59.5	55.7	25.3	29.1	2.5	0.0						
清水第六中学校	302	61.6	57.6	60.6	52.6	56.0	32.5	22.8	3.0	0.0						
清水第七中学校	446	54.0	61.9	58.1	55.2	50.2	28.0	21.5	1.3	0.0						
清水第八中学校	189	56.6	58.7	56.6	59.8	63.0	31.7	23.8	2.1	0.0						
清水飯田中学校	443	61.2	60.3	54.0	56.7	48.5	31.8	17.6	2.7	0.5						
清水袖師中学校	140	64.3	63.6	59.3	59.3	57.9	30.7	26.4	0.7	0.0						
清水庵原中学校	175	56.0	54.9	56.0	64.0	49.7	34.9	26.3	4.6	0.0						
清水興津中学校	227	59.5	54.2	60.4	59.5	50.7	28.6	24.2	3.5	0.0						
清水小島中学校	47	70.2	66.0	55.3	40.4	55.3	40.4	19.1	0.0	0.0						
清水両河内中学校	23	69.6	73.9	65.2	56.5	69.6	30.4	52.2	0.0	0.0						
蒲原中学校	83	62.7	53.0	61.4	63.9	60.2	27.7	24.1	1.2	0.0						
由比中学校	114	54.4	63.2	60.5	54.4	57.9	34.2	27.2	0.9	0.0						

学区の種類別

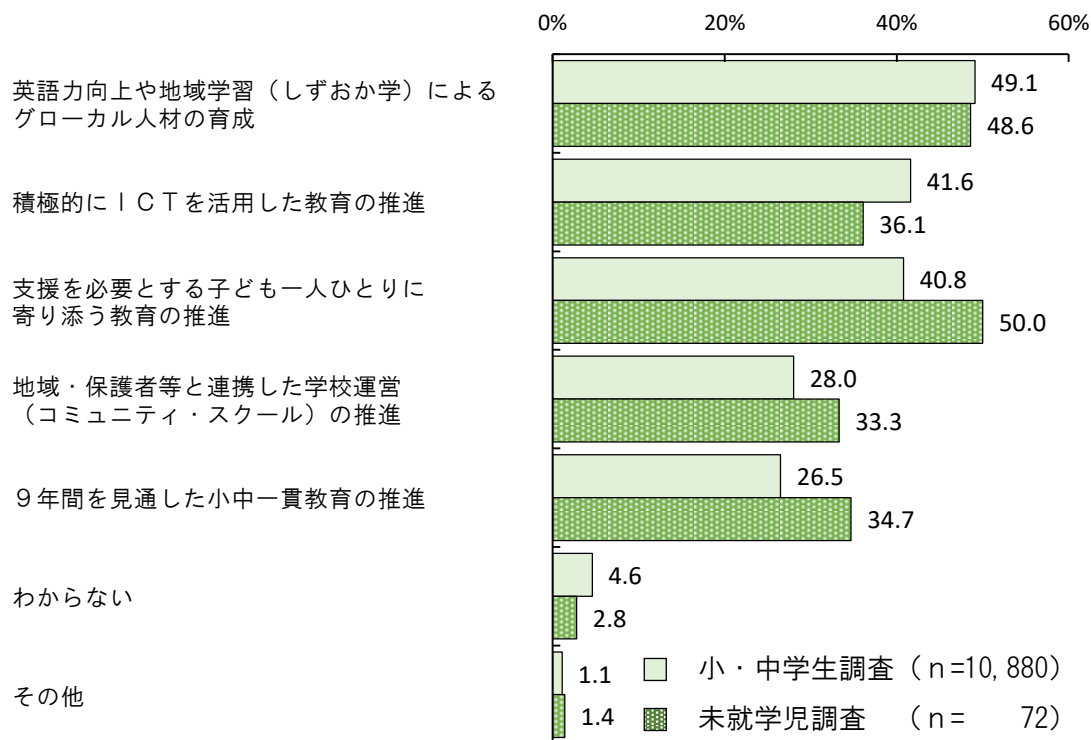


小中一貫教育グループ校別でみると、《安倍川中学校》・《美和中学校》・《清水飯田中学校》・《清水庵原中学校》で「確かな知識に加えて、柔軟に対応できる総合的な学力を備えることができる」が半数を下回って少なく、《東中学校》・《清水小島中学校》で「困難なことがあってもチャレンジ精神を持って、粘り強く立ち向かうことができる」が半数を下回って少なくなっています。また、《清水両河内中学校》で「どのような状況でも、自ら考え、主体的に行動することができる」、「地域社会や世界で活躍するグローバルな視点を持つことができる」が多くなっています。

学区の種類別でみると、《学区の一部が中山間地域》で「どのような状況でも、自ら考え、主体的に行動することができる」が6割を下回って少なく、《中山間地域以外の過小規模地域》で「困難なことがあってもチャレンジ精神を持って、粘り強く立ち向かうことができる」、「地域社会や世界で活躍するグローバルな視点を持つことができる」が少なくなっています。

[小・中学生調査：問3・未就学児調査：問3]

小・中学校に期待する特色ある教育活動はどのようなことでしょうか。（複数選択可）

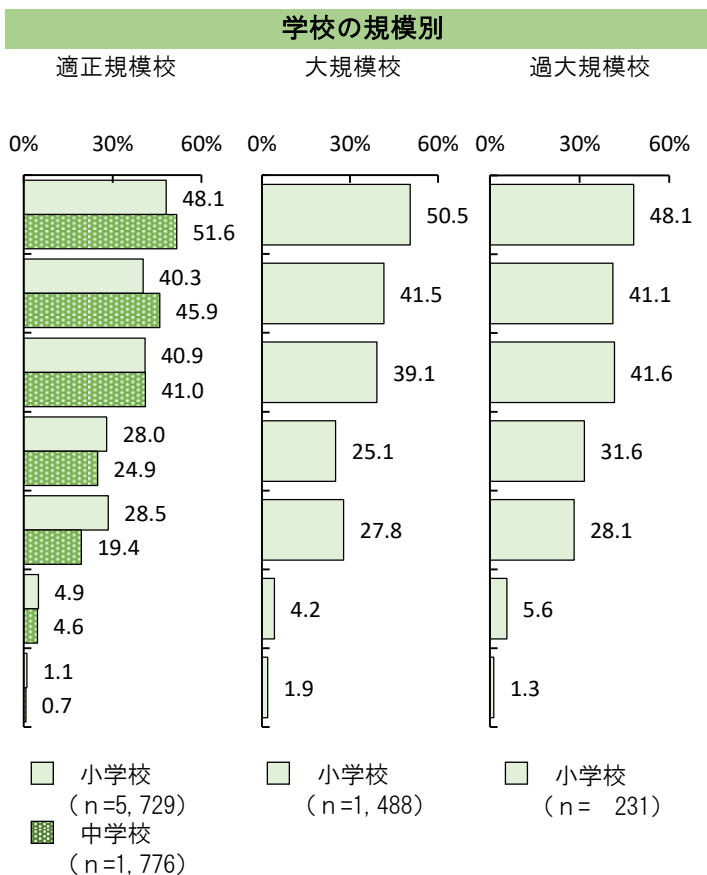
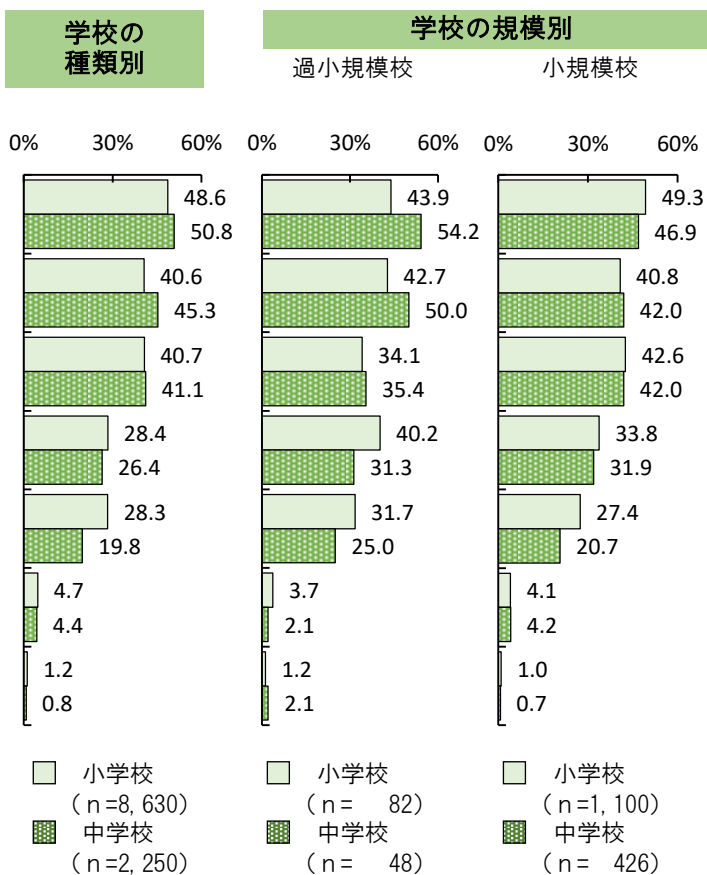


小・中学生調査では、「英語力向上や地域学習（しずおか学）によるグローバル人材の育成」が49.1%と最も多く、次いで「積極的にICTを活用した教育の推進」が41.6%、「支援を必要とする子ども一人ひとりに寄り添う教育の推進」が40.8%などとなっています。

未就学児調査では、「支援を必要とする子ども一人ひとりに寄り添う教育の推進」が50.0%と最も多く、次いで「英語力向上や地域学習（しずおか学）によるグローバル人材の育成」が48.6%、「積極的にICTを活用した教育の推進」が36.1%などとなっています。

学校の種類別でみると、《小学校》で「9年間を見通した小中一貫教育の推進」が多くなっています。

学校の規模別でみると、《【小学校】過小規模校》で「地域・保護者等と連携した学校運営（コミュニティ・スクール）の推進」、「9年間を見通した小中一貫教育の推進」が多く、《【小学校】過小規模校》・《【小学校】大規模校》・《【中学校】過小規模校》で「支援を必要とする子ども一人ひとりに寄り添う教育の推進」が4割を下回って少なくなっています。また、《【小学校】大規模校》・《【中学校】過小規模校》・《【中学校】適正規模校》で「英語力向上や地域学習（しずおか学）によるグローバル人材の育成」が半数を超えて多く、《【中学校】過小規模校》で「積極的にICTを活用した教育の推進」が半数と多くなっています。

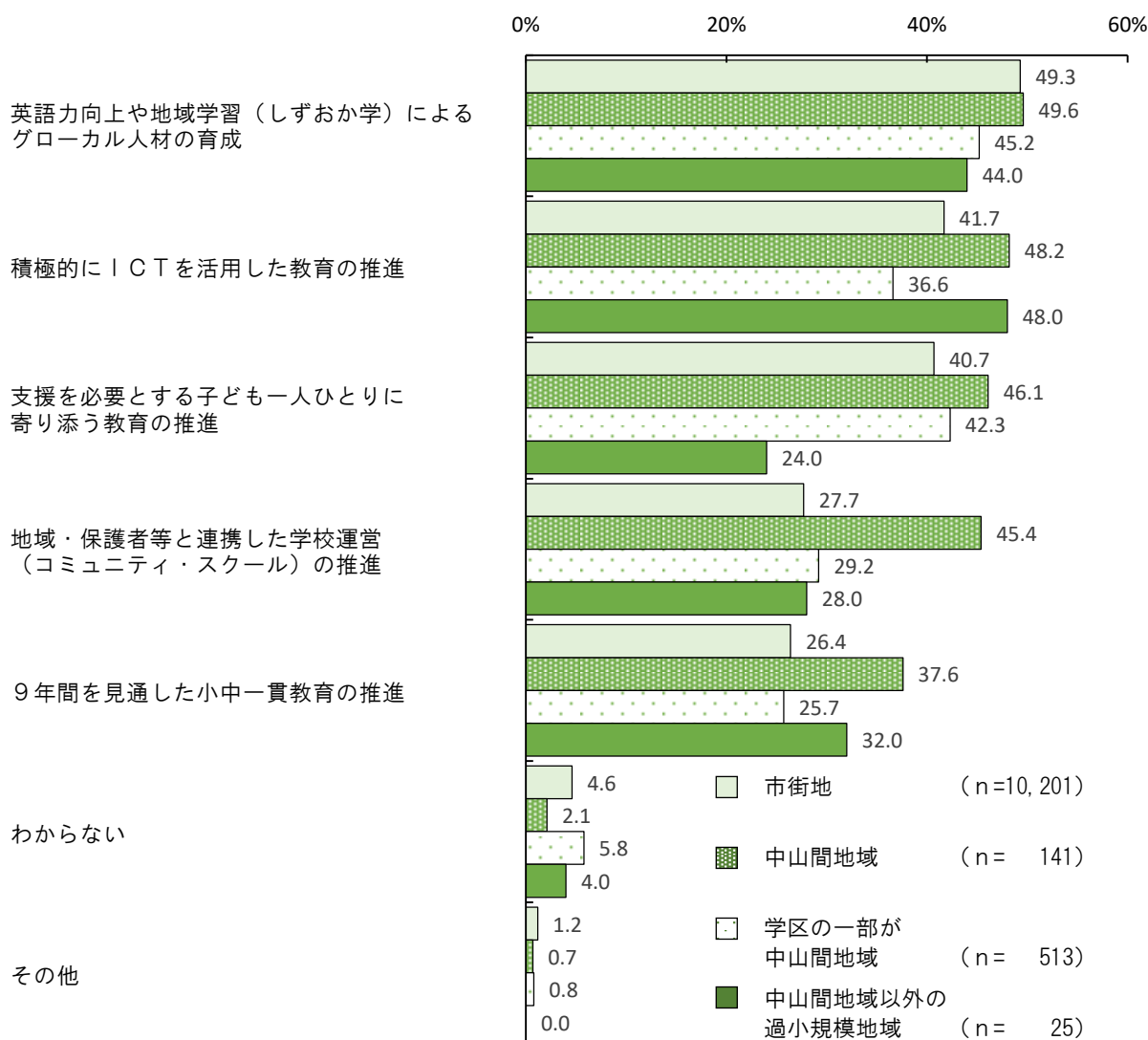


小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す

	調査数（n）	育英学（英語力向上や地域学習（へしずのお）によるグローバル人材の育成）	の積極的にICTを活用した教育の推進	と支援を必要とする子どもひとりひとりに寄り添う教育の推進	（地域・保護者等と連携した学校運営（コミュニティ・スクール）の推進	の9年間を見通した小中一貫教育の推進	わからない	その他
全体の割合より15ポイント以上多い								
全体の割合より15ポイント以上少ない								
全 体	10,880	49.1	41.6	40.8	28.0	26.5	4.6	1.1
籠上中学校	262	46.2	44.7	49.2	26.0	25.6	5.3	1.1
末広中学校	278	48.9	40.6	41.4	28.8	26.3	4.0	1.4
安倍川中学校	222	47.7	43.7	39.6	29.3	27.5	5.0	3.6
美和中学校	151	43.0	37.7	39.1	26.5	22.5	5.3	1.3
城内中学校	374	53.2	50.3	44.9	27.5	30.5	1.9	0.5
安東中学校	891	49.5	39.6	40.5	27.8	26.5	3.6	1.7
東中学校	845	52.3	46.4	40.7	25.2	25.9	3.6	1.7
西奈中学校	398	47.5	38.2	39.4	32.9	30.9	3.8	0.8
観山中学校	388	50.3	41.2	41.5	25.3	20.6	5.9	0.3
竜爪中学校	318	45.0	38.4	46.9	30.2	23.6	6.3	0.3
賤機中学校	264	49.6	47.7	41.7	30.7	26.1	4.2	1.1
大河内中学校	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
梅ヶ島中学校	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉川中学校	7	57.1	28.6	28.6	57.1	42.9	0.0	14.3
井川中学校	4	50.0	25.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
服織中学校	359	49.0	40.4	42.1	31.8	25.1	4.7	1.1
藁科中学校	34	47.1	67.6	52.9	44.1	44.1	2.9	2.9
大川中学校	1	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
大里中学校	416	48.6	42.1	38.7	25.2	26.7	4.8	1.2
南中学校	366	47.3	45.9	38.3	25.1	25.7	4.4	0.8
中島中学校	89	53.9	37.1	36.0	28.1	28.1	7.9	1.1
豊田中学校	199	49.2	41.2	41.7	21.6	29.1	5.5	3.0
東豊田中学校	537	49.5	40.6	39.1	26.6	27.2	4.3	1.5
高松中学校	425	50.8	42.6	38.1	23.8	24.2	4.9	0.5
長田西中学校	349	46.4	42.7	41.0	24.4	23.8	4.3	2.0
長田南中学校	358	53.9	41.6	39.9	26.8	25.4	3.9	1.4
城山中学校	122	52.5	46.7	43.4	34.4	29.5	5.7	0.8
清水第一中学校	221	52.5	41.6	38.9	31.2	23.5	3.6	1.4
清水第二中学校	393	50.6	41.0	41.2	30.8	28.0	4.8	1.0
清水第三中学校	79	46.8	34.2	49.4	36.7	34.2	0.0	0.0
清水第四中学校	260	52.7	40.8	40.4	31.5	23.5	4.6	0.4
清水第五中学校	79	35.4	40.5	39.2	41.8	22.8	2.5	0.0
清水第六中学校	302	50.7	35.8	44.7	26.2	28.1	6.0	0.3
清水第七中学校	446	47.1	36.8	35.9	29.6	26.2	5.6	0.4
清水第八中学校	189	47.6	41.3	37.6	27.0	32.3	4.8	1.6
清水飯田中学校	443	41.3	36.3	40.2	26.2	27.3	7.2	1.6
清水袖師中学校	140	47.1	40.7	40.7	35.0	22.1	5.0	1.4
清水庵原中学校	175	51.4	36.0	34.9	28.6	27.4	8.0	0.0
清水興津中学校	227	45.8	40.5	43.6	26.0	28.2	6.2	0.4
清水小島中学校	47	44.7	29.8	36.2	31.9	31.9	6.4	0.0
清水両河内中学校	23	47.8	65.2	56.5	47.8	60.9	4.3	0.0
蒲原中学校	83	60.2	49.4	41.0	30.1	22.9	2.4	0.0
由比中学校	114	49.1	46.5	43.9	30.7	29.8	4.4	0.0

学区の種類別

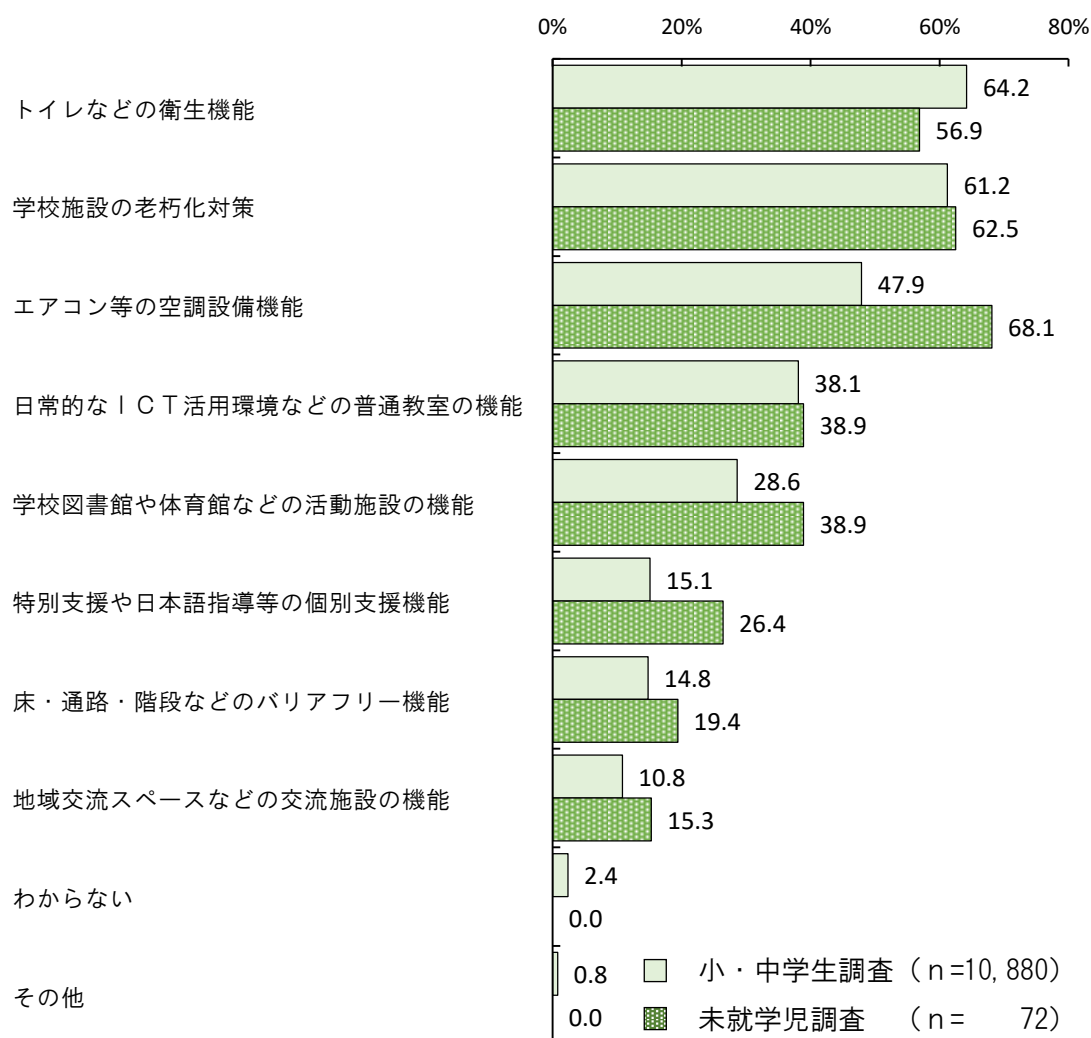


小中一貫教育グループ校別でみると、《藁科中学校》・《清水第五中学校》・《清水両河内中学校》で「地域・保護者等と連携した学校運営（コミュニティ・スクール）の推進」が4割を超えて多く、《藁科中学校》・《清水両河内中学校》で「支援を必要とする子ども一人ひとりに寄り添う教育の推進」が半数を超えて多くなっています。また、《清水第五中学校》で「英語力向上や地域学習（しずおか学）によるグローバル人材の育成」が4割を下回って少なく、《清水小島中学校》で「積極的にICTを活用した教育の推進」が約3割と少なくなっています。さらに、《清水両河内中学校》で「9年間を見通した小中一貫教育の推進」が約6割と多くなっています。

学区の種類別でみると、《中山間地域》で「地域・保護者等と連携した学校運営（コミュニティ・スクール）の推進」が4割を超えて多く、《中山間地域》・《中山間地域以外の過小規模地域》で「9年間を見通した小中一貫教育の推進」が3割を超えて多くなっています。また、《学区の一部が中山間地域》で「積極的にICTを活用した教育の推進」が4割を下回って少なく、《中山間地域以外の過小規模地域》で「支援を必要とする子ども一人ひとりに寄り添う教育の推進」が3割を下回って少なくなっています。

[小・中学生調査：問4・未就学児調査：問4]

学校施設・整備の充実について望むことは、どのようなことでしょうか。（複数選択可）

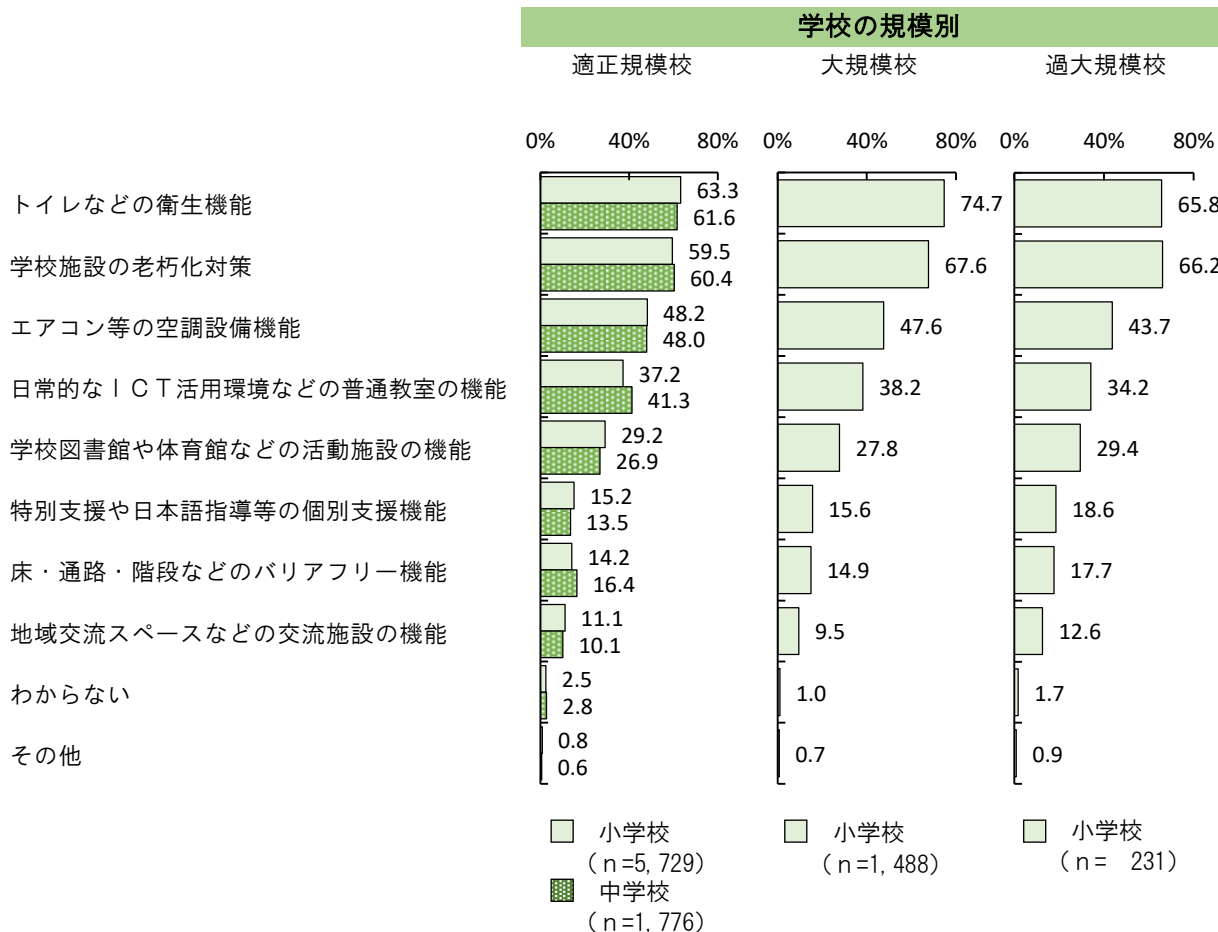
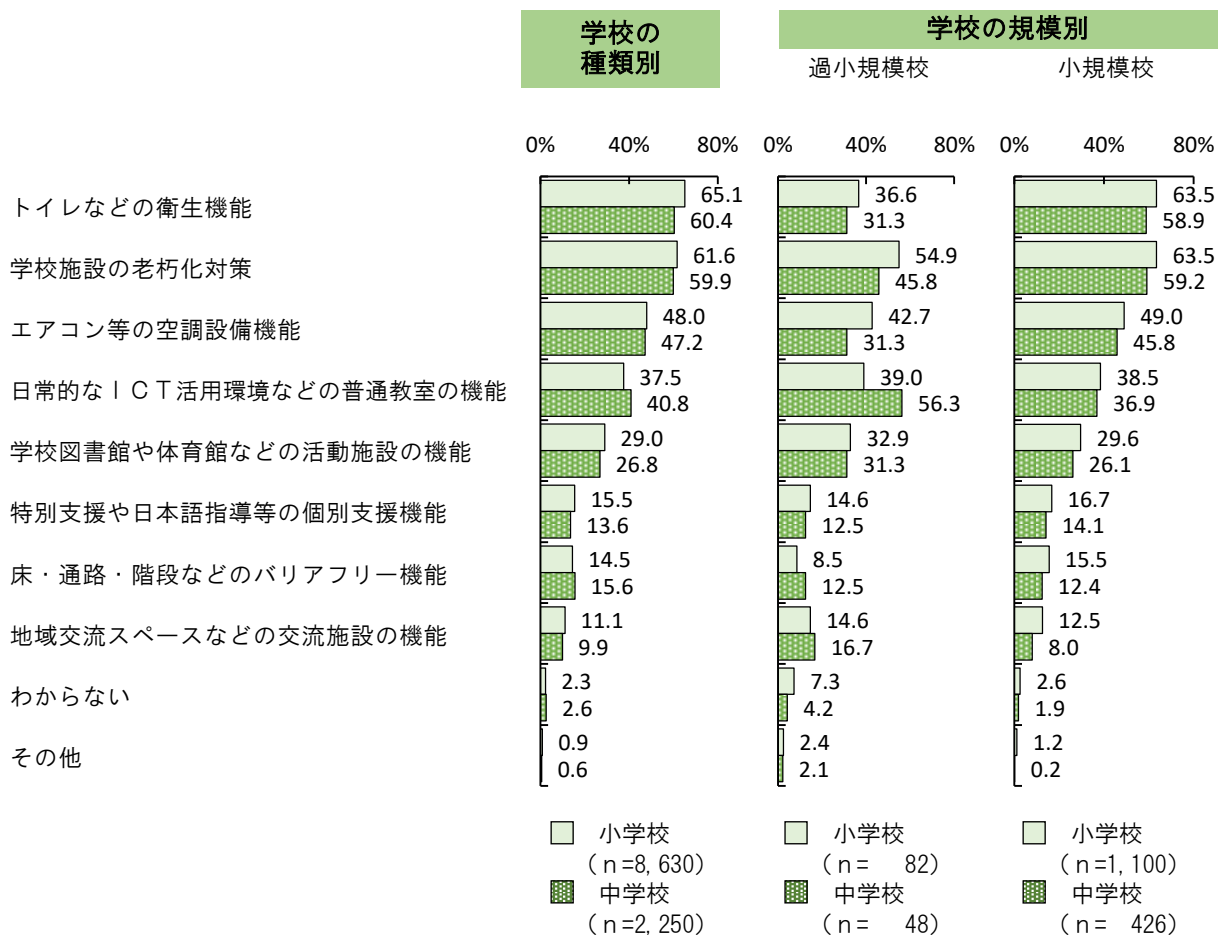


小・中学生調査では、「トイレなどの衛生機能」が64.2%と最も多く、次いで「学校施設の老朽化対策」が61.2%、「エアコン等の空調設備機能」が47.9%などとなっています。

未就学児調査では、「エアコン等の空調設備機能」が68.1%と最も多く、次いで「学校施設の老朽化対策」が62.5%、「トイレなどの衛生機能」が56.9%などとなっています。

学校の種類別でみると、大きな差異はみられません。

学校の規模別でみると、小学校・中学校ともに《過小規模校》で「学校図書館や体育館などの活動施設の機能」が3割を超えて多く、《【小学校】過小規模校》で「床・通路・階段などのバリアフリー機能」が1割を下回って少なくなっています。また、《【小学校】大規模校》で「トイレなどの衛生機能」が7割を超えて多く、《【小学校】大規模校》・《【中学校】小規模校》で「地域交流スペースなどの交流施設の機能」が1割を下回って少なくなっています。さらに、《【中学校】過小規模校》で「学校施設の老朽化対策」、「エアコン等の空調設備機能」が少なく、「日常的なICT活用環境などの普通教室の機能」が半数を超えて多くなっています。

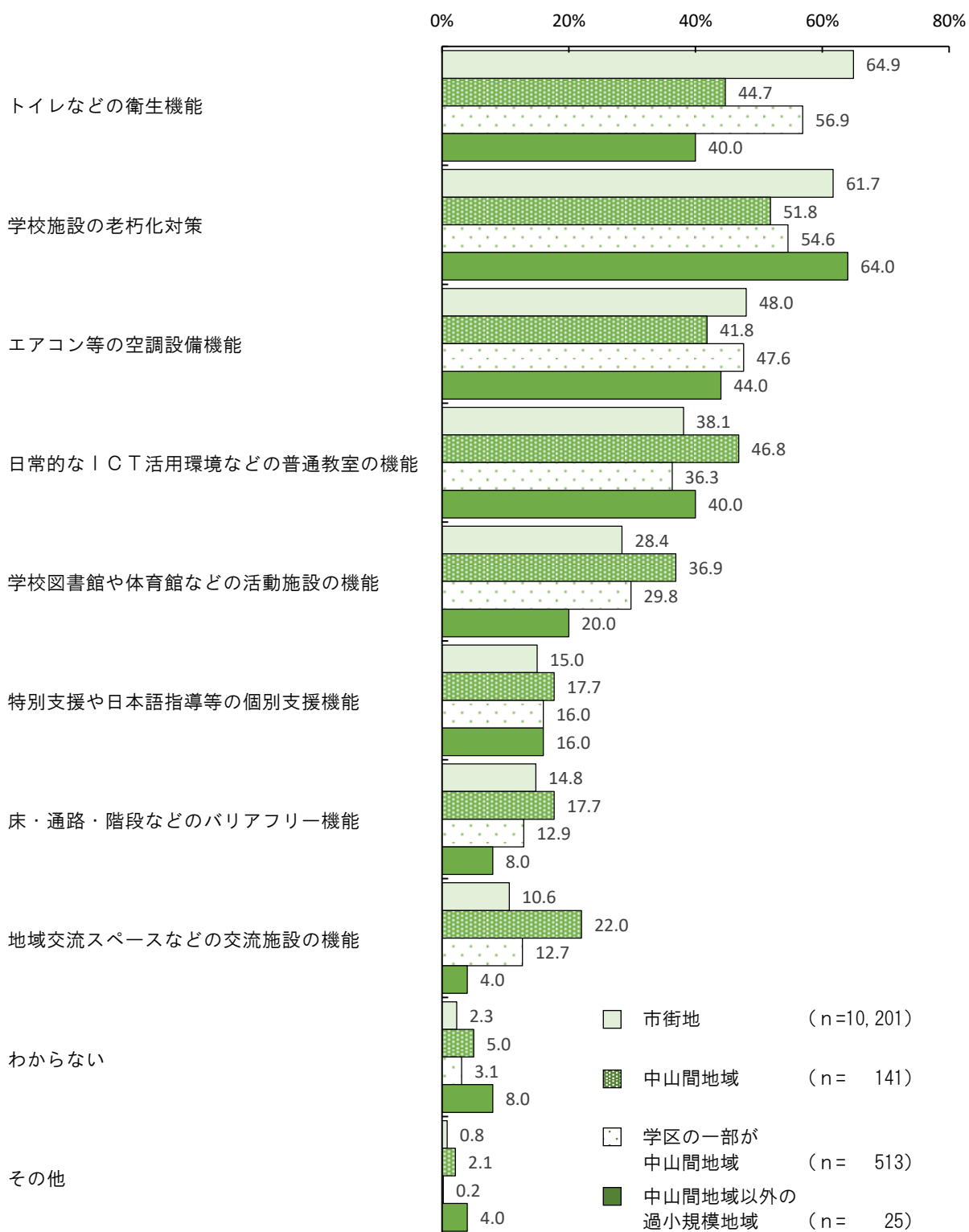


小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す

	調査数（n）	トイレなどの衛生機能	学校施設の老朽化対策	エアコン等の空調設備機能	日常的なICT活用環境などの機能	学校の図書館や体育館などの活動施設	特別支援や日本語指導等の個別支援機能	床・通路・階段などのバリアフリー機能	地域交流スペースなどの交流施設の機能	わからない	その他
全体の割合より15ポイント以上多い											
全体の割合より15ポイント以上少ない											
全 体	10,880	64.2	61.2	47.9	38.1	28.6	15.1	14.8	10.8	2.4	0.8
籠上中学校	262	71.8	67.2	48.9	42.7	27.9	14.5	18.7	11.1	0.8	0.4
末広中学校	278	68.3	57.2	46.4	37.8	26.3	19.8	13.7	12.9	3.6	1.1
安倍川中学校	222	59.9	58.1	59.9	39.2	36.9	16.2	13.5	9.0	2.7	1.4
美和中学校	151	54.3	62.3	49.7	41.1	34.4	13.2	8.6	11.3	3.3	0.7
城内中学校	374	51.9	48.9	49.7	43.3	35.3	17.4	13.4	9.1	3.5	1.1
安東中学校	891	72.6	65.8	49.0	35.1	29.5	13.9	15.5	9.3	1.1	0.4
東中学校	845	71.2	69.9	49.7	40.0	27.0	16.4	17.8	11.0	2.1	1.3
西奈中学校	398	63.3	60.8	46.2	39.2	25.1	12.1	13.8	8.3	3.3	0.5
観山中学校	388	61.6	70.6	48.5	36.9	26.0	13.1	16.8	8.5	1.0	1.0
竜爪中学校	318	58.5	57.5	51.9	34.6	32.4	17.6	15.7	11.3	2.8	0.0
賤機中学校	264	66.3	64.4	46.2	40.9	25.8	14.4	17.8	13.6	1.5	0.0
大河内中学校	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
梅ヶ島中学校	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
玉川中学校	7	42.9	42.9	28.6	28.6	42.9	28.6	14.3	57.1	0.0	14.3
井川中学校	4	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
服織中学校	359	67.1	68.2	43.7	33.7	30.6	16.4	17.0	11.7	2.5	0.8
藁科中学校	34	35.3	55.9	41.2	64.7	41.2	20.6	26.5	32.4	5.9	0.0
大川中学校	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
大里中学校	416	68.0	62.5	47.6	37.7	31.5	14.2	13.9	8.7	2.2	1.0
南中学校	366	47.5	53.8	42.6	38.8	25.7	16.1	12.6	10.9	4.1	0.5
中島中学校	89	46.1	61.8	48.3	33.7	30.3	18.0	13.5	11.2	3.4	1.1
豊田中学校	199	71.9	74.9	48.2	37.2	29.6	17.1	16.6	10.6	1.5	0.5
東豊田中学校	537	72.6	55.5	46.4	41.9	27.9	15.1	12.8	10.8	1.1	0.4
高松中学校	425	66.6	57.4	46.4	38.1	27.1	12.2	11.3	9.9	3.5	0.2
長田西中学校	349	70.5	60.7	42.1	34.7	22.9	13.5	13.2	12.6	2.3	1.4
長田南中学校	358	76.3	55.9	46.9	34.4	26.8	15.1	14.0	8.1	2.2	0.8
城山中学校	122	63.1	58.2	40.2	39.3	29.5	20.5	18.0	12.3	3.3	0.8
清水第一中学校	221	68.8	53.8	48.4	38.5	29.0	14.0	12.7	6.3	0.9	0.9
清水第二中学校	393	62.8	63.4	48.9	37.4	27.7	13.5	18.1	12.7	2.5	0.8
清水第三中学校	79	62.0	73.4	59.5	31.6	25.3	19.0	11.4	10.1	2.5	0.0
清水第四中学校	260	65.4	69.6	41.5	35.4	26.5	13.5	15.8	11.5	2.3	0.8
清水第五中学校	79	65.8	64.6	41.8	32.9	22.8	20.3	19.0	7.6	2.5	0.0
清水第六中学校	302	64.2	74.8	52.3	36.1	26.8	14.9	14.6	12.9	3.0	0.7
清水第七中学校	446	62.6	60.1	51.8	36.3	27.1	16.8	16.1	11.7	1.1	0.7
清水第八中学校	189	58.2	63.0	56.1	46.6	36.5	12.2	13.8	13.8	2.1	1.6
清水飯田中学校	443	54.9	44.7	47.6	35.0	30.2	13.8	10.8	11.1	3.6	1.8
清水袖師中学校	140	57.9	68.6	46.4	37.9	25.0	11.4	12.1	12.1	1.4	0.7
清水庵原中学校	175	50.3	41.7	40.6	41.7	32.0	19.4	12.0	14.3	4.6	0.6
清水興津中学校	227	60.8	54.2	47.6	34.4	23.3	13.2	16.7	10.6	4.4	0.4
清水小島中学校	47	48.9	70.2	46.8	44.7	36.2	8.5	8.5	12.8	0.0	2.1
清水両河内中学校	23	39.1	34.8	65.2	65.2	47.8	26.1	13.0	13.0	4.3	4.3
蒲原中学校	83	54.2	62.7	45.8	41.0	30.1	20.5	12.0	12.0	2.4	0.0
由比中学校	114	40.4	57.9	46.5	53.5	31.6	17.5	15.8	11.4	1.8	0.9

学区の種類別



小中一貫教育グループ校別でみると、《藁科中学校》で「床・通路・階段などのバリアフリー機能」、「地域交流スペースなどの交流施設の機能」が多く、《清水小島中学校》で「特別支援や日本語指導等の個別支援機能」が1割を下回って少なくなっています。また、《藁科中学校》・《清水両河内中学校》で「トイレなどの衛生機能」が4割を下回って少なく、「日常的なICT活用環境などの普通教室の機能」、「学校図書館や体育館などの活動施設の機能」が多くなっています。さらに、《清水両河内中学校》で「学校施設の老朽化対策」が4割を下回って少なく、「エアコン等の空調設備機能」が6割を超えて多くなっています。

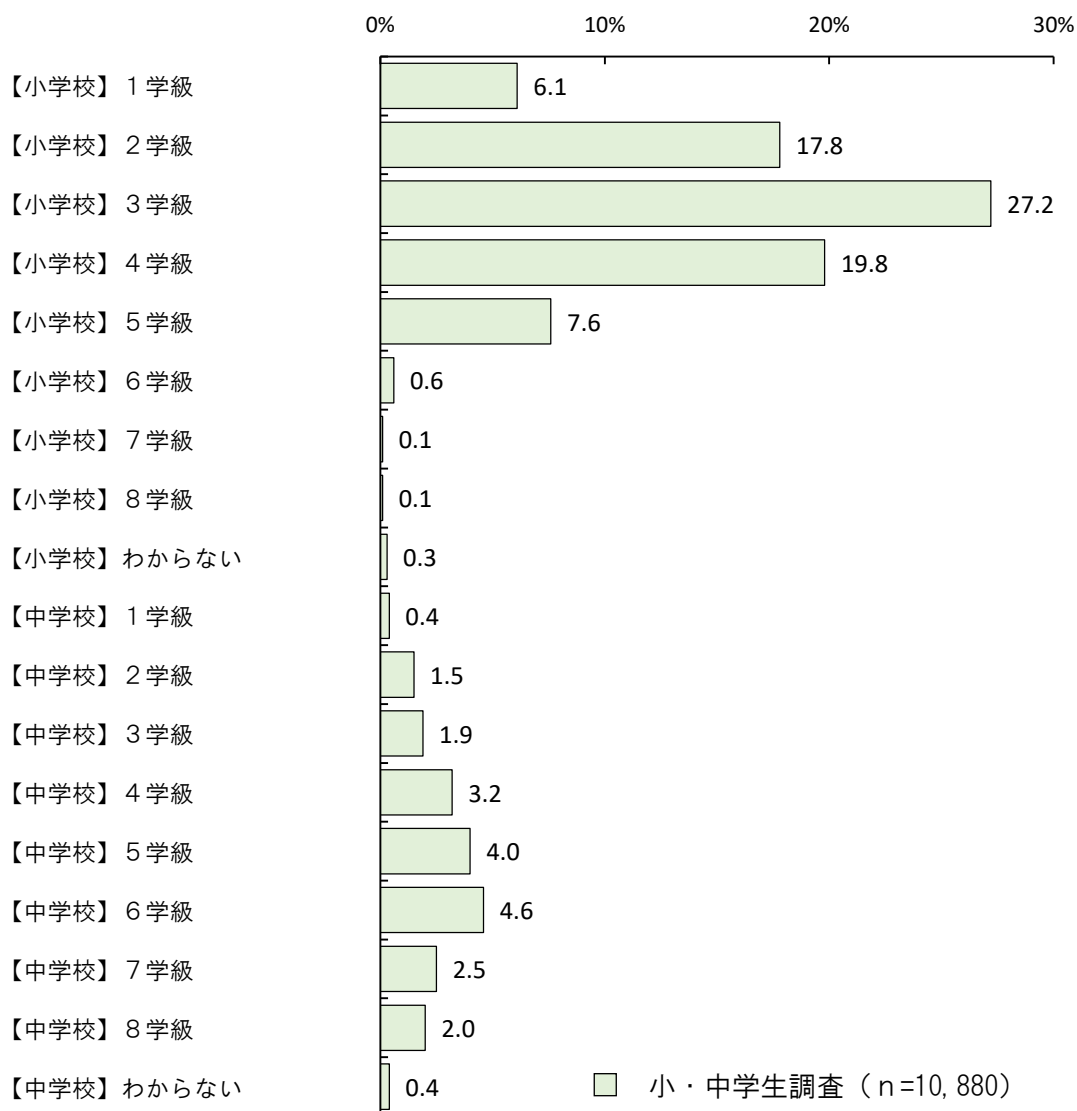
学区の種類別でみると、《市街地》で「トイレなどの衛生機能」が6割を超えて多く、《中山間地域》で「学校図書館や体育館などの活動施設の機能」、「地域交流スペースなどの交流施設の機能」が多くなっています。また、《中山間地域》・《学区の一部が中山間地域》で「学校施設の老朽化対策」が6割を下回って少なく、《中山間地域》・《中山間地域以外の過小規模地域》で「日常的なICT活用環境などの普通教室の機能」が4割を超えて多くなっています。さらに、《中山間地域以外の過小規模地域》で「床・通路・階段などのバリアフリー機能」が1割を下回って少なくなっています。

【小・中学生調査：問5】

お子さんが在籍している学年の学級数について、お答えください。

※小・中学校に兄弟姉妹がいる家庭については、未子を対象にお答えください。

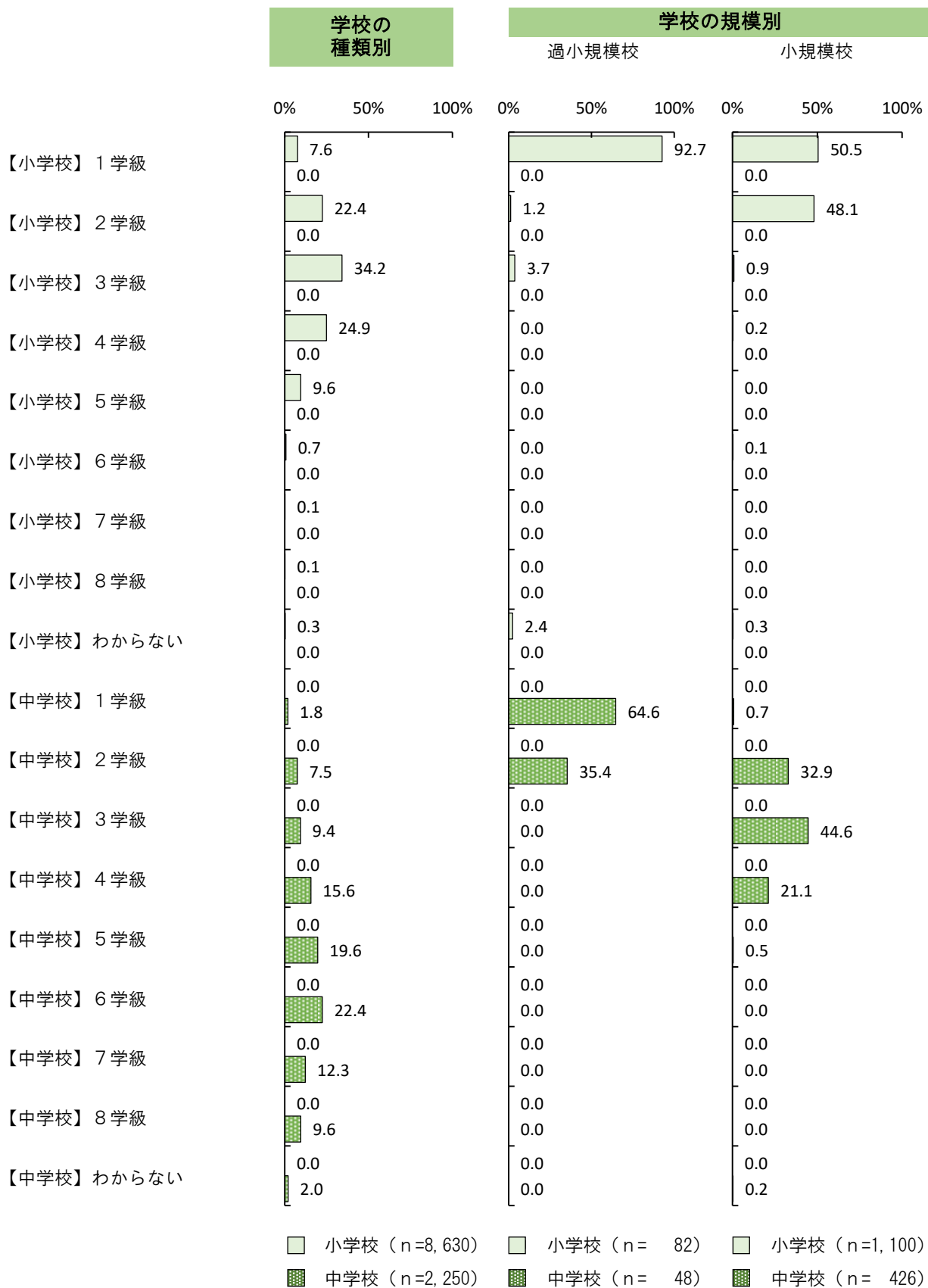
1) お子さんが在籍している学年の学級数

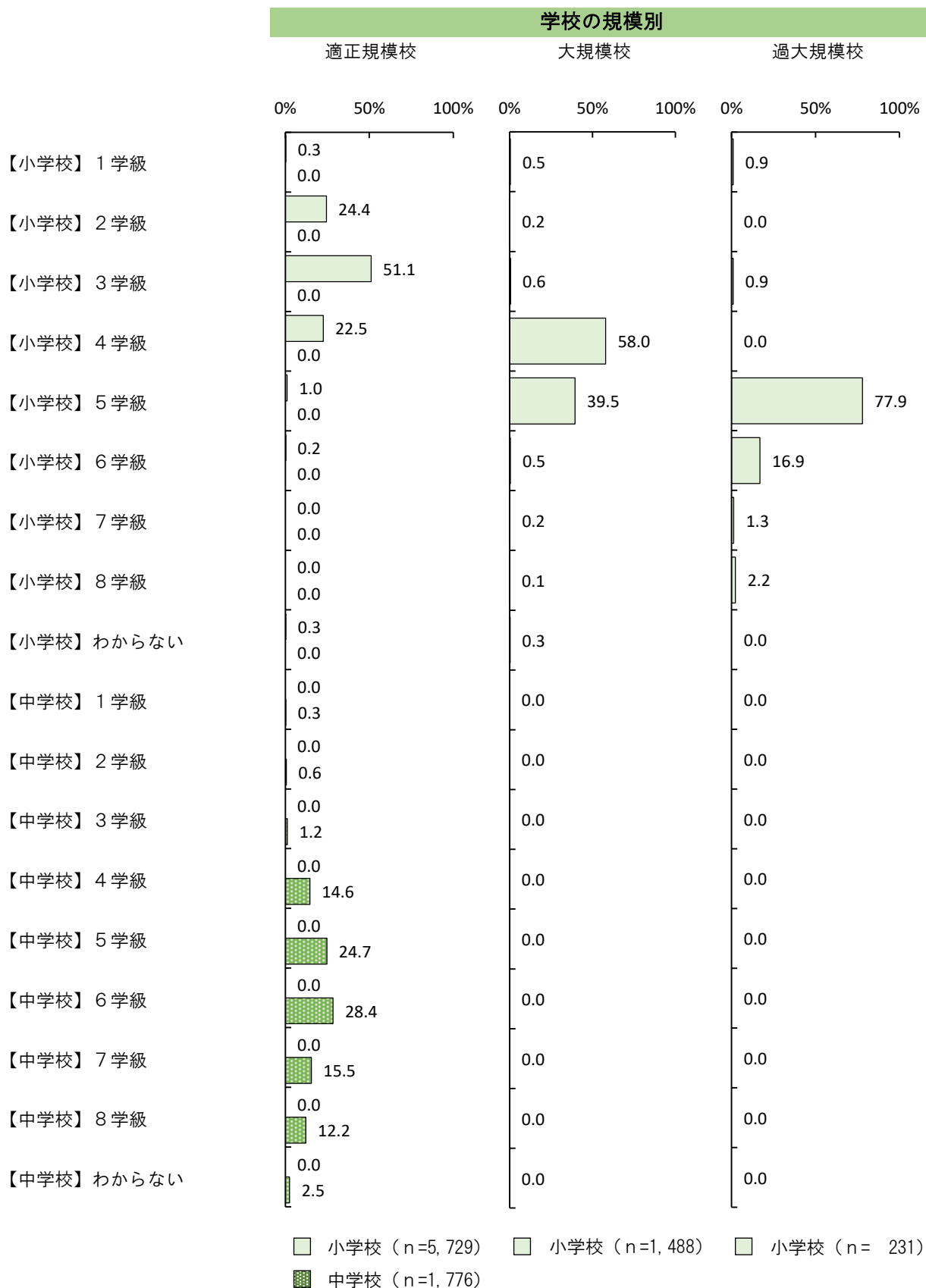


お子さんが在籍している学年の学級数は、「【小学校】3学級」が27.2%と最も多く、次いで「【小学校】4学級」が19.8%、「【小学校】2学級」が17.8%などとなっています。

学校の種類別でみると、《小学校》で「【小学校】2学級」、「【小学校】3学級」、「【小学校】4学級」が多く、《中学校》で「【中学校】6学級」が多くなっています。

学校の規模別でみると、小学校・中学校ともに《過小規模校》で「1学級」が6割を超えて多く、《【小学校】過大規模校》で「【小学校】5学級」が7割を超えて多くなっています。





小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す

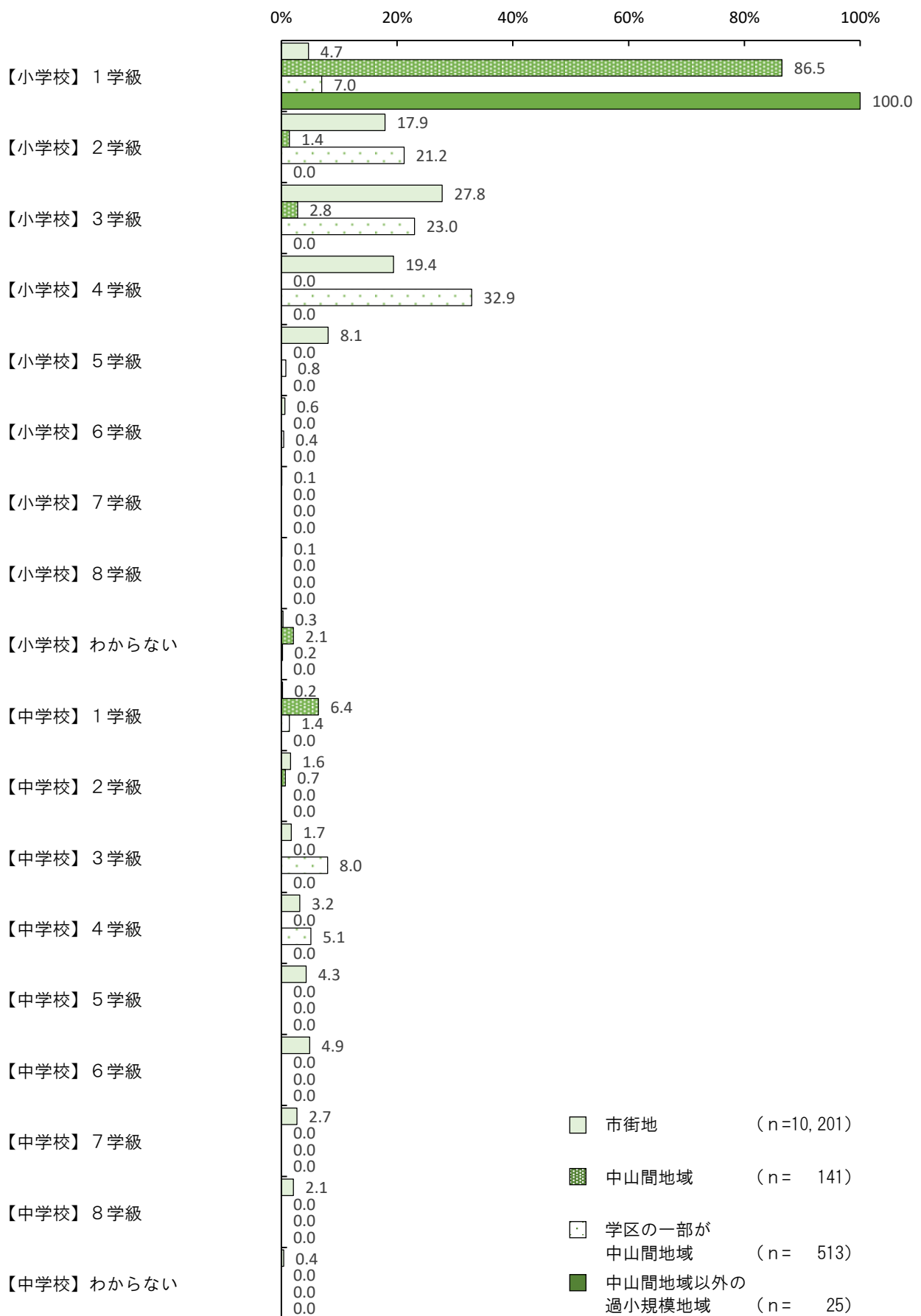
	調査数 (n)	【小学校】 1学級	【小学校】 2学級	【小学校】 3学級	【小学校】 4学級	【小学校】 5学級	【小学校】 6学級	【小学校】 7学級	【小学校】 8学級	【小学校】 わからない
全体の割合より 15ポイント以上多い										
全体の割合より 15ポイント以上少ない										
全 体	10,880	6.1	17.8	27.2	19.8	7.6	0.6	0.1	0.1	0.3
籠上中学校	262	0.4	41.2	24.4	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.4
末広中学校	278	21.2	36.3	34.9	6.8	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0
安倍川中学校	222	23.4	64.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
美和中学校	151	68.2	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
城内中学校	374	0.8	17.1	13.6	28.3	4.0	0.0	0.0	0.0	0.8
安東中学校	891	0.4	0.1	41.4	37.7	5.5	0.1	0.0	0.0	0.4
東中学校	845	0.4	0.1	16.9	47.5	6.7	0.4	0.2	0.0	0.4
西奈中学校	398	0.8	0.3	28.6	52.8	0.3	0.3	0.0	0.0	1.0
観山中学校	388	0.5	33.0	42.5	1.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
竜爪中学校	318	2.5	0.3	21.7	53.1	1.3	0.6	0.0	0.0	0.6
賤機中学校	264	8.3	1.5	50.4	10.6	1.9	1.1	0.0	0.0	0.8
大河内中学校	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
梅ヶ島中学校	1	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉川中学校	7	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
井川中学校	4	-	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
服織中学校	359	16.4	0.6	0.6	0.0	50.1	10.9	0.8	1.4	0.3
藁科中学校	34	79.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大川中学校	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大里中学校	416	-	0.0	37.3	41.6	0.5	0.5	0.2	0.0	0.2
南中学校	366	9.6	39.6	26.2	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
中島中学校	89	-	53.9	12.4	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
豊田中学校	199	0.5	0.0	0.0	13.1	74.9	1.0	0.0	0.0	0.5
東豊田中学校	537	0.2	0.4	26.6	22.2	31.8	0.0	0.2	0.4	0.0
高松中学校	425	0.5	54.8	29.9	2.6	2.1	0.0	0.0	0.0	0.2
長田西中学校	349	-	0.9	66.8	12.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
長田南中学校	358	-	8.7	24.0	31.3	19.8	0.0	0.0	0.0	0.0
城山中学校	122	1.6	31.1	50.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.8	0.8
清水第一中学校	221	9.5	70.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水第二中学校	393	9.2	1.8	43.8	14.8	0.5	0.0	0.0	0.0	0.3
清水第三中学校	79	51.9	35.4	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水第四中学校	260	5.0	60.8	9.6	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水第五中学校	79	30.4	35.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
清水第六中学校	302	0.3	36.1	33.8	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3
清水第七中学校	446	0.4	0.2	4.3	45.7	22.2	0.4	0.0	0.0	0.0
清水第八中学校	189	1.1	0.0	29.1	67.2	0.5	0.5	0.0	0.5	0.0
清水飯田中学校	443	-	30.2	39.1	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.2
清水袖師中学校	140	-	26.4	38.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水庵原中学校	175	-	60.6	28.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水興津中学校	227	-	1.3	80.2	0.9	1.3	0.9	0.0	0.0	0.0
清水小島中学校	47	83.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1
清水両河内中学校	23	78.3	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
蒲原中学校	83	51.8	22.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
由比中学校	114	23.7	55.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す

	調査数（n）	【中学校】	【中学校】	【中学校】	【中学校】	【中学校】	【中学校】	【中学校】	【中学校】	【中学校】
		1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	わからない
全体の割合より 15ポイント以上多い										
全体の割合より 15ポイント以上少ない										
全 体	10,880	0.4	1.5	1.9	3.2	4.0	4.6	2.5	2.0	0.4
籠上中学校	262	0.0	0.0	0.4	21.0	9.9	1.5	0.0	0.0	0.0
末広中学校	278	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
安倍川中学校	222	0.0	4.5	7.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
美和中学校	151	0.0	0.0	12.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
城内中学校	374	0.8	1.1	0.8	8.6	21.9	0.8	0.0	0.0	1.3
安東中学校	891	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	13.5	0.2	0.0	0.2
東中学校	845	0.1	0.1	0.1	0.5	0.1	0.6	5.4	18.9	1.5
西奈中学校	398	0.3	0.0	6.5	8.8	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0
観山中学校	388	0.0	0.0	0.0	0.3	6.2	15.5	0.3	0.0	0.3
竜爪中学校	318	0.0	0.3	0.0	18.2	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0
賤機中学校	264	0.0	0.0	15.5	9.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大河内中学校	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
梅ヶ島中学校	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉川中学校	7	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
井川中学校	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
服織中学校	359	0.3	0.0	0.3	0.0	11.7	5.8	0.0	0.6	0.3
藁科中学校	34	20.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大川中学校	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大里中学校	416	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	15.9	2.9	0.2
南中学校	366	0.3	0.3	0.3	0.3	3.8	10.7	7.1	1.1	0.3
中島中学校	89	1.1	31.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
豊田中学校	199	0.0	0.0	0.0	1.0	7.0	0.5	1.0	0.0	0.5
東豊田中学校	537	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	7.4	1.1	3.0	0.9
高松中学校	425	0.0	0.0	0.5	3.1	5.6	0.2	0.0	0.0	0.5
長田西中学校	349	0.0	0.0	0.6	0.6	4.6	12.6	0.3	0.6	0.9
長田南中学校	358	0.0	0.0	0.6	0.0	0.3	12.3	1.7	0.8	0.6
城山中学校	122	0.0	0.0	13.1	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水第一中学校	221	0.5	0.0	7.2	12.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水第二中学校	393	0.0	0.0	0.5	0.3	0.0	17.3	8.1	2.5	1.0
清水第三中学校	79	0.0	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水第四中学校	260	0.0	0.4	0.0	23.5	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
清水第五中学校	79	0.0	30.4	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水第六中学校	302	0.0	1.0	0.7	7.6	18.2	1.3	0.3	0.0	0.0
清水第七中学校	446	0.0	0.0	0.0	0.2	0.9	9.2	15.9	0.4	0.0
清水第八中学校	189	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0
清水飯田中学校	443	0.0	0.0	0.7	0.7	22.1	1.1	3.6	1.1	0.7
清水袖師中学校	140	0.0	13.6	20.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水庵原中学校	175	0.0	9.7	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水興津中学校	227	0.0	6.6	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水小島中学校	47	14.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水両河内中学校	23	17.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
蒲原中学校	83	0.0	21.7	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
由比中学校	114	7.0	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

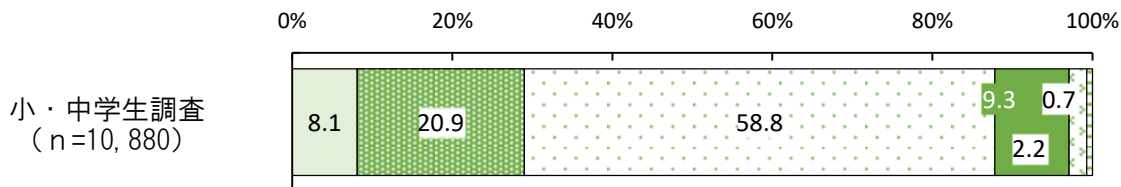
学区の種類別



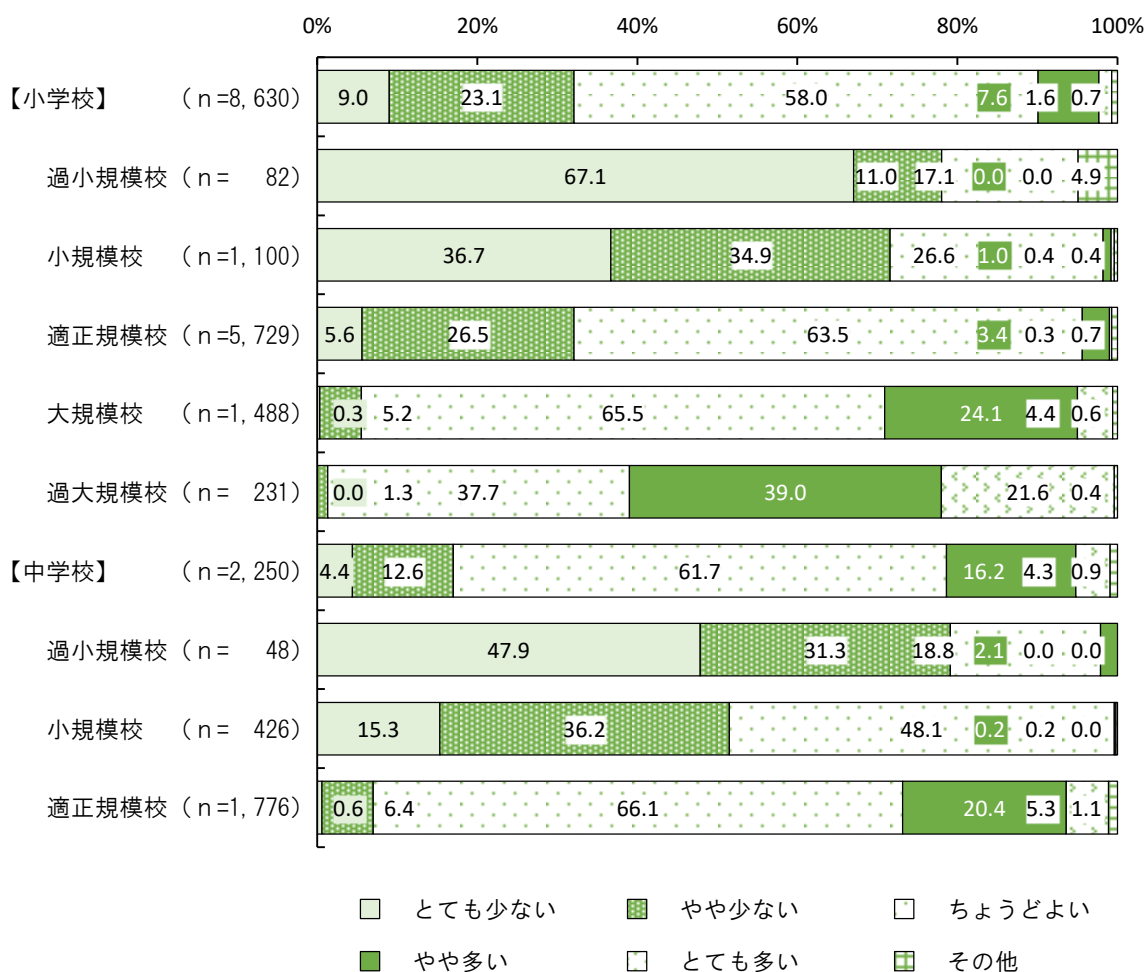
小中一貫教育グループ校別でみると、《豊田中学校》で「【小学校】5学級」が7割を超えて多く、《清水第一中学校》で「【小学校】2学級」が約7割と多くなっています。また、《清水興津中学校》で「【小学校】3学級」が約8割と多く、《清水小島中学校》で「【小学校】1学級」が8割を超えて多くなっています。

学区の種類別でみると、《市街地》・《学区の一部が中山間地域》で「【小学校】3学級」が2割を超えて多く、《学区の一部が中山間地域》で「【小学校】2学級」、「【小学校】4学級」が多くなっています。また、《中山間地域以外の過小規模地域》で「【小学校】1学級」が100.0%と多くなっています。

2) お子さんが在籍している学年の学級数についての考え



学校の種類別・学校の規模別



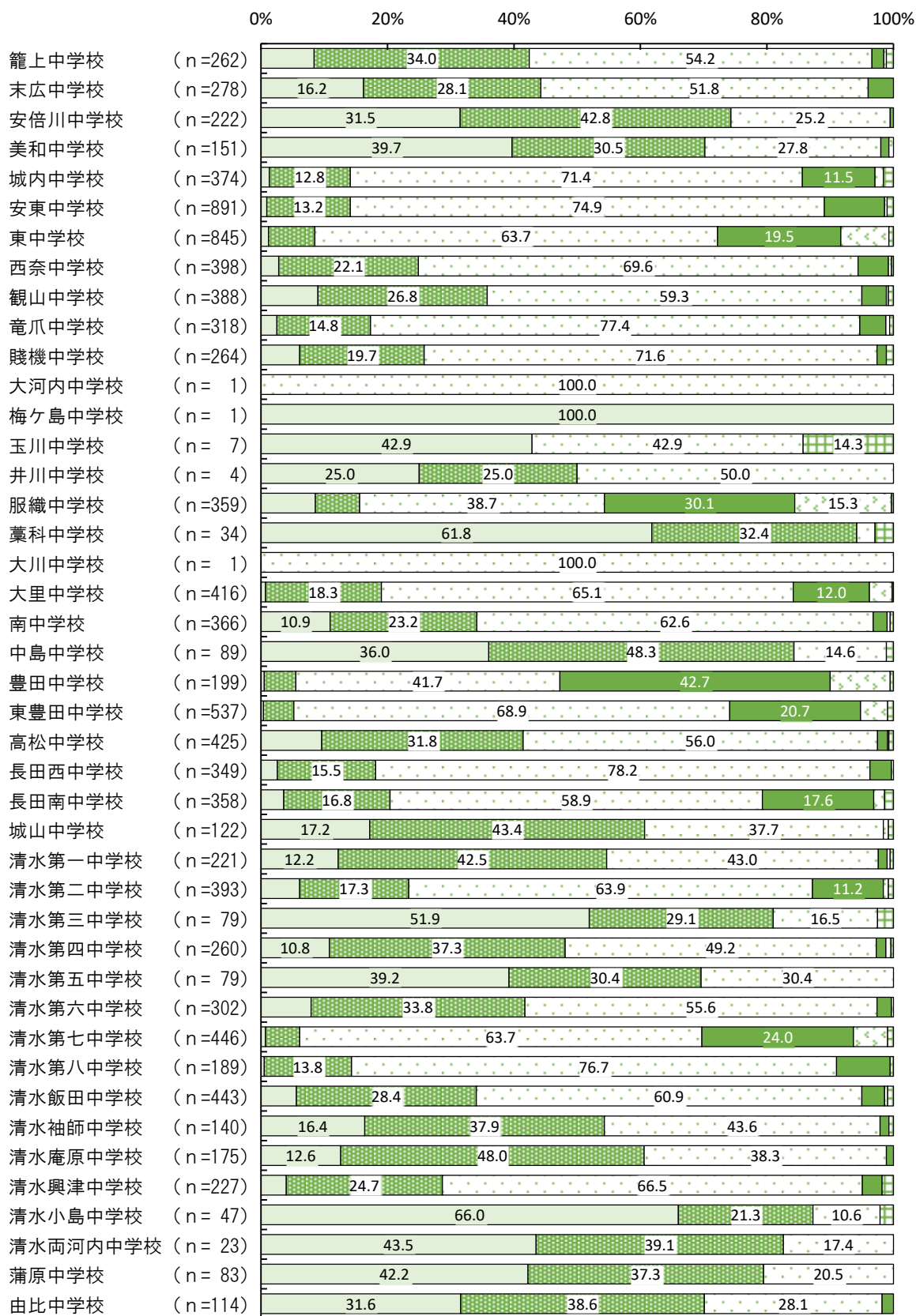
お子さんが在籍している学年の学級数についての考えは、「ちょうどよい」が58.8%と最も多く、次いで「やや少ない」が20.9%、「やや多い」が9.3%などとなっています。また、『少ない』（とても少ない+やや少ない）は29.0%、『多い』（とても多い+やや多い）は11.5%となっています。

学校の種類別でみると、《小学校》で『少ない』が多く、『多い』が少なくなっています。

学校の規模別でみると、《【小学校】過小規模校》・《【小学校】小規模校》・《【中学校】過小規模校》で『少ない』が7割を超えて多く、《【小学校】過大規模校》で『多い』が約6割と多くなっています。また、《【小学校】適正規模校》・《【小学校】大規模校》・《【中学校】適正規模校》で「ちょうどよい」が6割を超えて多くなっています。

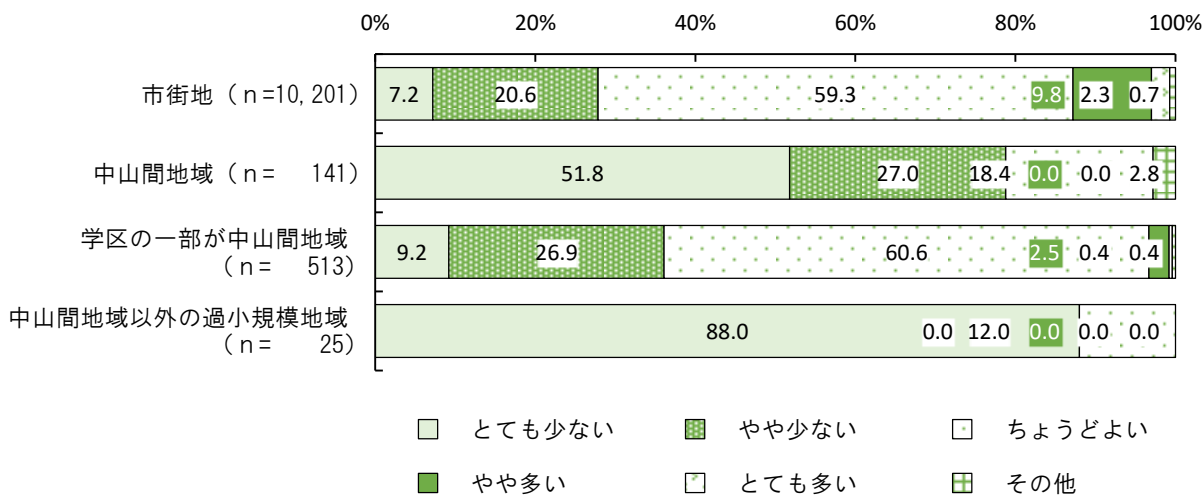
小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す



とても少ない
 やや少ない
 ちょうどよい
 やや多い
 とても多い
 その他

学区の種類別



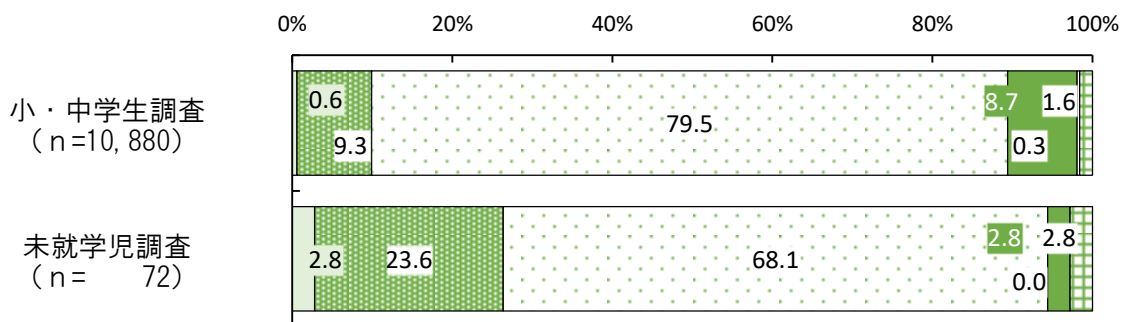
小中一貫教育グループ校別でみると、《藁科中学校》で「ちょうどよい」が1割を下回って少なく、『少ない』が9割を超えて多くなっています。また、《豊田中学校》で『多い』が半数を超えて多くなっています。

学区の種類別でみると、《市街地》で『多い』が1割を超えて多く、《中山間地域以外の過小規模地域》で『少ない』が8割を超えて多くなっています。また、《中山間地域》・《中山間地域以外の過小規模地域》で「ちょうどよい」が2割を下回って少なくなっています。

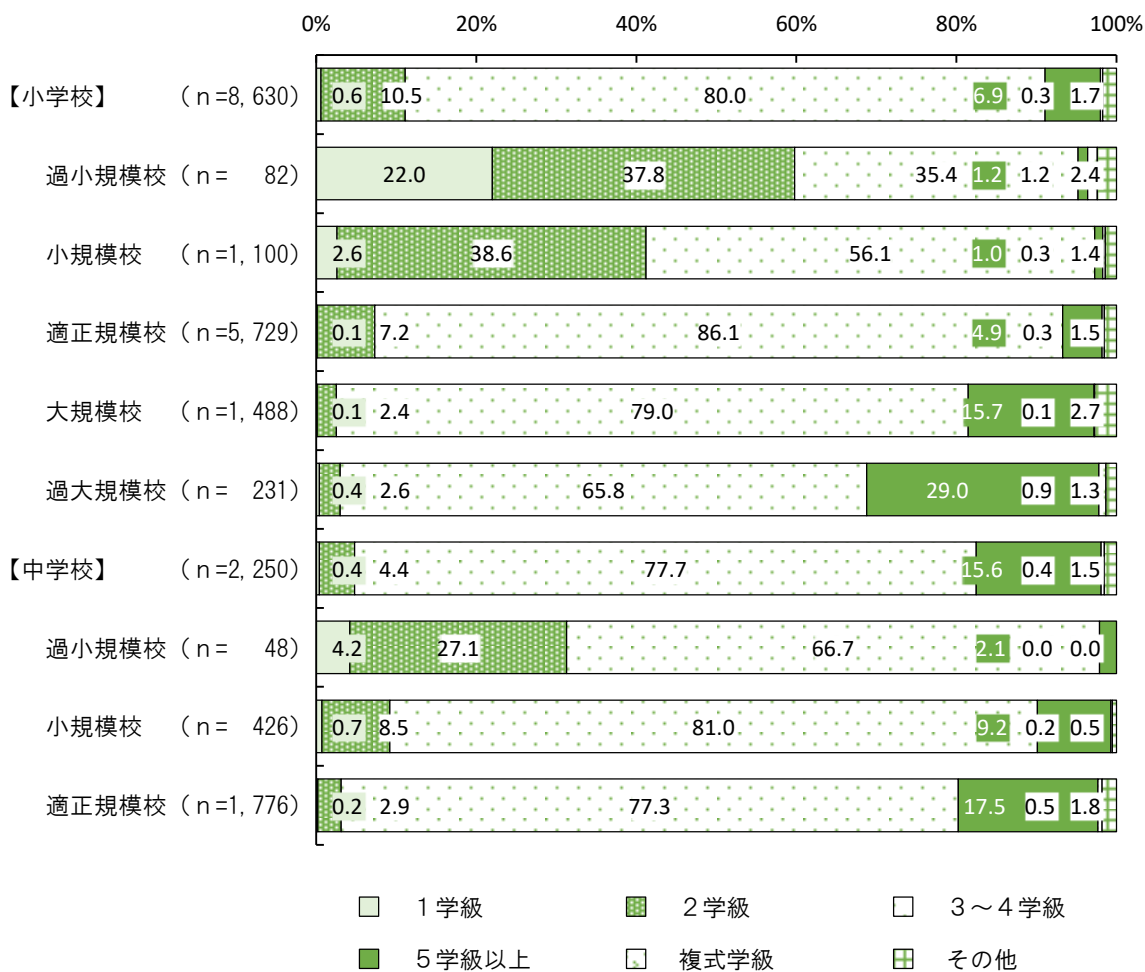
[小・中学生調査：問6・未就学児調査：問5]

小・中学校における望ましいと思う1学年あたりの学級数とその理由について、お答えください。

1) 小学校における1学年あたりの学級数

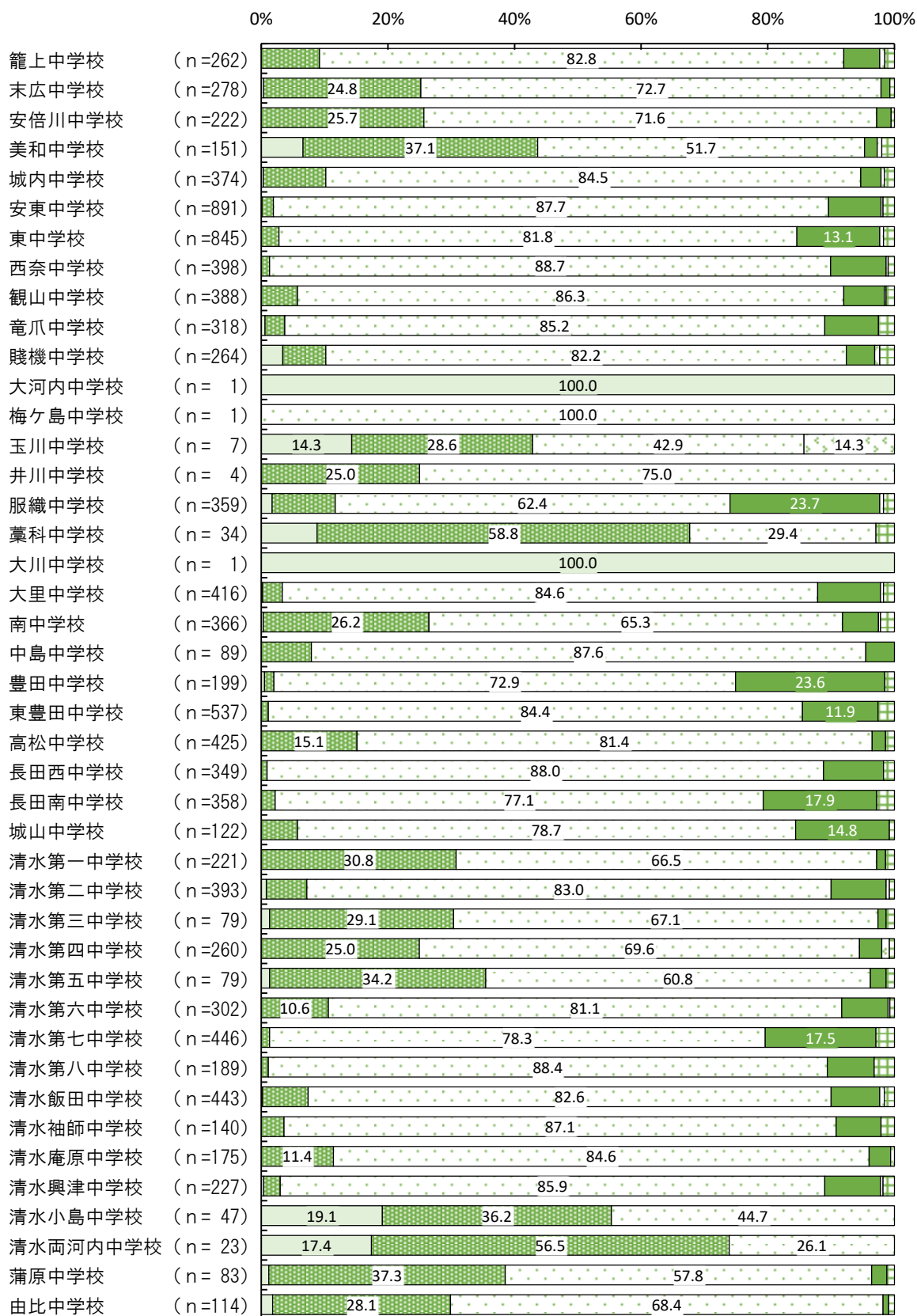


学校の種類別・学校の規模別



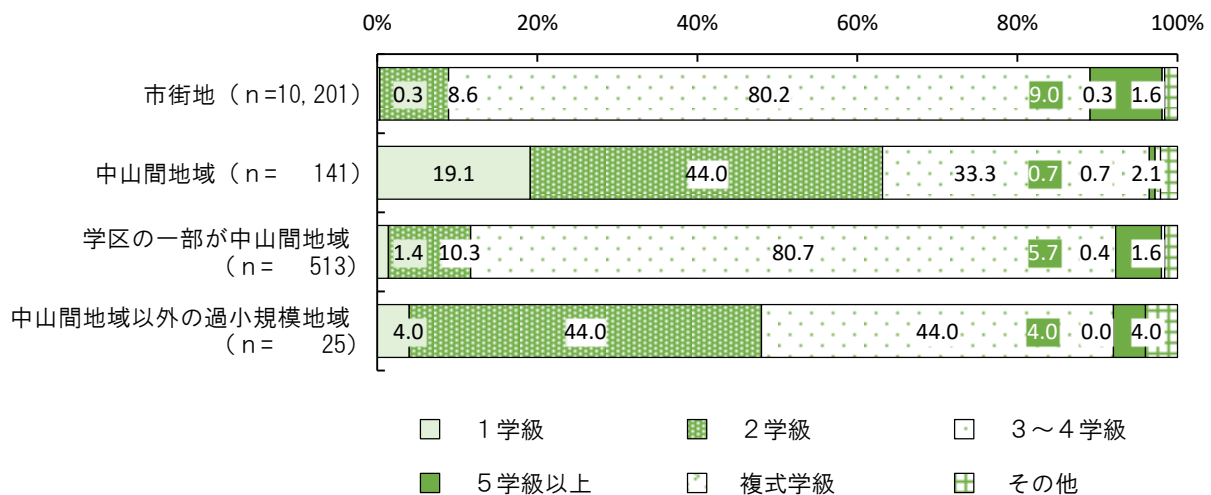
小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す



1学級
 2学級
 3~4学級
 5学級以上
 複式学級
 その他

学区の種類別



小・中学生調査では、「3～4学級」が79.5%と突出しています。

未就学児調査では、「3～4学級」が68.1%と最も多く、次いで「2学級」が23.6%、「1学級」、「5学級以上」、「その他」がそれぞれ2.8%となっています。

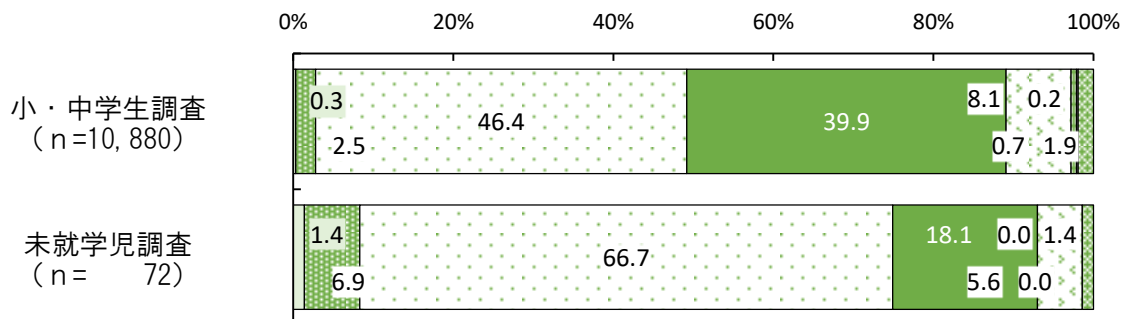
学校の種類別でみると、「小学校」で「2学級」が多く、「5学級以上」が少なくなっています。

学校の規模別でみると、「【小学校】過小規模校」で「1学級」が2割を超えて多く、「3～4学級」が4割を下回って少なくなっています。また、「【小学校】過小規模校」・「【小学校】小規模校」で「2学級」が3割を超えて多く、「【小学校】過大規模校」で「5学級以上」が約3割と多くなっています。

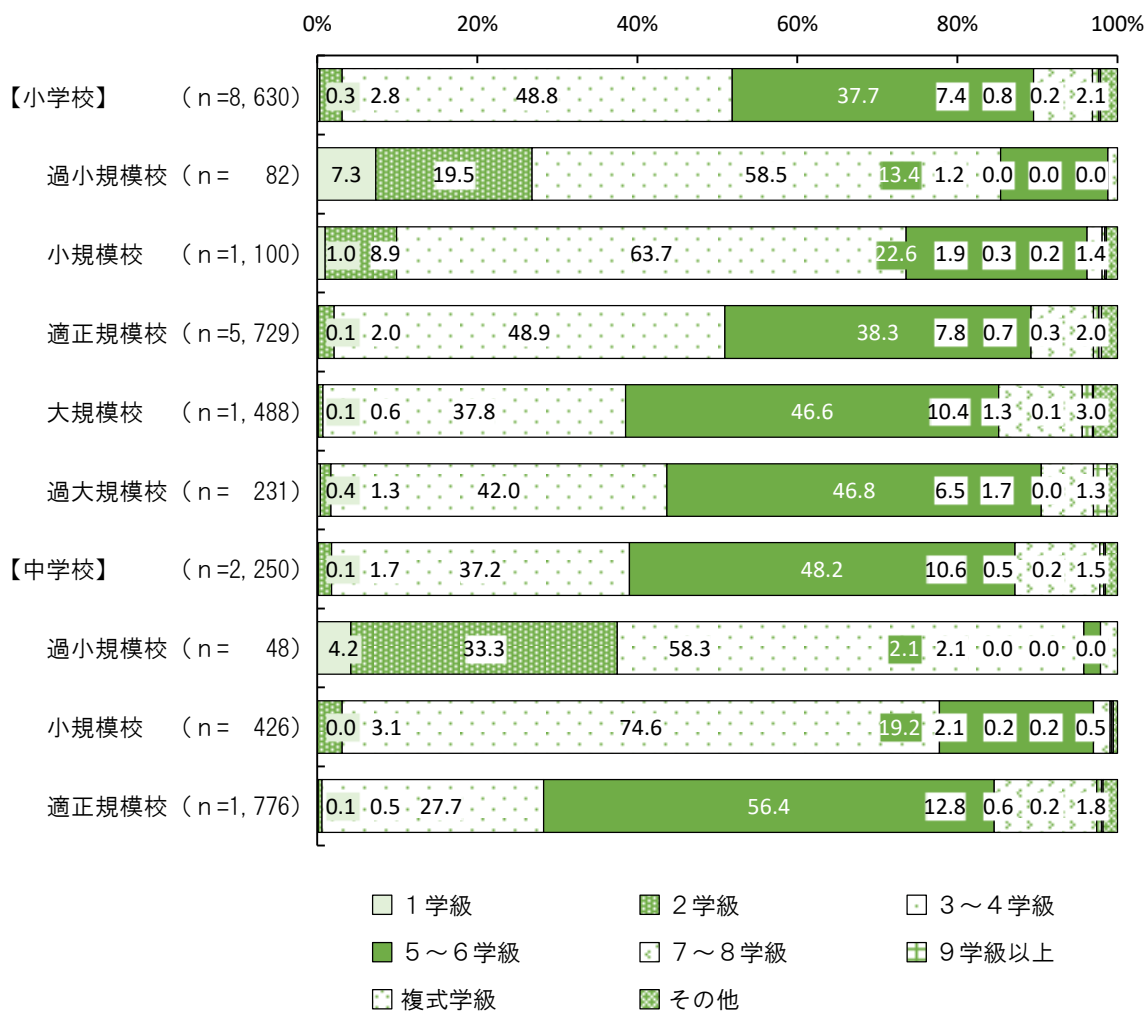
小中一貫教育グループ校別でみると、「服織中学校」・「豊田中学校」で「5学級以上」が2割を超えて多く、「清水小島中学校」・「清水両河内中学校」で「1学級」が1割を超えて多くなっています。また、「藁科中学校」・「清水両河内中学校」で「2学級」が半数を超えて多く、「3～4学級」が3割を下回って少なくなっています。

学区の種類別でみると、「中山間地域」で「1学級」が1割を超えて多く、「3～4学級」が4割を下回って少なくなっています。また、「中山間地域」・「中山間地域以外の過小規模地域」で「2学級」が4割を超えて多くなっています。

2) 中学校における1学年あたりの学級数

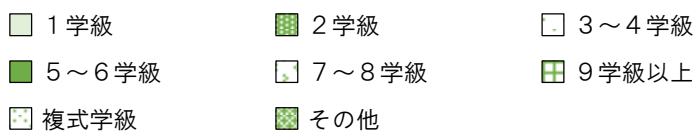
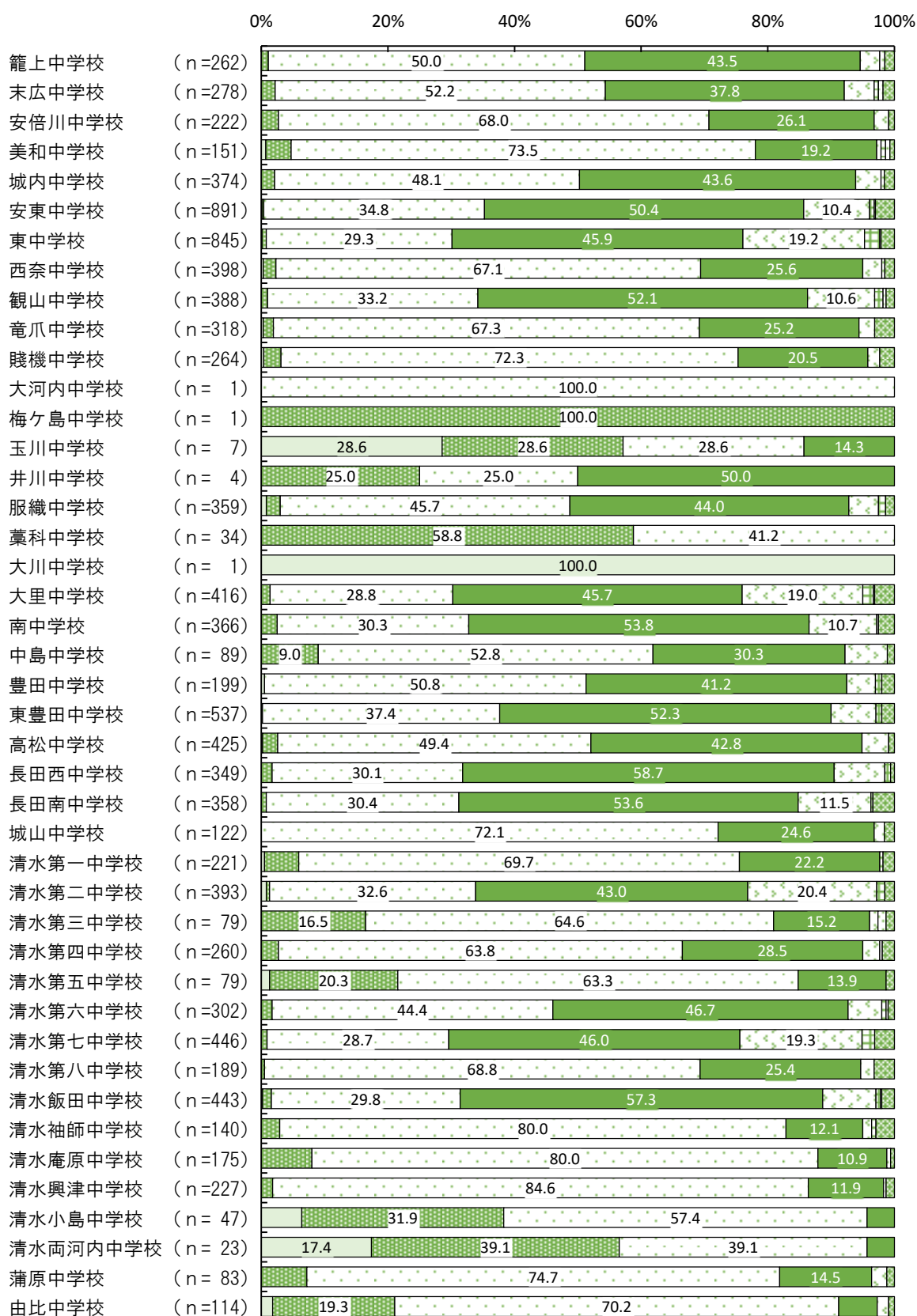


学校の種類別・学校の規模別

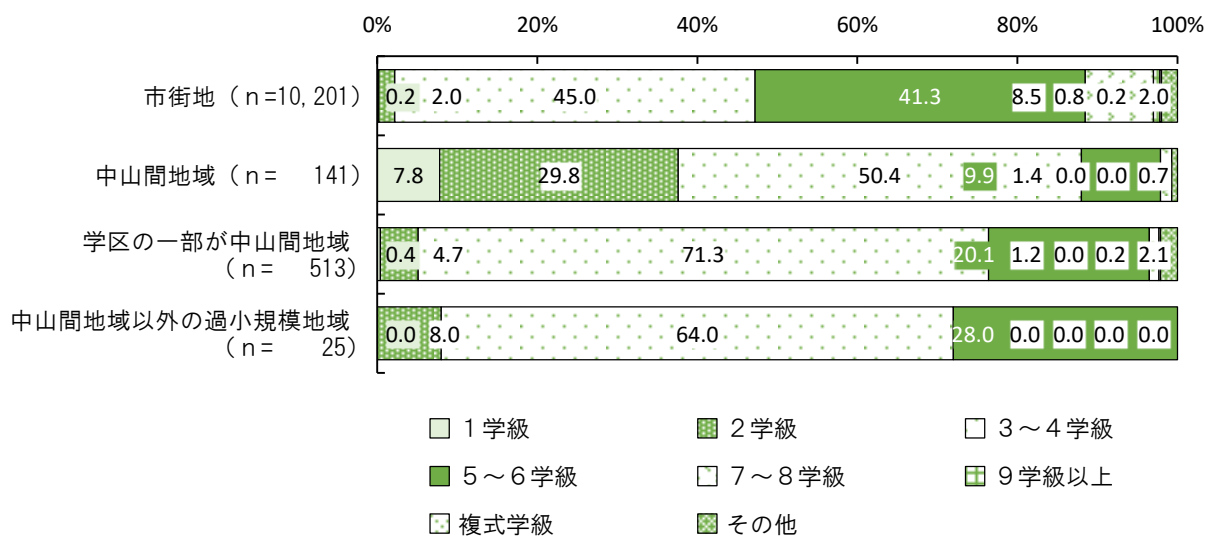


小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す



学区の種類別



小・中学生調査では、「3～4学級」が46.4%と最も多く、次いで「5～6学級」が39.9%、「7～8学級」が8.1%などとなっています。

未就学児調査では、「3～4学級」が66.7%と最も多く、次いで「5～6学級」が18.1%、「2学級」が6.9%などとなっています。

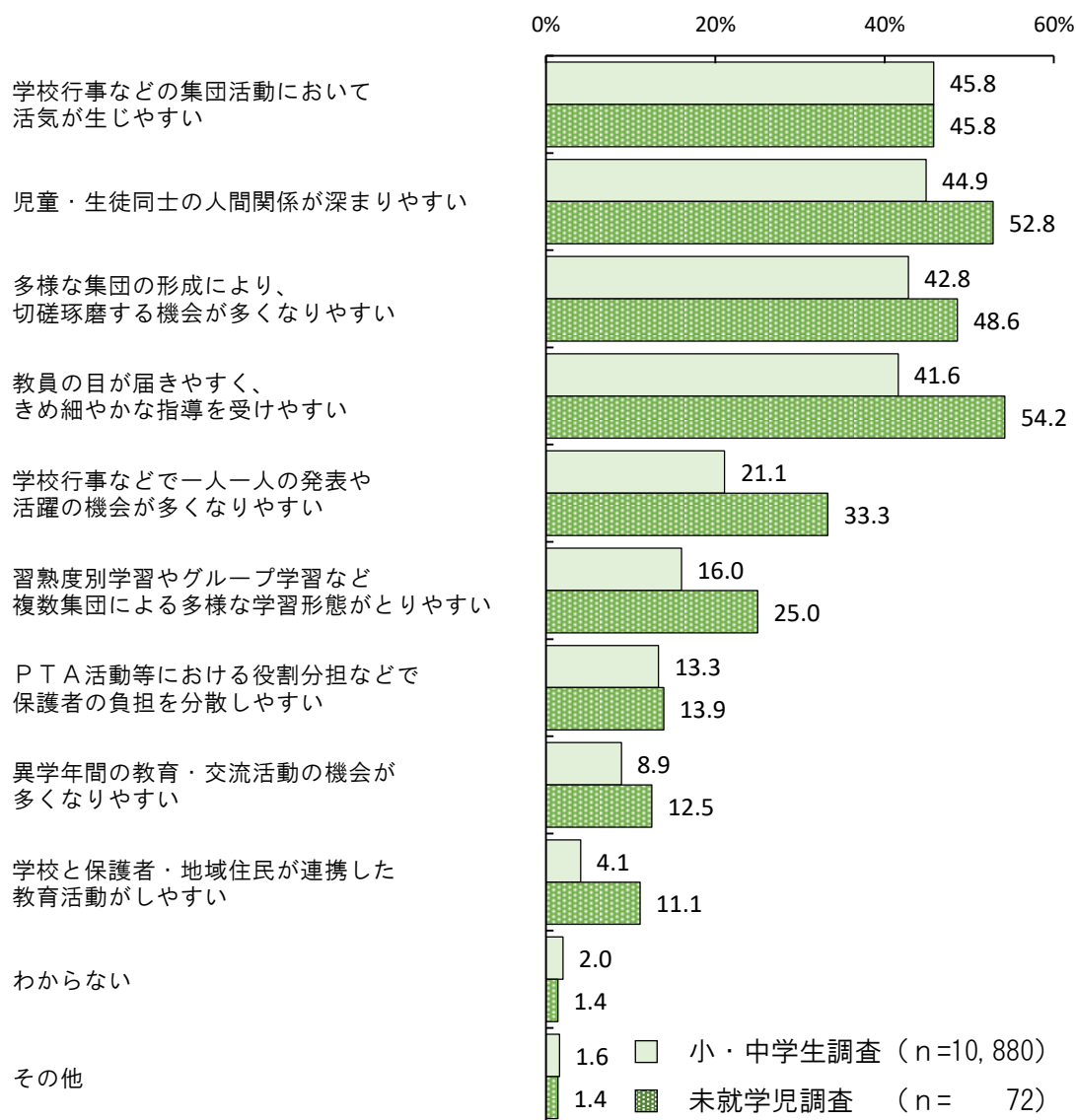
学校の種類別でみると、《小学校》で「3～4学級」が多く、「5～6学級」が少なくなっています。

学校の規模別でみると、《【小学校】大規模校》・《【中学校】適正規模校》で「7～8学級」が1割を超えて多く、《【中学校】過小規模校》で「2学級」が3割を超えて多くなっています。また、《【中学校】小規模校》で「3～4学級」が7割を超えて多く、《【中学校】適正規模校》で「5～6学級」が半数を超えて多くなっています。

小中一貫教育グループ校別でみると、《藁科中学校》で「2学級」が半数を超えて多く、《藁科中学校》・《清水小島中学校》・《清水両河内中学校》・《由比中学校》で「5～6学級」が1割を下回って少なくなっています。また、《清水第二中学校》で「7～8学級」が約2割と多く、《清水袖師中学校》・《清水庵原中学校》・《清水興津中学校》で「3～4学級」が8割を超えて多くなっています。さらに、《清水両河内中学校》で「1学級」が1割を超えて多くなっています。

学区の種類別でみると、《中山間地域》で「2学級」が約3割と多く、「5～6学級」が約1割と少なくなっています。また、《学区の一部が中山間地域》で「3～4学級」が7割を超えて多くなっています。

3) ①小学校における1学年あたりの学級数として、その学級数を選択した理由（複数選択可）

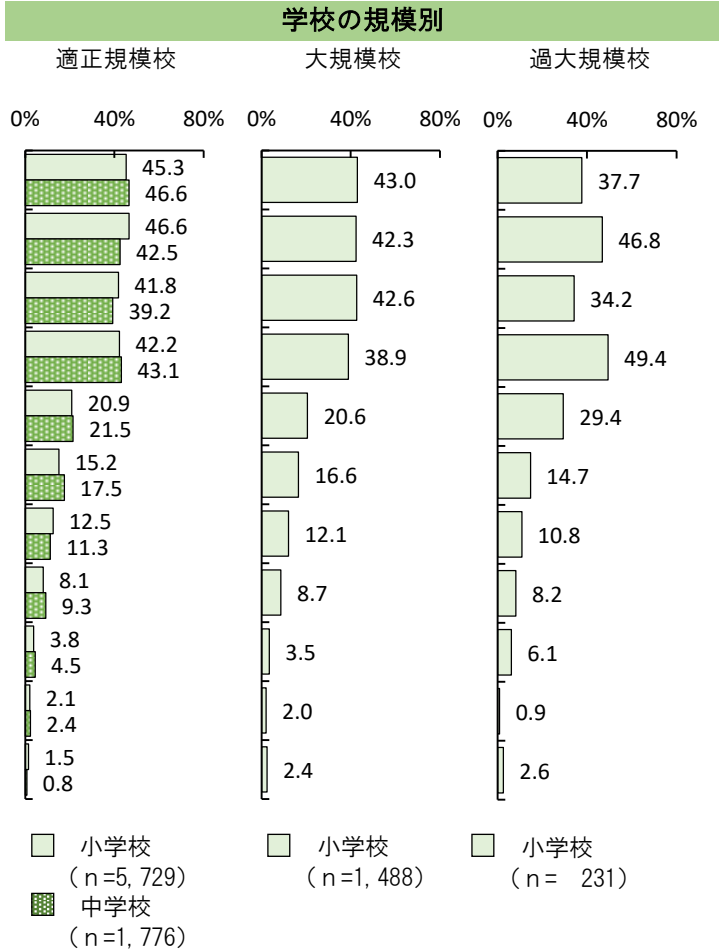
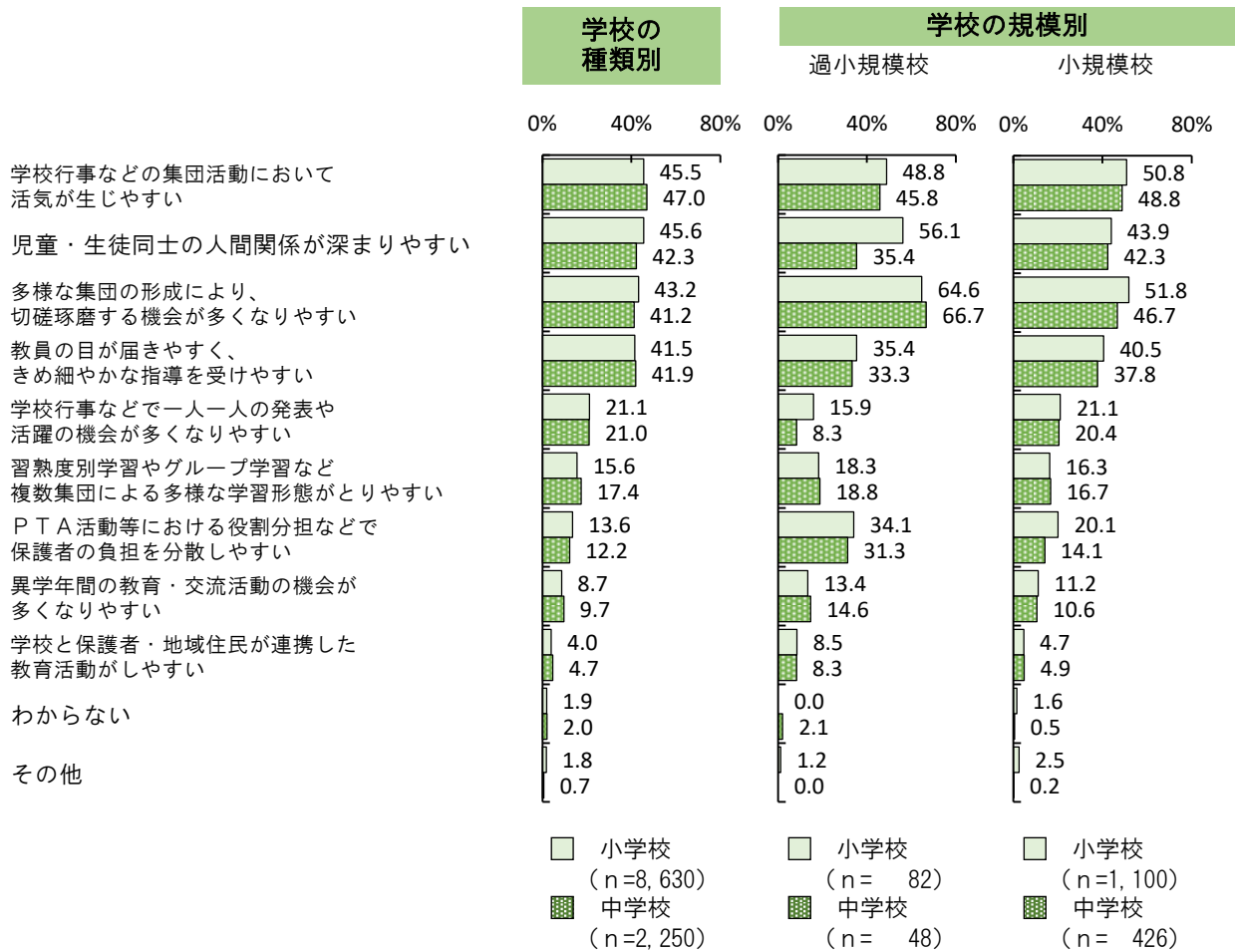


小・中学生調査では、「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」が45.8%と最も多く、次いで「児童・生徒同士の人間関係が深まりやすい」が44.9%、「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」が42.8%などとなっています。

未就学児調査では、「教員の目が届きやすく、きめ細やかな指導を受けやすい」が54.2%と最も多く、次いで「児童・生徒同士の人間関係が深まりやすい」が52.8%、「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」が48.6%などとなっています。

学校の種類別でみると、大きな差異はみられません。

学校の規模別でみると、小学校・中学校ともに《過小規模校》で「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」、「P T A 活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい」が多くなっています。また、《【小学校】過小規模校》で「児童・生徒同士の人間関係が深まりやすい」が半数を超えて多く、《【中学校】過小規模校》で「学校行事などで一人一人の発表や活躍の機会が多くなりやすい」が1割を下回って少なくなっています。

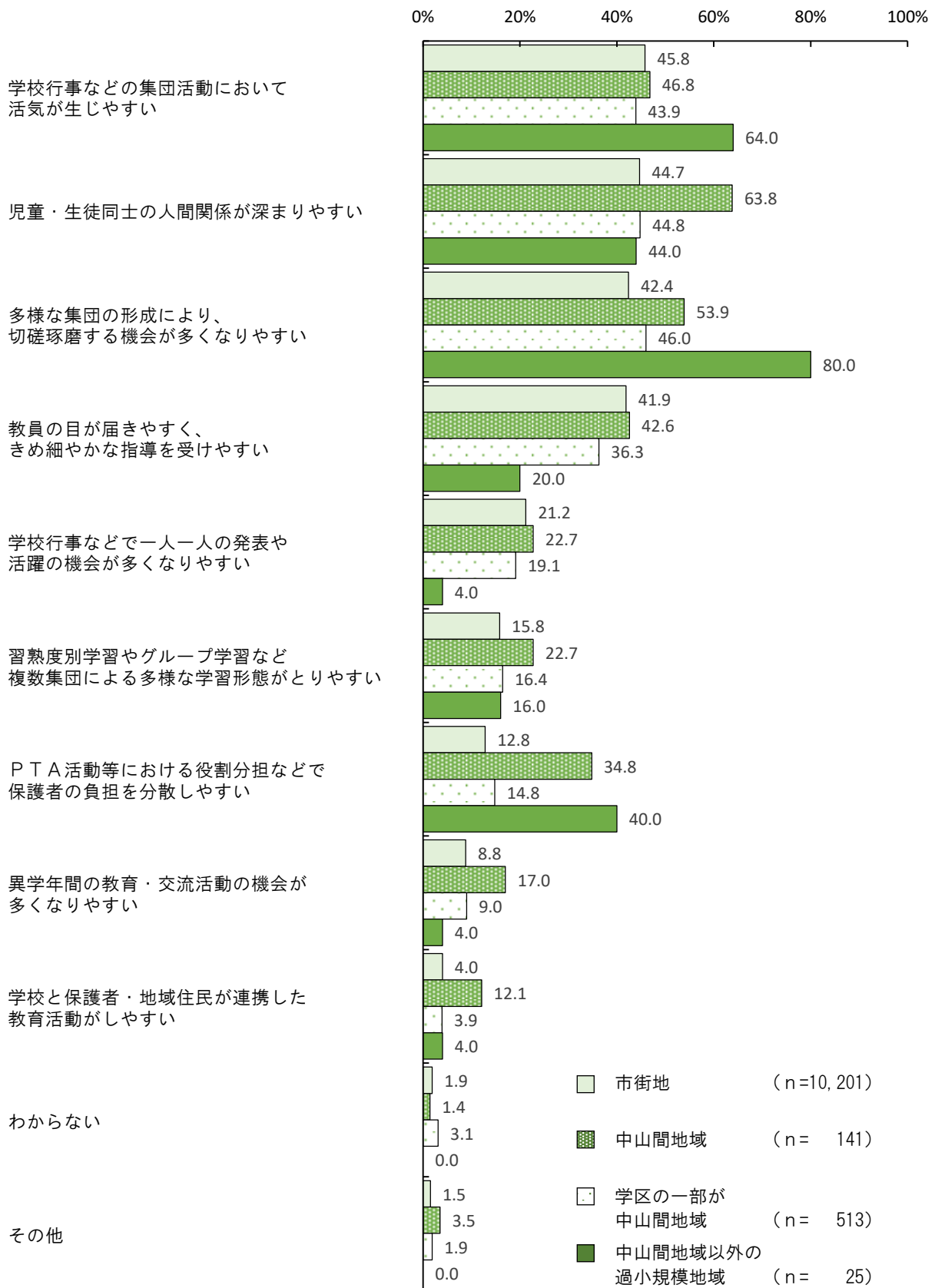


小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す

	調査数 (n)	て学校 活気が生 じやすい 集団活 動にお い	児童・生 徒同士 の人間 関係が 深	多様な 集団の 形成に よる、 切磋 琢磨す る機会 が多 くなり やすい	教員の 目が届 きやす く、き め細 やかな 指導を 受けや すい	や学校 活躍の 機会が 多くな りやす い	習熟度 別学習 やグル ープ学 習など が複数 集団に よる多 様な学 習形	PTA活 動等に おける 役割分 担や	異学年 間の教 育・交 流活動 の機	学校と 保護者 ・地域 住民が 連携	わから ない	その他
全体の割合より 15ポイント以上多い												
全体の割合より 15ポイント以上少ない												
全 体	10,880	45.8	44.9	42.8	41.6	21.1	16.0	13.3	8.9	4.1	2.0	1.6
籠上中学校	262	51.5	41.6	43.9	46.2	22.9	17.6	10.7	11.5	5.0	1.9	2.7
末広中学校	278	48.2	50.0	42.8	45.0	22.3	18.3	16.2	12.6	5.8	1.1	0.7
安倍川中学校	222	51.8	42.8	51.8	34.7	23.4	17.1	23.4	9.9	5.9	0.9	3.6
美和中学校	151	54.3	39.1	59.6	29.1	13.9	12.6	25.8	9.9	3.3	2.6	2.0
城内中学校	374	46.8	44.7	42.0	49.7	27.0	16.3	9.1	7.5	6.1	1.1	1.9
安東中学校	891	47.1	41.8	44.4	37.3	20.8	16.9	13.4	8.8	3.1	1.8	1.5
東中学校	845	45.9	45.8	40.6	44.6	21.4	16.0	9.7	8.5	3.3	2.1	1.2
西奈中学校	398	49.0	44.5	46.0	34.4	16.8	14.1	9.3	6.8	3.3	2.0	1.0
観山中学校	388	41.8	40.2	36.1	46.9	22.7	14.9	14.4	8.5	3.6	1.8	1.5
竜爪中学校	318	46.5	45.3	42.8	35.5	19.2	17.9	12.6	6.6	4.1	3.8	0.9
賤機中学校	264	45.1	48.9	45.5	39.0	21.6	18.2	13.3	10.6	5.3	2.7	0.4
大河内中学校	1	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
梅ヶ島中学校	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉川中学校	7	42.9	71.4	28.6	57.1	28.6	14.3	28.6	42.9	42.9	14.3	14.3
井川中学校	4	75.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
服織中学校	359	39.8	46.0	37.6	45.7	24.8	14.8	13.9	8.9	5.8	1.4	2.8
藁科中学校	34	52.9	52.9	76.5	35.3	20.6	32.4	50.0	17.6	5.9	0.0	5.9
大川中学校	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大里中学校	416	49.3	42.8	44.0	39.4	19.0	17.1	12.0	7.5	3.6	1.9	1.2
南中学校	366	44.8	49.7	40.4	36.6	19.9	11.5	10.4	11.2	4.6	1.9	2.2
中島中学校	89	66.3	33.7	64.0	23.6	11.2	18.0	22.5	10.1	6.7	2.2	0.0
豊田中学校	199	34.7	44.7	37.2	44.2	26.6	18.1	11.6	7.5	5.0	2.0	2.0
東豊田中学校	537	41.0	49.5	36.3	44.9	25.9	18.4	10.6	8.6	3.2	2.2	2.2
高松中学校	425	35.5	48.7	39.5	50.1	22.8	14.4	11.1	9.6	4.0	1.9	0.7
長田西中学校	349	41.8	49.3	33.5	45.6	21.2	15.5	8.3	8.0	3.4	2.6	1.1
長田南中学校	358	41.9	45.5	40.5	43.9	22.9	17.3	13.7	11.2	3.6	0.8	3.1
城山中学校	122	62.3	50.0	44.3	38.5	17.2	14.8	24.6	12.3	8.2	0.8	0.8
清水第一中学校	221	45.7	46.6	40.7	43.9	17.2	13.6	9.5	7.7	2.7	1.8	1.8
清水第二中学校	393	46.6	48.6	47.1	43.0	18.6	13.2	13.5	6.9	5.9	1.3	0.8
清水第三中学校	79	54.4	38.0	60.8	31.6	6.3	11.4	20.3	6.3	0.0	0.0	3.8
清水第四中学校	260	50.4	46.5	41.9	45.0	28.1	14.2	11.9	9.6	2.3	1.5	1.5
清水第五中学校	79	51.9	38.0	49.4	38.0	22.8	16.5	30.4	10.1	3.8	0.0	1.3
清水第六中学校	302	44.0	46.7	40.7	46.0	23.8	14.9	16.9	7.0	4.6	1.7	1.0
清水第七中学校	446	45.5	37.2	44.6	37.9	19.5	13.0	11.7	9.2	5.4	2.9	2.2
清水第八中学校	189	44.4	44.4	39.7	43.9	17.5	16.4	14.3	7.9	4.8	3.7	2.1
清水飯田中学校	443	42.2	44.9	35.7	42.4	17.6	15.3	12.9	6.1	3.4	3.2	0.0
清水袖師中学校	140	57.1	43.6	50.0	38.6	17.1	17.1	13.6	7.1	3.6	0.7	0.7
清水庵原中学校	175	45.1	42.3	48.0	38.9	19.4	16.0	20.0	11.4	4.0	1.1	3.4
清水興津中学校	227	40.5	46.7	42.7	33.0	15.4	15.4	14.5	9.7	1.3	4.4	1.3
清水小島中学校	47	48.9	42.6	57.4	40.4	21.3	19.1	19.1	12.8	4.3	2.1	0.0
清水両河内中学校	23	52.2	73.9	73.9	43.5	39.1	39.1	26.1	21.7	13.0	0.0	0.0
蒲原中学校	83	60.2	36.1	61.4	41.0	22.9	19.3	8.4	7.2	1.2	2.4	1.2
由比中学校	114	51.8	35.1	59.6	39.5	21.1	24.6	21.9	11.4	4.4	0.0	1.8

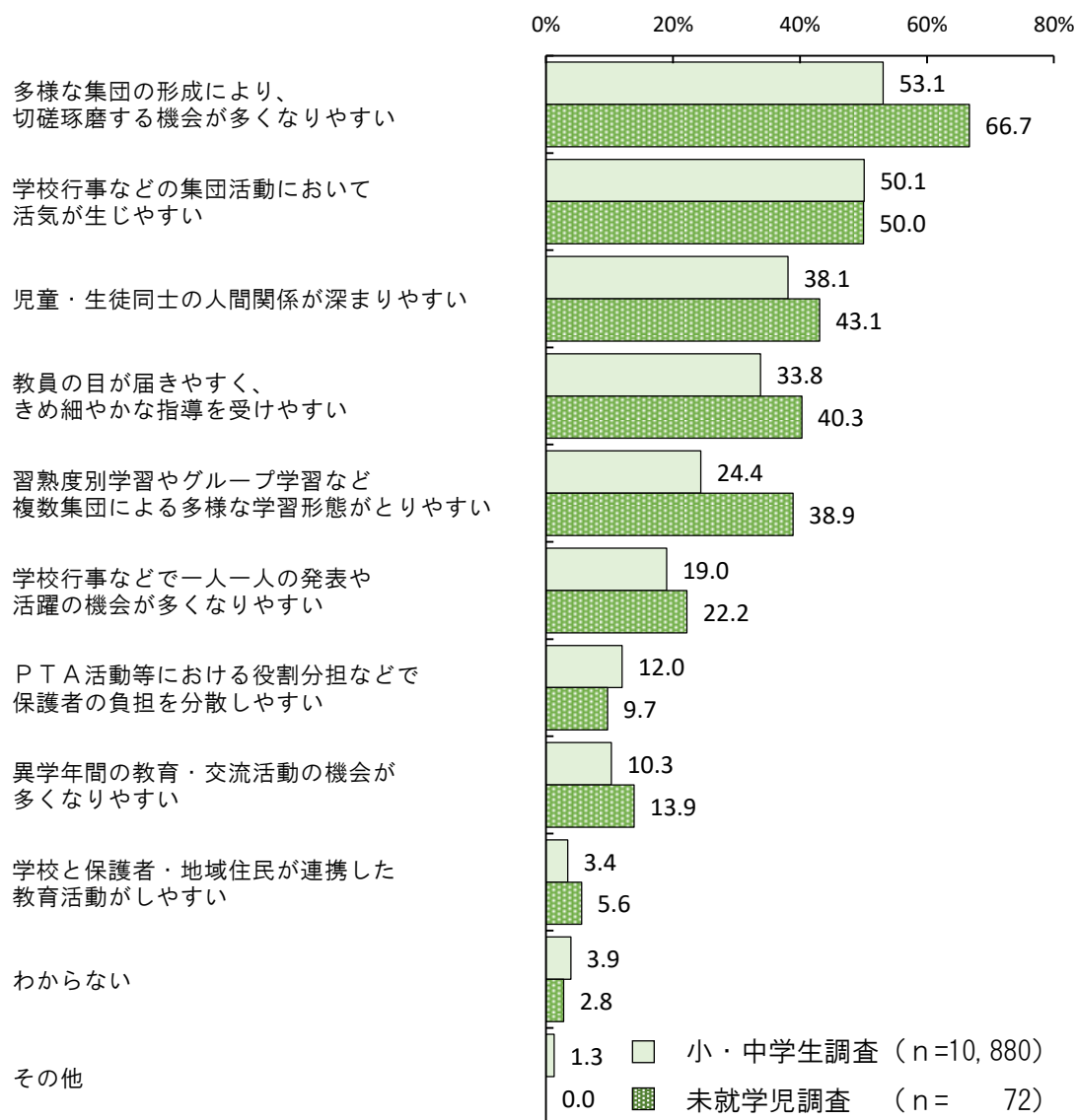
学区の種類別



小中一貫教育グループ校別でみると、《薫科中学校》で「P T A活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい」が半数と多く、《薫科中学校》・《清水両河内中学校》で「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」、「習熟度別学習やグループ学習など複数集団による多様な学習形態がとりやすい」が多くなっています。また、《中島中学校》・《城山中学校》・《蒲原中学校》で「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」が6割を超えて多く、《高松中学校》で「教員の目が届きやすく、きめ細やかな指導を受けやすい」が約半数と多くなっています。さらに、《清水両河内中学校》で「児童・生徒同士の間関係が深まりやすい」、「学校行事などで一人一人の発表や活躍の機会が多くなりやすい」、「異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい」、「学校と保護者・地域住民が連携した教育活動がしやすい」が多くなっています。

学区の種類別でみると、《中山間地域》で「児童・生徒同士の間関係が深まりやすい」、「習熟度別学習やグループ学習など複数集団による多様な学習形態がとりやすい」、「異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい」、「学校と保護者・地域住民が連携した教育活動がしやすい」が多くなっています。また、《中山間地域以外の過小規模地域》で「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」、「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」、「P T A活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい」が多く、「教員の目が届きやすく、きめ細やかな指導を受けやすい」、「学校行事などで一人一人の発表や活躍の機会が多くなりやすい」が少なくなっています。

3) ②中学校における1学年あたりの学級数として、その学級数を選択した理由（複数選択可）

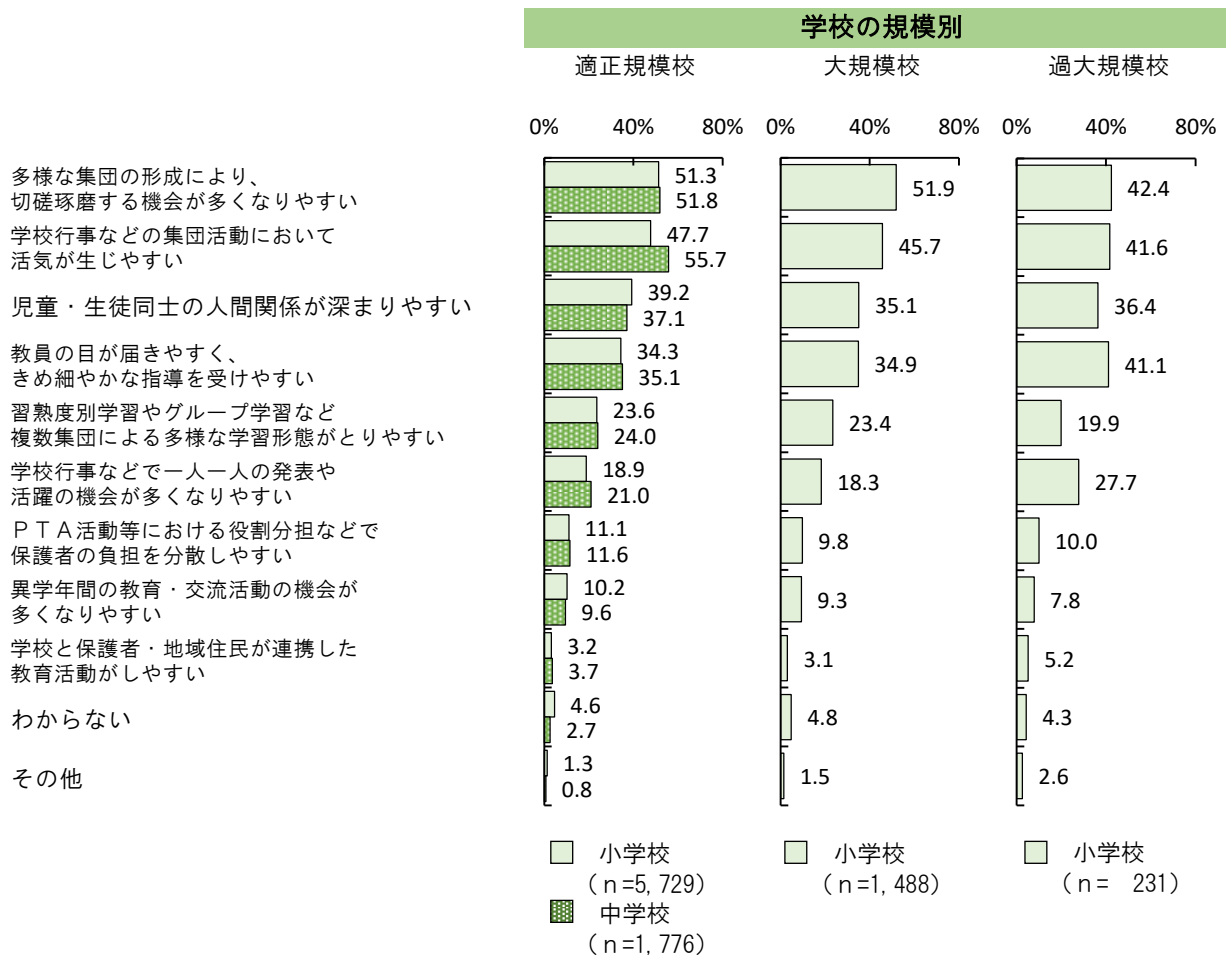
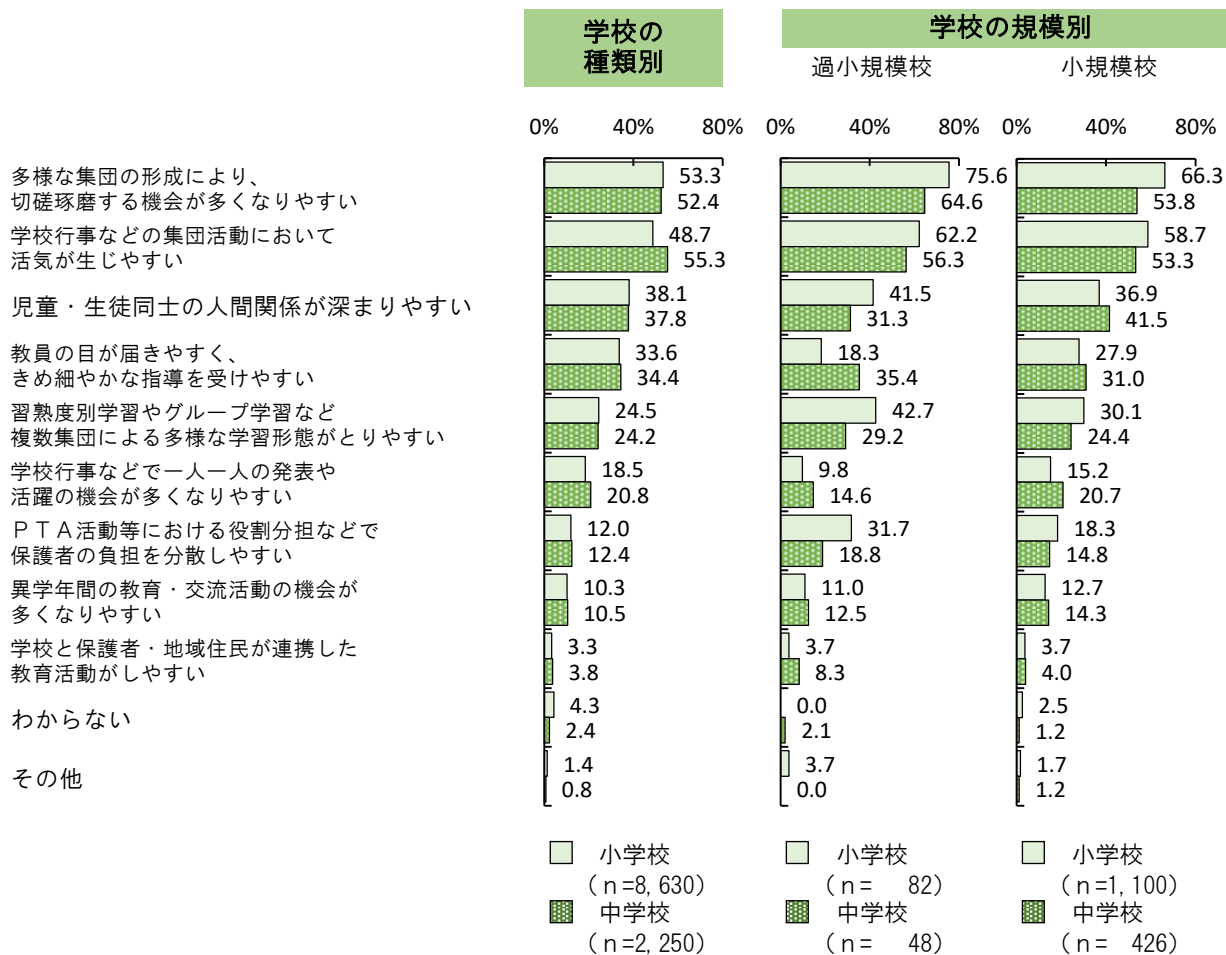


小・中学生調査では、「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」が53.1%と最も多く、次いで「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」が50.1%、「児童・生徒同士の人間関係が深まりやすい」が38.1%などとなっています。

未就学児調査では、「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」が66.7%と最も多く、次いで「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」が50.0%、「児童・生徒同士の人間関係が深まりやすい」が43.1%などとなっています。

学校の種類別でみると、《小学校》で「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」が少なくなっています。

学校の規模別でみると、《【小学校】過小規模校》で「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」、「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」、「習熟度別学習やグループ学習など複数集団による多様な学習形態がとりやすい」、「P T A 活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい」が多く、「教員の目が届きやすく、きめ細やかな指導を受けやすい」が2割を下回って少なくなっています。

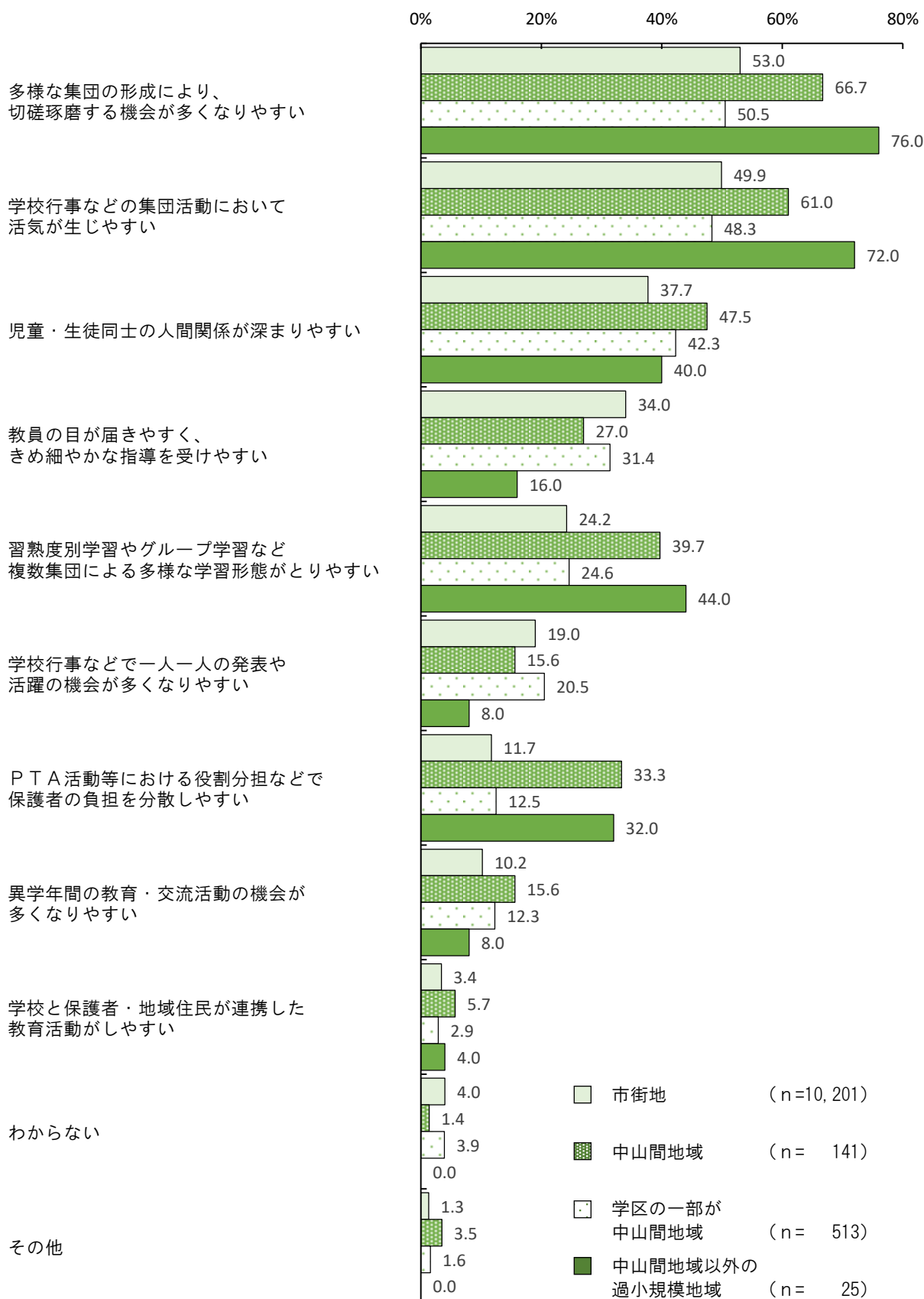


小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す

	調査数 (n)	多様な 集団の 形成が 多くなり やすい 切磋	学校行事 などの 集団活動 において	児童・生徒 同士の 人間関係 が深い	教員の目 が届きやす く、きめ細 やかな指導 を受けやすい	習熟度別 学習やグル ープ学習な ど複数集団 による多様 な学習形態 がとりやすい	学校行事 などで一 人一人の 発表や活 躍の機会が 多くなりやす い	PTA活動 等における 役割分担 や保護者の 負担を分散 しやすい	異学年間 の教育・交 流活動の機 会が多くなり やすい	学校と保護 者・地域住 民が連携し た教育活動 がしやすい	わからない	その他
全体の割合より 15ポイント以上多い												
全体の割合より 15ポイント以上少ない												
全 体	10,880	53.1	50.1	38.1	33.8	24.4	19.0	12.0	10.3	3.4	3.9	1.3
籠上中学校	262	55.7	56.1	36.6	39.7	26.0	22.5	10.7	10.7	4.2	3.1	1.5
末広中学校	278	61.9	58.3	37.8	30.2	28.8	12.6	15.1	10.4	2.9	3.2	0.7
安倍川中学校	222	64.4	61.3	40.5	21.6	27.5	13.5	21.2	14.9	5.0	2.3	1.8
美和中学校	151	66.9	58.9	36.4	19.2	29.1	15.2	25.8	12.6	2.6	2.6	2.0
城内中学校	374	56.7	52.7	37.4	38.0	23.8	23.0	9.1	8.6	4.3	1.3	1.6
安東中学校	891	53.0	49.8	34.0	33.7	24.2	19.3	10.4	9.4	2.5	3.9	1.1
東中学校	845	52.2	47.1	36.3	40.2	24.6	21.1	8.8	8.5	3.7	5.1	0.6
西奈中学校	398	50.0	46.0	43.5	31.9	21.6	17.3	9.5	10.8	2.8	4.8	0.0
観山中学校	388	46.9	49.5	36.6	36.3	25.8	19.1	11.6	12.4	3.4	4.4	2.1
竜爪中学校	318	45.3	48.1	46.9	31.8	19.2	19.5	10.7	11.3	2.8	5.7	0.9
賤機中学校	264	52.7	43.9	42.8	31.4	25.0	21.2	12.5	13.3	4.2	3.8	2.3
大河内中学校	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
梅ヶ島中学校	1	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉川中学校	7	57.1	28.6	57.1	42.9	28.6	42.9	28.6	28.6	42.9	14.3	0.0
井川中学校	4	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
服織中学校	359	48.2	46.0	37.0	37.6	24.5	24.2	13.4	10.3	4.2	3.6	2.2
藁科中学校	34	79.4	58.8	50.0	26.5	47.1	14.7	41.2	11.8	5.9	0.0	8.8
大川中学校	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大里中学校	416	52.6	53.8	38.2	32.0	26.2	20.0	8.9	9.4	3.4	5.3	1.0
南中学校	366	54.4	52.5	38.0	24.9	23.2	16.4	12.3	9.8	3.0	4.1	0.5
中島中学校	89	65.2	60.7	37.1	22.5	27.0	16.9	21.3	18.0	2.2	3.4	2.2
豊田中学校	199	51.8	41.7	37.7	42.2	24.1	21.1	9.0	8.5	3.0	4.0	1.5
東豊田中学校	537	50.8	45.4	38.2	35.0	24.4	20.1	10.1	8.0	2.6	4.1	1.9
高松中学校	425	52.0	49.6	37.2	35.1	19.3	19.3	10.4	10.8	3.3	4.2	0.7
長田西中学校	349	49.3	53.3	37.5	32.1	21.8	20.6	10.3	8.9	2.9	4.0	0.9
長田南中学校	358	48.3	48.0	36.0	34.1	25.4	17.6	14.2	11.5	2.8	4.5	1.7
城山中学校	122	47.5	54.1	44.3	37.7	23.0	20.5	20.5	15.6	5.7	2.5	3.3
清水第一中学校	221	57.0	45.2	38.5	36.2	28.1	16.3	8.6	12.2	3.2	2.7	1.8
清水第二中学校	393	53.9	47.3	42.7	37.7	23.2	17.3	12.7	9.7	4.8	3.6	0.5
清水第三中学校	79	64.6	58.2	40.5	17.7	26.6	10.1	15.2	8.9	1.3	1.3	2.5
清水第四中学校	260	58.5	54.6	35.0	32.7	25.8	18.5	11.5	12.3	2.3	3.5	1.5
清水第五中学校	79	60.8	58.2	38.0	35.4	24.1	19.0	27.8	7.6	5.1	2.5	0.0
清水第六中学校	302	50.3	49.0	43.0	33.8	26.8	18.5	15.2	8.9	3.0	3.6	1.3
清水第七中学校	446	52.2	48.7	31.8	33.4	20.9	18.6	11.0	10.3	4.5	4.0	1.8
清水第八中学校	189	49.2	45.0	41.3	39.7	21.7	19.6	11.1	8.5	5.8	4.8	1.1
清水飯田中学校	443	48.8	46.7	37.0	32.5	22.1	16.3	10.8	8.4	2.9	5.9	0.9
清水袖師中学校	140	52.9	55.7	40.0	35.7	23.6	22.9	11.4	12.9	4.3	2.1	0.7
清水庵原中学校	175	54.3	54.3	37.1	32.0	28.0	21.7	18.9	11.4	2.9	0.6	3.4
清水興津中学校	227	46.3	39.6	42.7	29.5	23.8	13.7	10.6	11.9	2.2	7.0	0.9
清水小島中学校	47	63.8	61.7	44.7	27.7	31.9	10.6	19.1	14.9	2.1	2.1	4.3
清水両河内中学校	23	78.3	65.2	65.2	30.4	56.5	30.4	21.7	17.4	8.7	0.0	0.0
蒲原中学校	83	72.3	73.5	30.1	26.5	28.9	14.5	12.0	7.2	1.2	2.4	1.2
由比中学校	114	71.9	57.0	28.9	33.3	31.6	22.8	14.0	15.8	3.5	0.0	1.8

学区の種類別

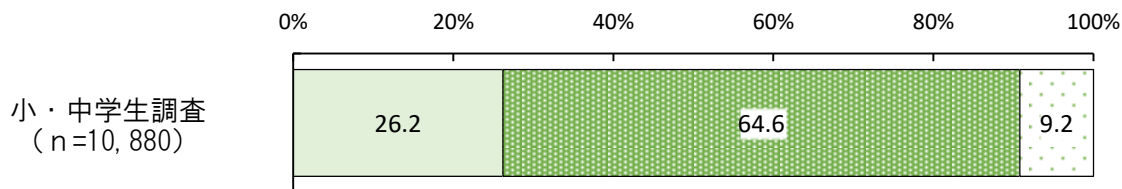


小中一貫教育グループ校別で見ると、《美和中学校》・《清水第三中学校》で「教員の目が届きやすく、きめ細やかな指導を受けやすい」が2割を下回って少なく、《藁科中学校》で「PTA活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい」が4割を超えて多くなっています。また、《藁科中学校》・《清水両河内中学校》・《蒲原中学校》・《由比中学校》で「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」が7割を超えて多く、《清水両河内中学校》で「児童・生徒同士の人間関係が深まりやすい」、「習熟度別学習やグループ学習など複数集団による多様な学習形態がとりやすい」、「学校行事などで一人一人の発表や活躍の機会が多くなりやすい」が多く、《蒲原中学校》で「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」が7割を超えて多くなっています。

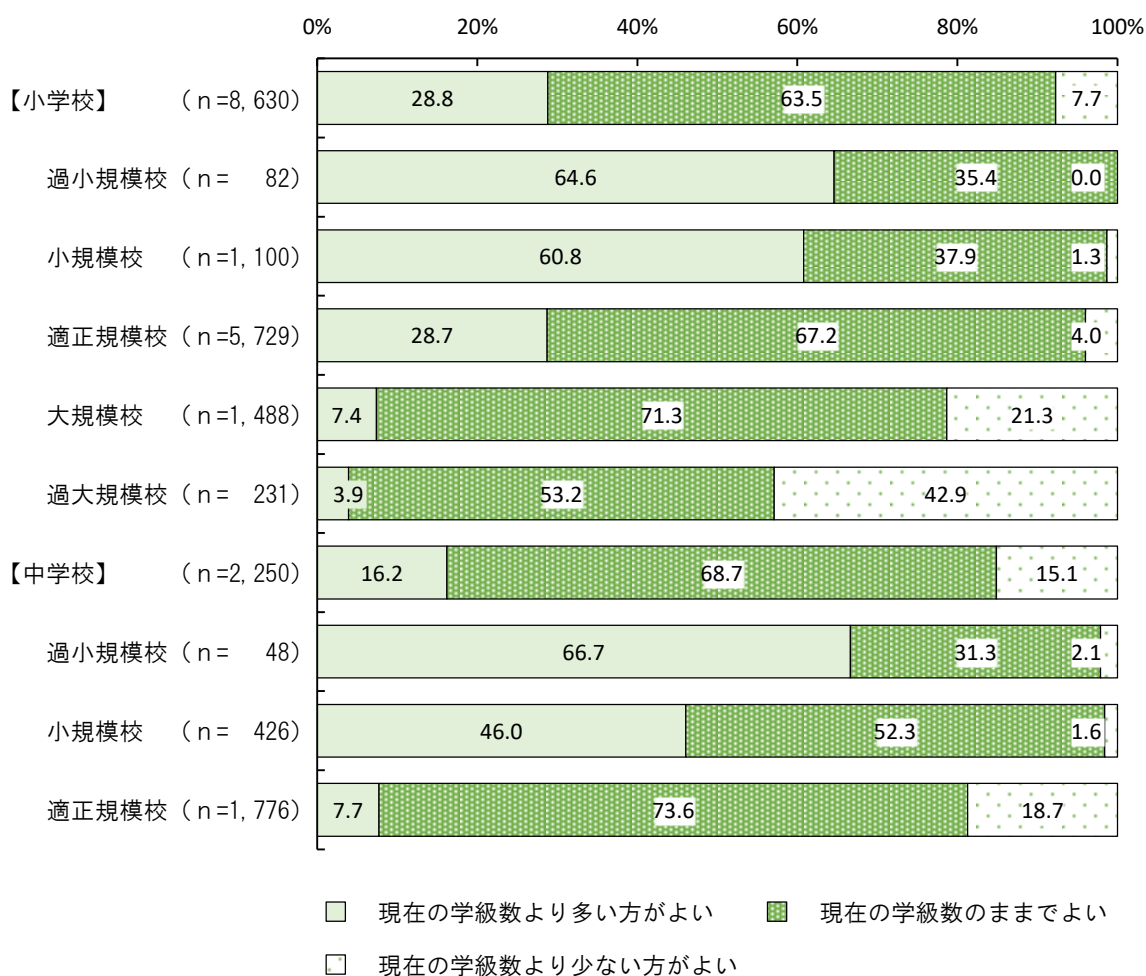
学区の種類別で見ると、《市街地》で「児童・生徒同士の人間関係が深まりやすい」が4割を下回って少なく、《中山間地域》・《中山間地域以外の過小規模地域》で「PTA活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい」が3割を超えて多くなっています。また、《中山間地域以外の過小規模地域》で「多様な集団の形成により、切磋琢磨する機会が多くなりやすい」、「学校行事などの集団活動において活気が生じやすい」、「習熟度別学習やグループ学習など複数集団による多様な学習形態がとりやすい」が多く、「教員の目が届きやすく、きめ細やかな指導を受けやすい」、「学校行事などで一人一人の発表や活躍の機会が多くなりやすい」、「異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい」が少なくなっています。

[小・中学生調査：問7]

望ましいと思う1学年あたりの学級数は、現在の学級数と比べていかがですか。



学校の種類別・学校の規模別



現在の学級数と比べて望ましいと思う1学年あたりの学級数は、「現在の学級数のままでよい」が64.6%と最も多く、次いで「現在の学級数より多い方がよい」が26.2%、「現在の学級数より少ない方がよい」が9.2%となっています。

学校の種類別でみると、《小学校》で「現在の学級数より多い方がよい」が多く、「現在の学級数のままでよい」、「現在の学級数より少ない方がよい」が少なくなっています。

学校の規模別でみると、《【小学校】過小規模校》・《【小学校】小規模校》・《【中学校】過小規模校》で「現在の学級数より多い方がよい」が6割を超えて多く、《【小学校】大規模校》・《【中学校】適正規模校》で「現在の学級数のままでよい」が7割を超えて多くなっています。また、《【小学校】過大規模校》で「現在の学級数より少ない方がよい」が4割を超えて多くなっています。

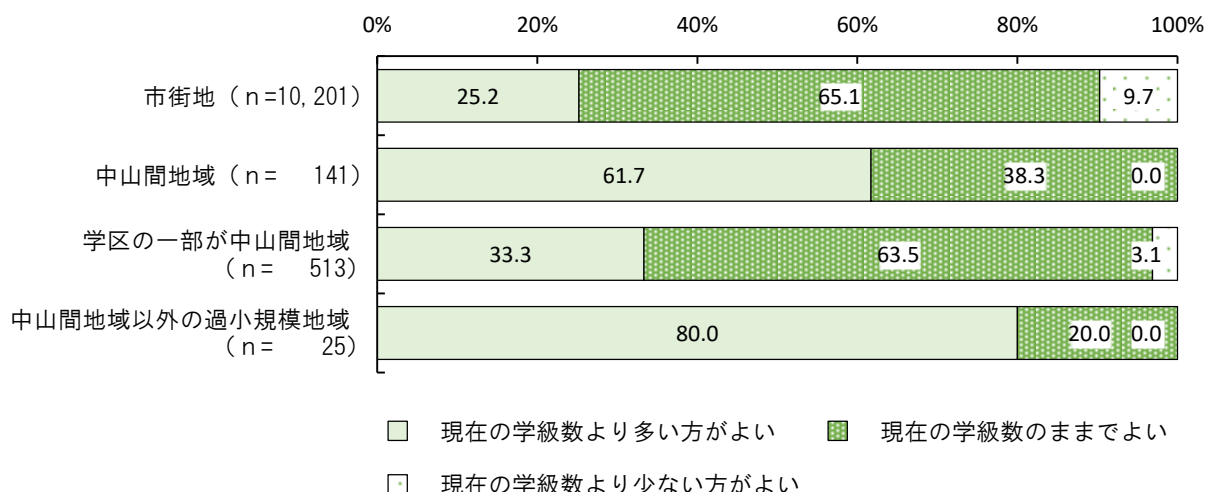
小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す



現在の学級数より多い方がよい 現在の学級数のままでよい
 現在の学級数より少ない方がよい

学区の種類別

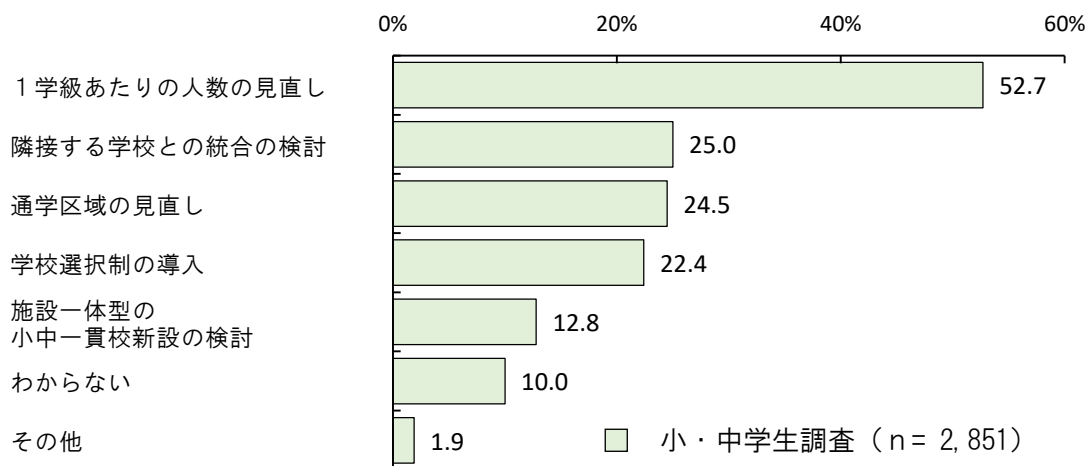


小中一貫教育グループ校別でみると、《服織中学校》・《豊田中学校》で「現在の学級数より少ない方がよい」が3割を超えて多くなっています。また、《薫科中学校》で「現在の学級数より多い方がよい」が8割を超えて多く、「現在の学級数のままでよい」が2割を下回って少なくなっています。

学区の種類別でみると、《中山間地域以外の過小規模地域》で「現在の学級数より多い方がよい」が8割と多く、「現在の学級数のままでよい」が2割と少なくなっています。

小・中学生調査：問7で「現在の学級数より多い方がよい」と回答した方のみ

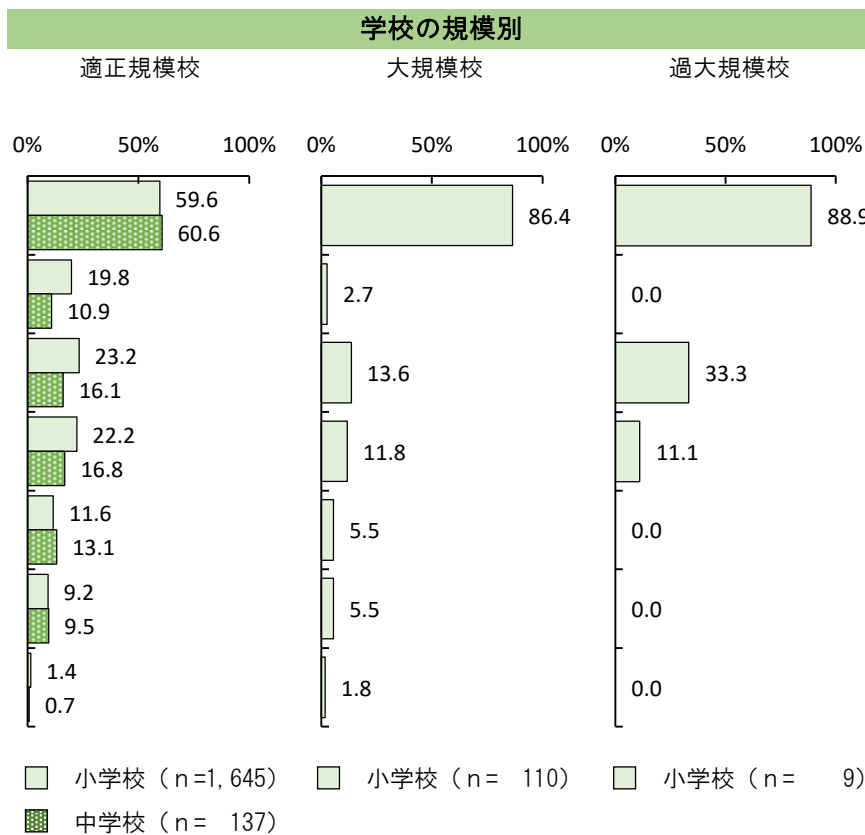
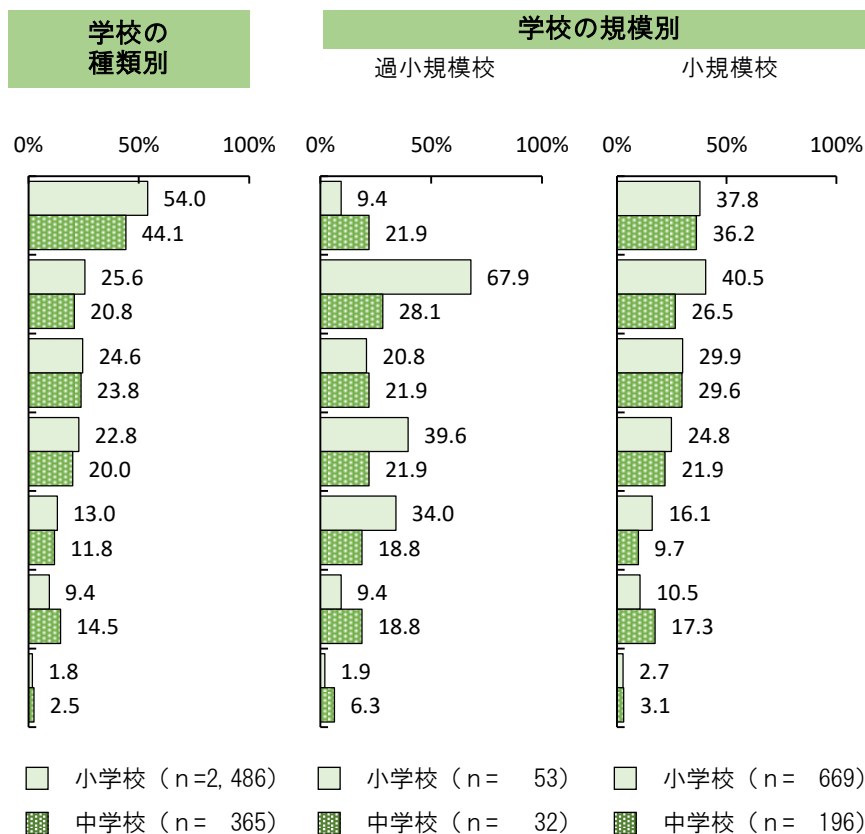
1) 現在の学級数よりも多い学級数を望んでいる場合、望ましいと思う対応（複数選択可）



現在の学級数よりも多い学級数を望んでいる場合、望ましいと思う対応は、「1学級あたりの人数の見直し」が52.7%と最も多く、次いで「隣接する学校との統合の検討」が25.0%、「通学区域の見直し」が24.5%などとなっています。

学校の種類別でみると、《小学校》で「1学級あたりの人数の見直し」が多くなっています。

学校の規模別でみると、《【小学校】過小規模校》で「1学級あたりの人数の見直し」が約1割と少なく、「隣接する学校との統合の検討」、「学校選択制の導入」、「施設一体型の小中一貫校新設の検討」が多くなっています。また、《【小学校】大規模校》・《【中学校】適正規模校》で「通学区域の見直し」が2割を下回って少なくなっています。

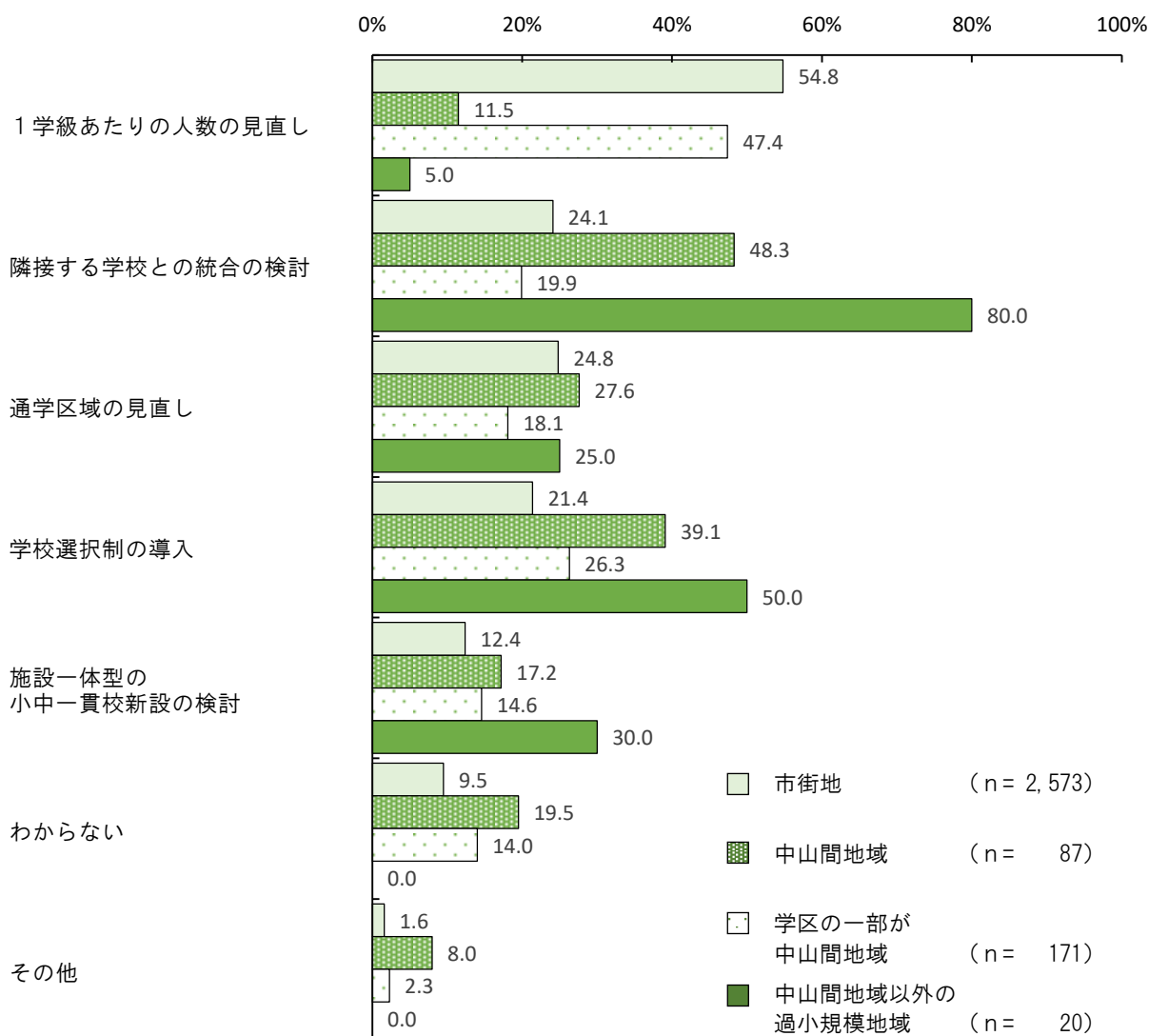


小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す

	調査数（n）	1学級あたりの人数の見直し	隣接する学校との統合の検討	通学区域の見直し	学校選択制の導入	施設一体型の小中一貫校新設の検討	わからない	その他
全体の割合より 15ポイント以上多い								
全体の割合より 15ポイント以上少ない								
全 体	10,880	52.7	25.0	24.5	22.4	12.8	10.0	1.9
籠上中学校	113	61.9	11.5	28.3	27.4	10.6	8.8	0.0
末広中学校	109	59.6	26.6	36.7	26.6	11.9	6.4	1.8
安倍川中学校	141	24.8	43.3	45.4	27.7	24.8	8.5	2.8
美和中学校	93	20.4	64.5	9.7	23.7	9.7	10.8	1.1
城内中学校	50	72.0	12.0	18.0	24.0	10.0	6.0	0.0
安東中学校	128	67.2	7.8	24.2	22.7	16.4	3.9	2.3
東中学校	89	88.8	7.9	15.7	23.6	7.9	2.2	2.2
西奈中学校	99	72.7	9.1	18.2	21.2	9.1	5.1	2.0
観山中学校	111	61.3	20.7	17.1	18.9	8.1	10.8	1.8
竜爪中学校	57	71.9	10.5	14.0	22.8	10.5	7.0	5.3
賤機中学校	56	44.6	17.9	14.3	19.6	12.5	16.1	1.8
大河内中学校	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
梅ヶ島中学校	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉川中学校	3	33.3	33.3	66.7	100.0	0.0	0.0	0.0
井川中学校	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
服織中学校	55	32.7	21.8	34.5	32.7	9.1	12.7	7.3
藁科中学校	29	13.8	69.0	37.9	48.3	44.8	6.9	0.0
大川中学校	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大里中学校	77	79.2	5.2	14.3	15.6	9.1	1.3	1.3
南中学校	100	49.0	37.0	28.0	18.0	14.0	10.0	1.0
中島中学校	63	23.8	60.3	39.7	28.6	9.5	11.1	3.2
豊田中学校	12	91.7	0.0	25.0	16.7	8.3	0.0	0.0
東豊田中学校	38	65.8	5.3	21.1	15.8	5.3	10.5	2.6
高松中学校	144	60.4	19.4	32.6	25.7	10.4	9.0	1.4
長田西中学校	46	50.0	15.2	17.4	28.3	21.7	10.9	2.2
長田南中学校	72	61.1	13.9	18.1	20.8	12.5	9.7	1.4
城山中学校	63	30.2	46.0	39.7	23.8	9.5	9.5	1.6
清水第一中学校	99	41.4	29.3	22.2	20.2	14.1	15.2	1.0
清水第二中学校	80	67.5	20.0	26.3	21.3	6.3	7.5	0.0
清水第三中学校	55	29.1	60.0	61.8	30.9	10.9	3.6	1.8
清水第四中学校	97	58.8	19.6	22.7	16.5	14.4	11.3	3.1
清水第五中学校	50	26.0	50.0	28.0	20.0	22.0	14.0	2.0
清水第六中学校	114	58.8	16.7	21.1	21.1	8.8	12.3	0.0
清水第七中学校	45	84.4	6.7	20.0	15.6	13.3	0.0	0.0
清水第八中学校	29	65.5	6.9	20.7	31.0	10.3	10.3	6.9
清水飯田中学校	132	61.4	21.2	25.8	18.9	9.1	10.6	0.0
清水袖師中学校	66	50.0	24.2	19.7	19.7	10.6	16.7	0.0
清水庵原中学校	89	48.3	23.6	12.4	25.8	12.4	18.0	1.1
清水興津中学校	64	54.7	14.1	18.8	12.5	3.1	20.3	3.1
清水小島中学校	33	12.1	54.5	15.2	24.2	15.2	27.3	0.0
清水両河内中学校	15	0.0	6.7	20.0	40.0	0.0	33.3	20.0
蒲原中学校	57	31.6	43.9	15.8	5.3	33.3	8.8	3.5
由比中学校	76	40.8	32.9	9.2	17.1	25.0	18.4	2.6

学区の種類別

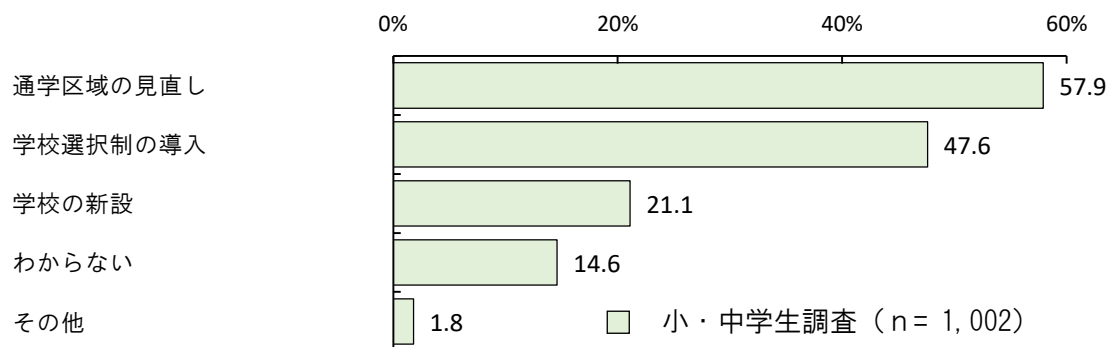


小中一貫教育グループ校別でみると、《美和中学校》・《藁科中学校》・《中島中学校》・《清水第三中学校》で「隣接する学校との統合の検討」が6割を超えて多く、《藁科中学校》で「学校選択制の導入」、「施設一体型の小中一貫校新設の検討」が多くなっています。また、《藁科中学校》・《清水小島中学校》で「1学級あたりの人数の見直し」が2割を下回って少なく、《清水第三中学校》で「通学区域の見直し」が6割を超えて多くなっています。

学区の種類別でみると、《中山間地域》で「1学級あたりの人数の見直し」が2割を下回って少なく、「隣接する学校との統合の検討」、「学校選択制の導入」が多くなっています。また、《学区の一部が中山間地域》で「通学区域の見直し」が2割を下回って少なくなっています。

小・中学生調査：問7で「現在の学級数より少ない方がよい」と回答した方のみ

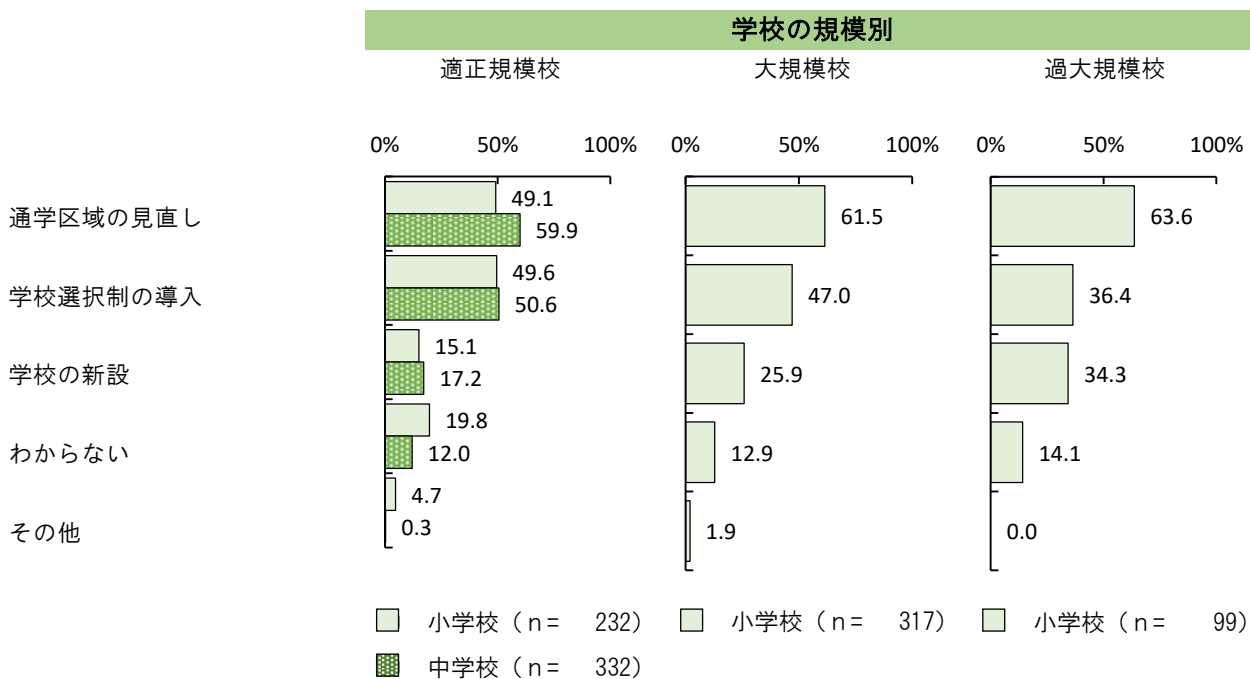
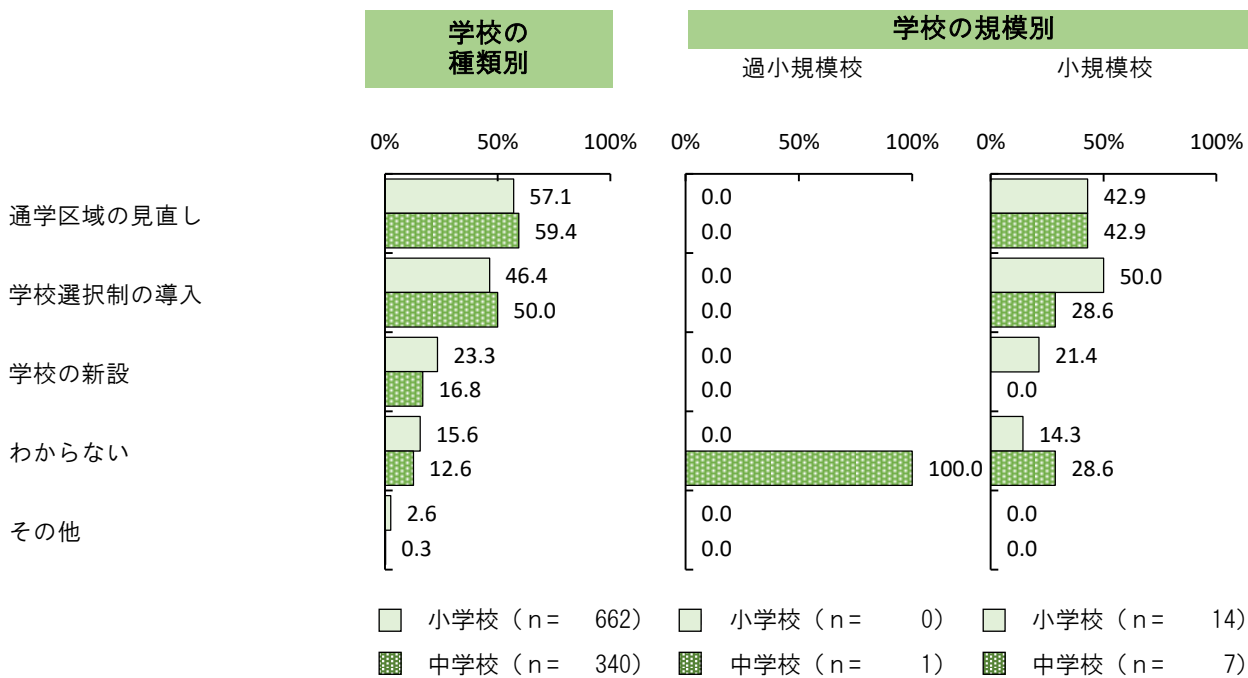
2) 現在の学級数よりも少ない学級数を望んでいる場合、望ましいと思う対応（複数選択可）



現在の学級数よりも少ない学級数を望んでいる場合、望ましいと思う対応は、「通学区域の見直し」が57.9%と最も多く、次いで「学校選択制の導入」が47.6%、「学校の新設」が21.1%などとなっています。

学校の種類別で見ると、《小学校》で「学校の新設」が多くなっています。

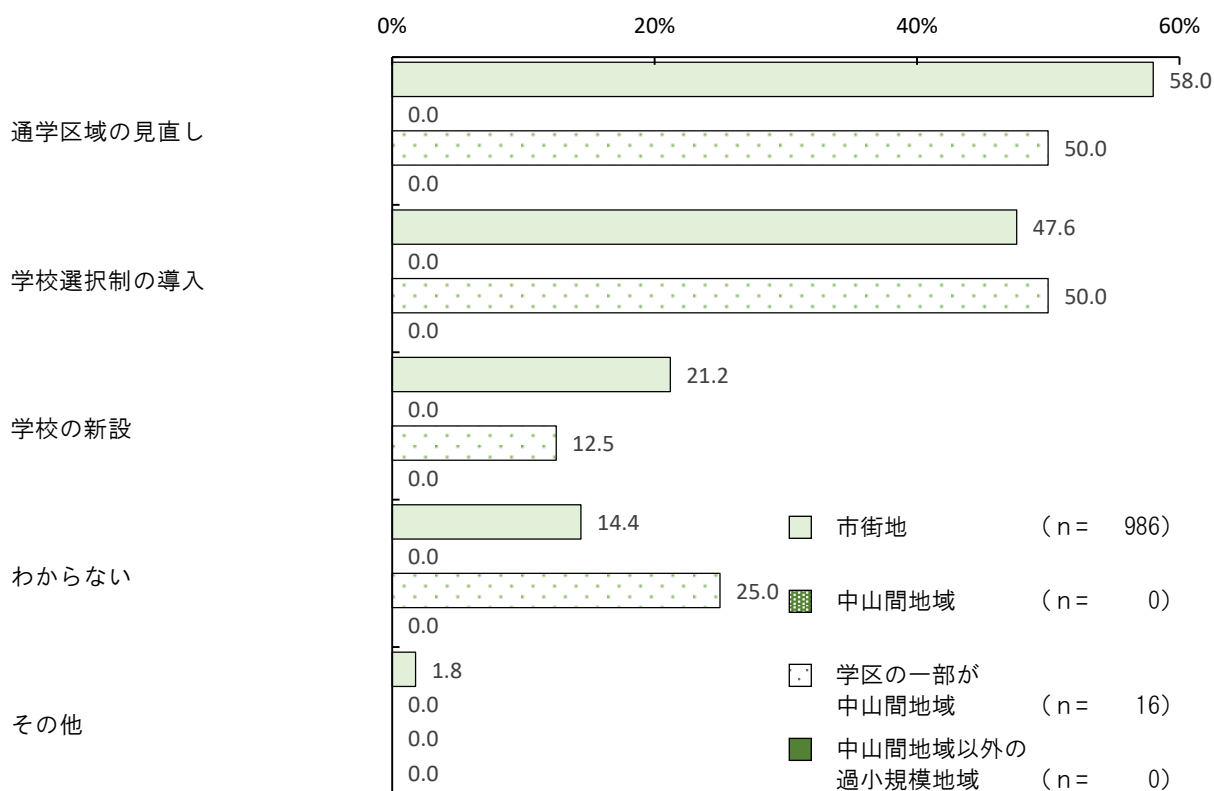
学校の規模別で見ると、《【小学校】適正規模校》で「通学区域の見直し」が約半数と少なくなっています。また、《【小学校】過大規模校》で「学校選択制の導入」が4割を下回って少なく、「学校の新設」が3割を超えて多くなっています。



小中一貫教育グループ校別

	調査数（n）	通学区域の見直し	学校選択制の導入	学校の新設	わからない	その他
全体の割合より 15ポイント以上多い						
全体の割合より 15ポイント以上少ない						
全 体	1,002	57.9	47.6	21.1	14.6	1.8
籠上中学校	6	16.7	66.7	0.0	33.3	0.0
末広中学校	11	27.3	54.5	9.1	27.3	0.0
安倍川中学校	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
美和中学校	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
城内中学校	34	55.9	58.8	11.8	5.9	5.9
安東中学校	82	58.5	41.5	18.3	17.1	4.9
東中学校	187	62.0	51.3	22.5	9.1	1.6
西奈中学校	17	41.2	52.9	11.8	17.6	5.9
観山中学校	18	72.2	50.0	0.0	16.7	5.6
竜爪中学校	15	40.0	53.3	13.3	26.7	0.0
賤機中学校	10	60.0	30.0	0.0	30.0	0.0
大河内中学校	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
梅ヶ島中学校	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉川中学校	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
井川中学校	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
服織中学校	121	62.8	38.0	36.4	12.4	0.0
藁科中学校	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大川中学校	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大里中学校	57	61.4	52.6	14.0	17.5	1.8
南中学校	19	68.4	42.1	21.1	5.3	0.0
中島中学校	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
豊田中学校	78	65.4	56.4	33.3	6.4	0.0
東豊田中学校	96	56.3	41.7	25.0	21.9	2.1
高松中学校	13	69.2	38.5	15.4	15.4	0.0
長田西中学校	13	46.2	53.8	7.7	15.4	7.7
長田南中学校	46	47.8	54.3	23.9	10.9	2.2
城山中学校	2	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0
清水第一中学校	3	33.3	100.0	33.3	0.0	0.0
清水第二中学校	33	69.7	39.4	6.1	9.1	0.0
清水第三中学校	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
清水第四中学校	3	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0
清水第五中学校	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水第六中学校	7	28.6	42.9	0.0	57.1	0.0
清水第七中学校	88	61.4	51.1	18.2	12.5	0.0
清水第八中学校	8	50.0	50.0	0.0	37.5	0.0
清水飯田中学校	24	29.2	41.7	20.8	20.8	4.2
清水袖師中学校	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
清水庵原中学校	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
清水興津中学校	5	20.0	20.0	0.0	60.0	20.0
清水小島中学校	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清水両河内中学校	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
蒲原中学校	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
由比中学校	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0

学区の種類別



小中一貫教育グループ校別でみると、《服織中学校》・《清水第二中学校》で「学校選択制の導入」が4割を下回って少なく、《清水第二中学校》で「学校の新設」が1割を下回って少なくなっています。また、《清水飯田中学校》で「通学区域の見直し」が約3割と少なくなっています。

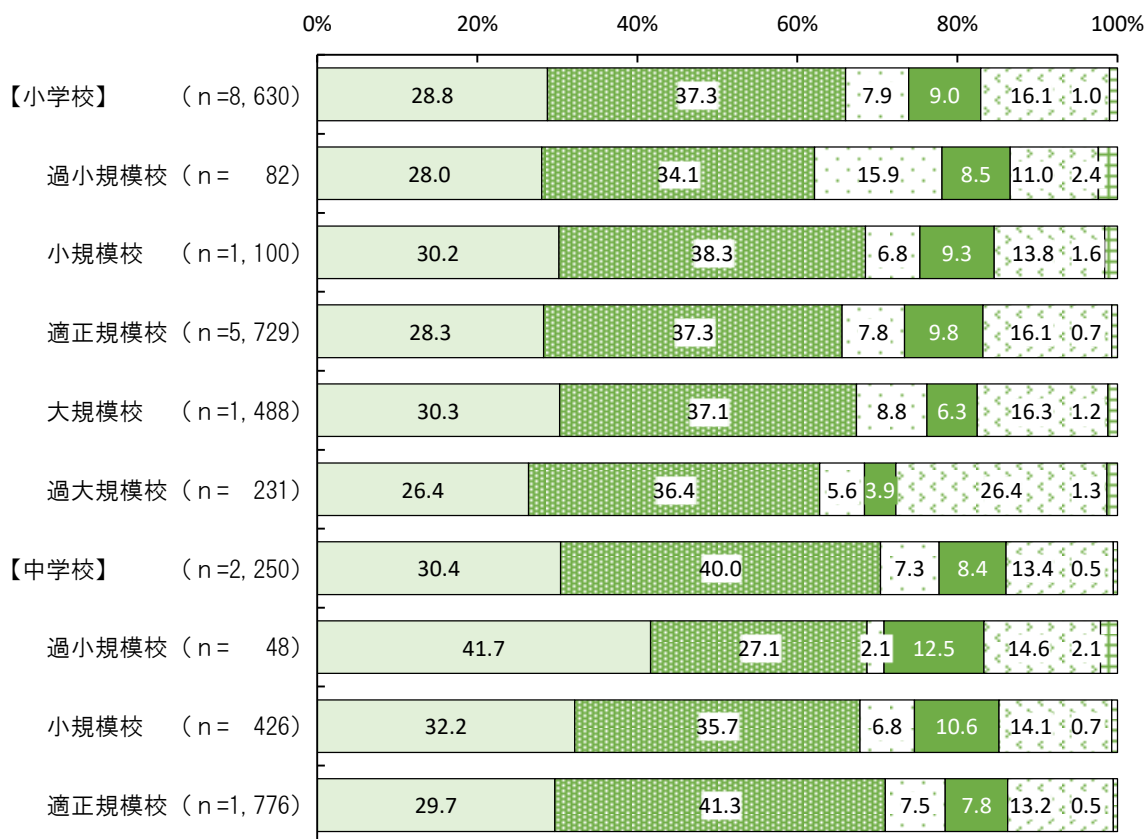
学区の種類別でみると、《市街地》で「通学区域の見直し」が58.0%と最も多く、次いで「学校選択制の導入」が47.6%、「学校の新設」が21.2%などとなっています。

[小・中学生調査：問8・未就学児調査：問6]

今後、児童生徒数が大きく減少する学校について、どのように対応したらよいと思いますか。



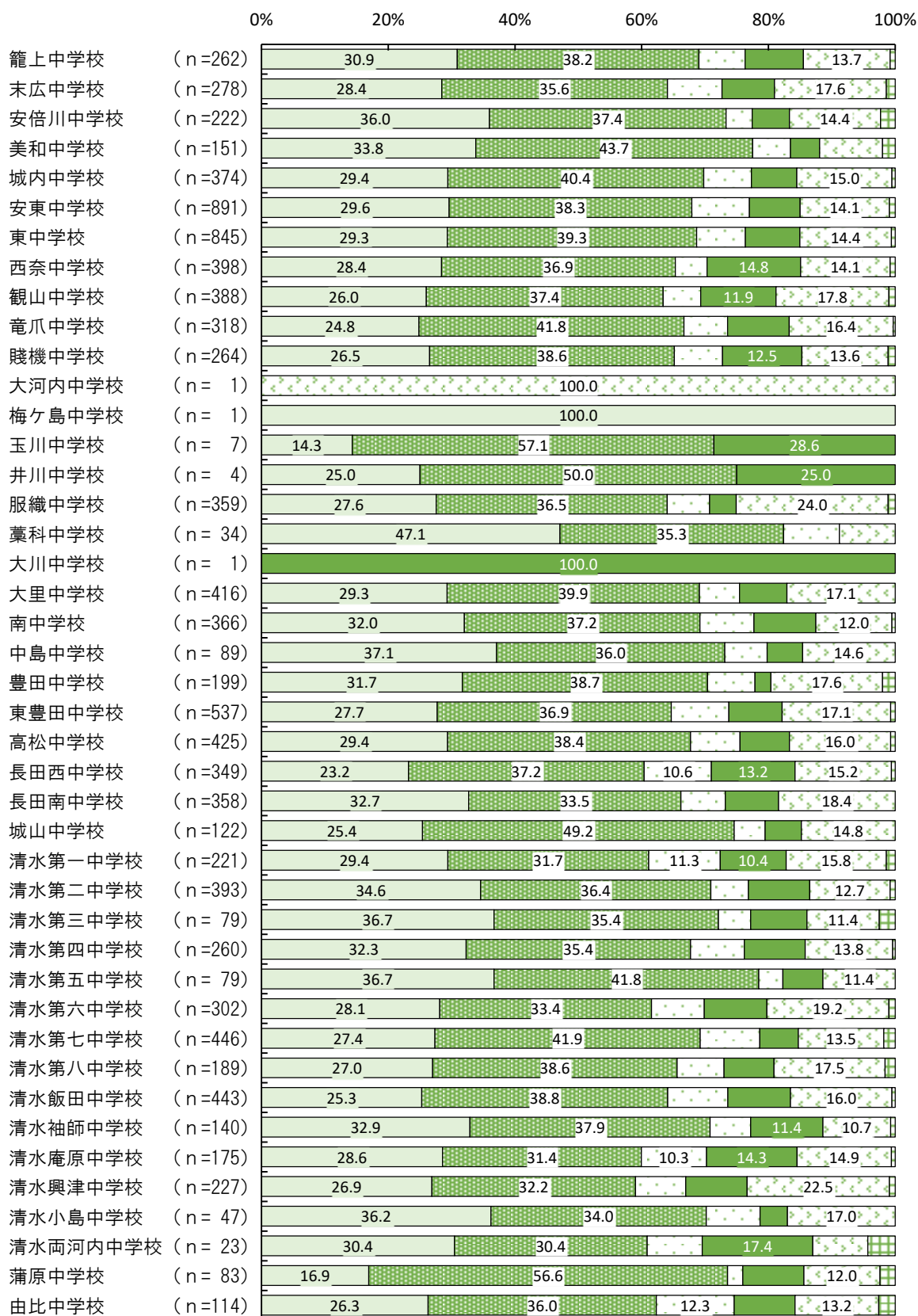
学校の種類別・学校の規模別



- 適正な学校規模が確保できるような一定の基準を設け、該当した学校について学校統合を含めた検討を進めていく
- 地域の事情や要望により、学校統合を含めた検討を進めていく
- 複式学級や複式学級規模に近づいた場合、順次、当該学校の統合を含めた検討を進めていく
- 児童生徒数が極端に減少し、複式学級となったとしても現行の学校配置を継続していく
- わからない
- その他

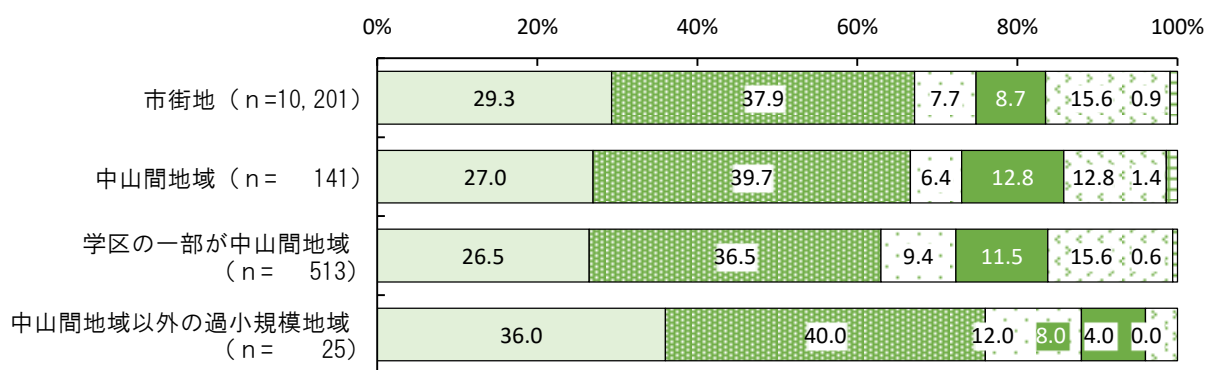
小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す



- 適正な学校規模が確保できるよう一定の基準を設け、該当した学校について学校統合を含めた検討を進めていく
- 地域の事情や要望により、学校統合を含めた検討を進めていく
- 複式学級や複式学級規模に近づいた場合、順次、当該学校の統合を含めた検討を進めていく
- 児童生徒数が極端に減少し、複式学級となったとしても現行の学校配置を継続していく
- わからない
- その他

学区の種類別



- 適正な学校規模が確保できるよう一定の基準を設け、該当した学校について学校統合を含めた検討を進めていく
- 地域の事情や要望により、学校統合を含めた検討を進めていく
- 複式学級や複式学級規模に近づいた場合、順次、当該学校の統合を含めた検討を進めていく
- 児童生徒数が極端に減少し、複式学級となったとしても現行の学校配置を継続していく
- わからない
- その他

小・中学生調査では、「地域の事情や要望により、学校統合を含めた検討を進めていく」が37.9%と最も多く、次いで「適正な学校規模が確保できるよう一定の基準を設け、該当した学校について学校統合を含めた検討を進めていく」が29.1%、「わからない」が15.5%などとなっています。

未就学児調査では、「地域の事情や要望により、学校統合を含めた検討を進めていく」が41.7%と最も多く、次いで「適正な学校規模が確保できるよう一定の基準を設け、該当した学校について学校統合を含めた検討を進めていく」が27.8%、「児童生徒数が極端に減少し、複式学級となったとしても現行の学校配置を継続していく」が12.5%などとなっています。

学校の種類別でみると、大きな差異はみられません。

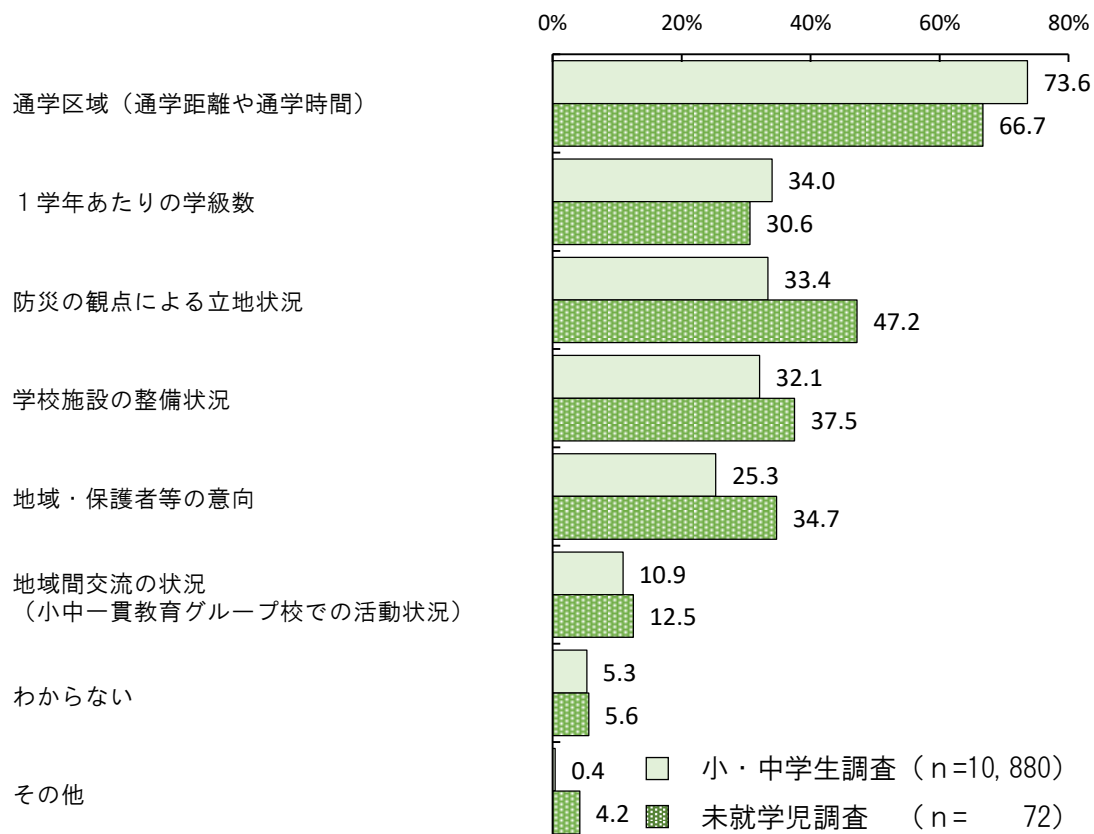
学校の規模別でみると、≪【小学校】過小規模校≫で「複式学級や複式学級規模に近づいた場合、順次、当該学校の統合を含めた検討を進めていく」が1割を超えて多く、≪【中学校】過小規模校≫で「適正な学校規模が確保できるよう一定の基準を設け、該当した学校について学校統合を含めた検討を進めていく」が4割を超えて多くなっています。また、≪【中学校】過小規模校≫・≪【中学校】小規模校≫で「児童生徒数が極端に減少し、複式学級となったとしても現行の学校配置を継続していく」が1割を超えて多く、≪【中学校】適正規模校≫で「地域の事情や要望により、学校統合を含めた検討を進めていく」が4割を超えて多くなっています。

小中一貫教育グループ校別でみると、≪藁科中学校≫で「適正な学校規模が確保できるよう一定の基準を設け、該当した学校について学校統合を含めた検討を進めていく」が4割を超えて多く、≪長田西中学校≫・≪清水第一中学校≫・≪清水庵原中学校≫・≪由比中学校≫で「複式学級や複式学級規模に近づいた場合、順次、当該学校の統合を含めた検討を進めていく」が1割を超えて多くなっています。また、≪蒲原中学校≫で「地域の事情や要望により、学校統合を含めた検討を進めていく」が半数を超えて多くなっています。

学区の種類別でみると、≪中山間地域以外の過小規模地域≫で「適正な学校規模が確保できるよう一定の基準を設け、該当した学校について学校統合を含めた検討を進めていく」、「複式学級や複式学級規模に近づいた場合、順次、当該学校の統合を含めた検討を進めていく」が多くなっています。

[小・中学生調査：問9・未就学児調査：問7]

一定の学校規模や学校配置を検討するにあたり、どのようなことを重視して考える必要があると考えますか。
(複数選択可)

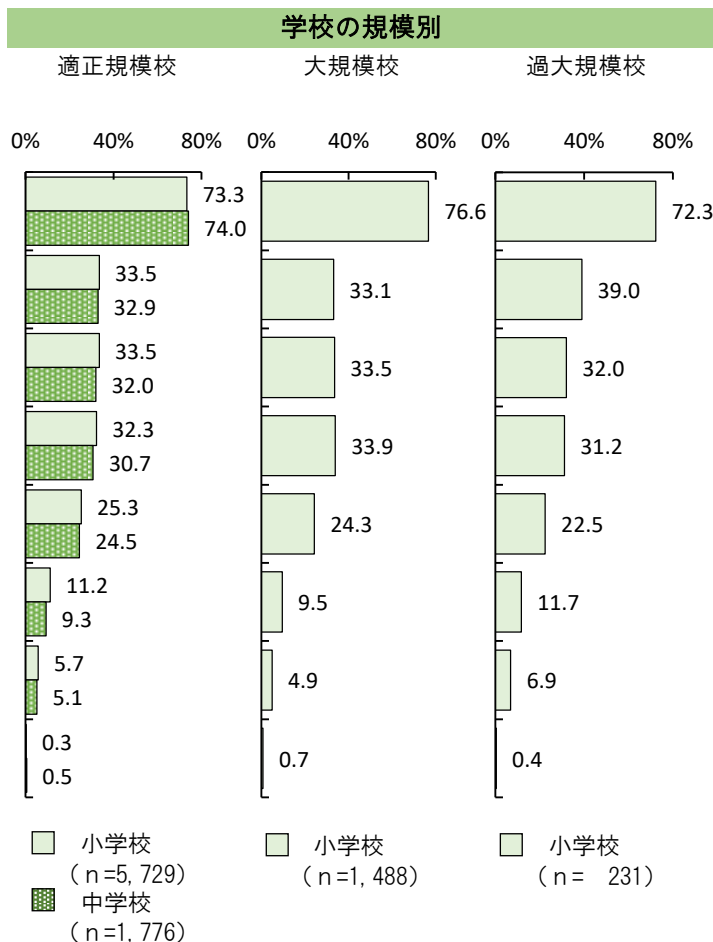
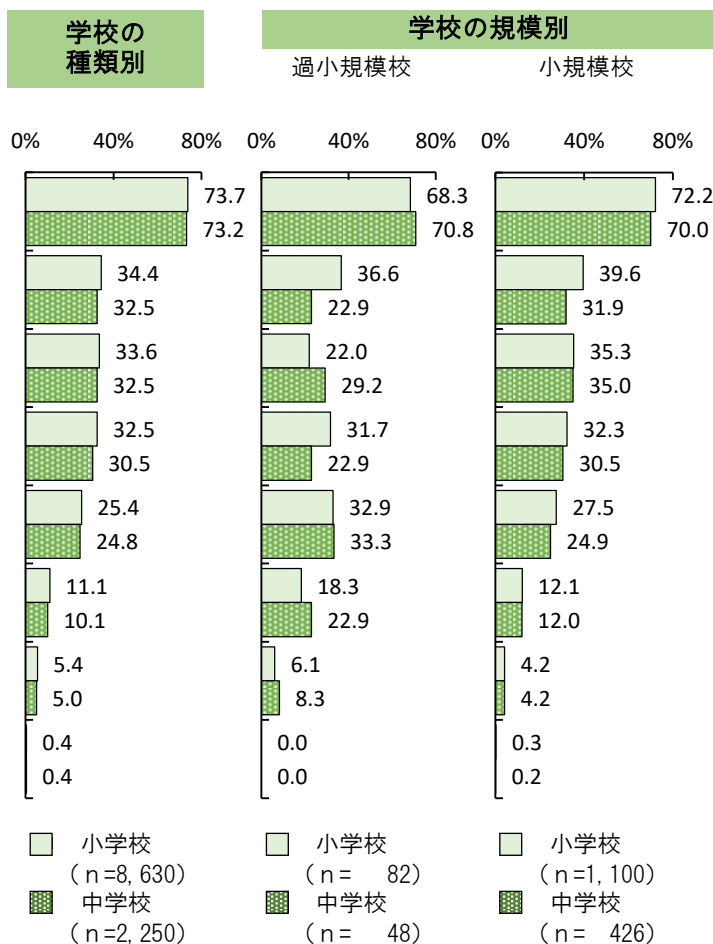


小・中学生調査では、「通学区域 (通学距離や通学時間)」が73.6%と最も多く、次いで「1学年あたりの学級数」が34.0%、「防災の観点による立地状況」が33.4%などとなっています。

未就学児調査では、「通学区域 (通学距離や通学時間)」が66.7%と最も多く、次いで「防災の観点による立地状況」が47.2%、「学校施設の整備状況」が37.5%などとなっています。

学校の種類別でみると、大きな差異はみられません。

学校の規模別でみると、小学校・中学校ともに《過小規模校》で「防災の観点による立地状況」が3割を下回って少なく、「地域・保護者等の意向」が3割を超えて多くなっています。また、《【小学校】過小規模校》で「通学区域 (通学距離や通学時間)」が7割を下回って少なくなっています。さらに、《【中学校】過小規模校》で「1学年あたりの学級数」、「学校施設の整備状況」が少なく、「地域間交流の状況 (小中一貫教育グループ校での活動状況)」が2割を超えて多くなっています。

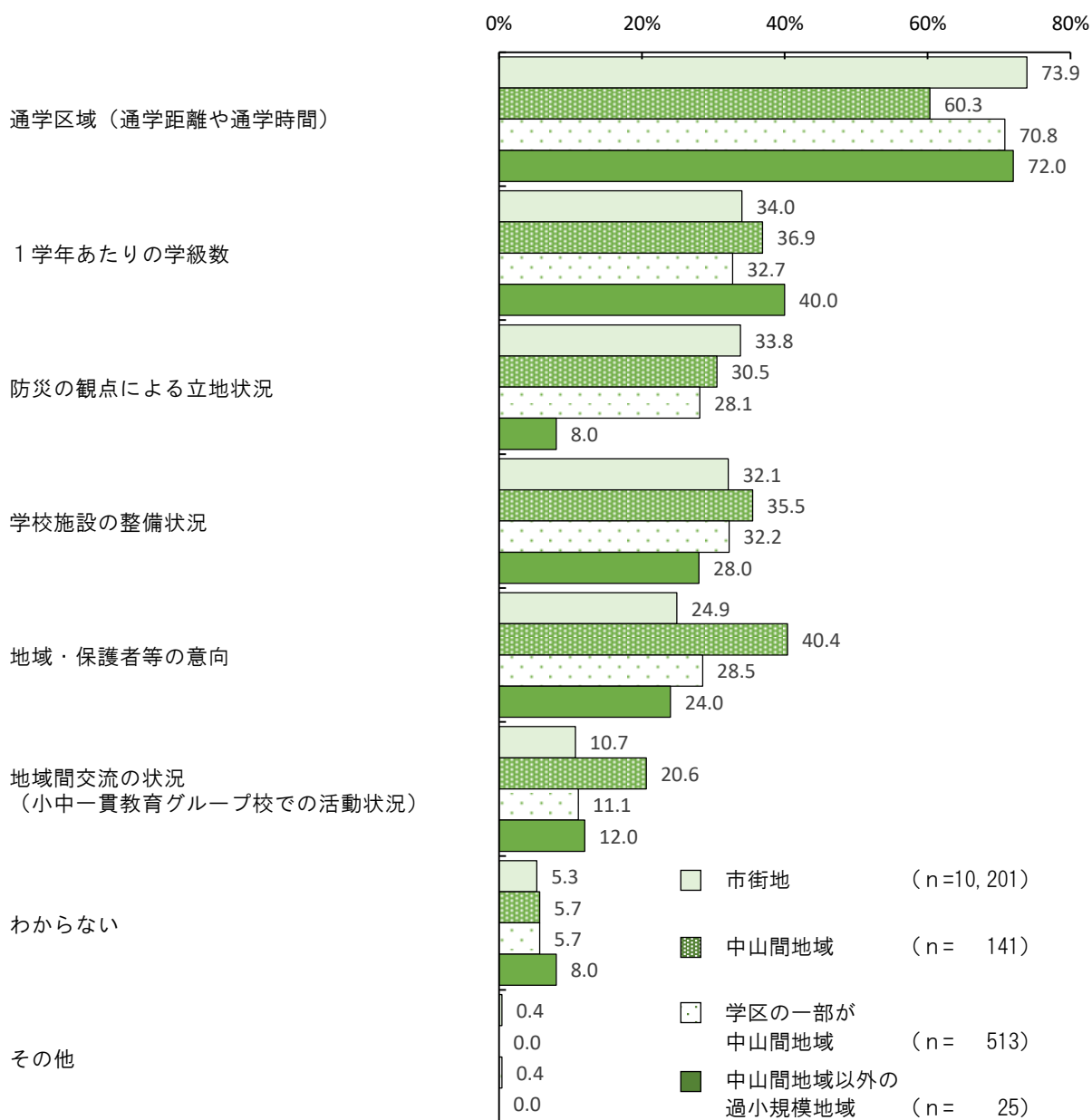


小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す

	調査数 (n)	間)通 学区 域(通 学距 離や 通学 時	1 学 年 あ た り の 学 級 数	防 災 の 観 点 に よ る 立 地 状 況	学 校 施 設 の 整 備 状 況	地 域 ・ 保 護 者 等 の 意 向	育 地 域 間 交 流 の 状 況 (小 中 一 貫 教 育 グ ル ー プ 校 で の 活 動 状 況)	わ か ら な い	そ の 他
全体の割合より 15ポイント以上多い									
全体の割合より 15ポイント以上少ない									
全 体	10,880	73.6	34.0	33.4	32.1	25.3	10.9	5.3	0.4
籠上中学校	262	72.9	40.8	34.7	32.8	26.7	11.8	4.2	0.4
末広中学校	278	77.3	41.7	36.0	30.6	24.1	12.6	3.2	0.0
安倍川中学校	222	75.7	34.2	30.6	34.2	26.1	12.2	5.9	0.5
美和中学校	151	68.2	31.8	29.1	42.4	27.8	10.6	5.3	0.0
城内中学校	374	74.1	37.4	29.7	34.2	27.0	13.9	4.3	0.3
安東中学校	891	75.8	32.2	32.1	31.6	25.6	10.7	4.2	0.7
東中学校	845	74.8	34.3	30.5	33.0	23.6	10.9	4.1	0.7
西奈中学校	398	70.6	29.4	32.7	34.4	27.4	11.1	6.8	0.0
観山中学校	388	74.0	30.7	31.7	31.4	24.2	10.6	7.2	0.5
竜爪中学校	318	68.9	29.9	27.4	34.3	28.3	10.7	7.2	0.6
賤機中学校	264	67.8	29.5	32.6	35.2	31.1	14.8	4.9	0.4
大河内中学校	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
梅ヶ島中学校	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉川中学校	7	57.1	0.0	14.3	42.9	85.7	28.6	14.3	0.0
井川中学校	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
服織中学校	359	73.3	38.2	31.2	33.1	26.2	11.4	5.6	0.3
藁科中学校	34	52.9	61.8	29.4	29.4	50.0	32.4	2.9	0.0
大川中学校	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0
大里中学校	416	74.3	37.3	31.7	33.2	23.3	9.1	4.1	0.5
南中学校	366	71.3	35.8	36.1	25.1	21.0	8.5	5.7	0.3
中島中学校	89	61.8	36.0	42.7	39.3	27.0	13.5	10.1	0.0
豊田中学校	199	76.4	35.2	29.6	36.2	23.6	10.6	5.5	0.5
東豊田中学校	537	73.9	34.5	36.3	32.4	23.1	10.4	5.8	0.6
高松中学校	425	77.4	35.1	31.5	31.1	17.6	8.7	4.9	0.2
長田西中学校	349	76.2	30.4	35.0	28.4	25.8	9.2	5.7	0.3
長田南中学校	358	72.6	30.4	37.7	36.3	26.8	7.3	6.7	0.3
城山中学校	122	68.9	41.0	36.1	31.1	23.0	12.3	4.9	0.8
清水第一中学校	221	72.4	34.4	34.4	29.0	26.7	10.4	4.1	0.0
清水第二中学校	393	75.6	35.1	36.1	26.2	22.6	8.9	4.1	0.5
清水第三中学校	79	70.9	44.3	34.2	29.1	26.6	7.6	1.3	0.0
清水第四中学校	260	79.6	31.9	40.8	33.5	28.1	13.8	3.1	0.4
清水第五中学校	79	68.4	41.8	38.0	31.6	21.5	13.9	5.1	0.0
清水第六中学校	302	73.8	35.1	31.5	34.4	23.2	11.6	7.3	0.7
清水第七中学校	446	81.2	33.0	32.1	28.9	26.0	8.5	4.9	0.9
清水第八中学校	189	75.1	36.5	36.5	36.0	30.7	13.2	4.2	0.0
清水飯田中学校	443	68.8	33.2	36.1	33.4	24.6	8.8	7.9	0.2
清水袖師中学校	140	67.9	29.3	38.6	27.9	25.7	11.4	6.4	0.0
清水庵原中学校	175	76.0	32.6	28.0	28.0	29.7	15.4	5.1	0.0
清水興津中学校	227	68.3	23.3	34.4	29.1	26.9	7.5	10.1	0.0
清水小島中学校	47	63.8	36.2	31.9	25.5	29.8	19.1	10.6	0.0
清水両河内中学校	23	52.2	26.1	47.8	47.8	60.9	26.1	4.3	0.0
蒲原中学校	83	69.9	31.3	51.8	37.3	21.7	19.3	1.2	0.0
由比中学校	114	75.4	39.5	31.6	26.3	24.6	14.0	4.4	0.0

学区の種類別



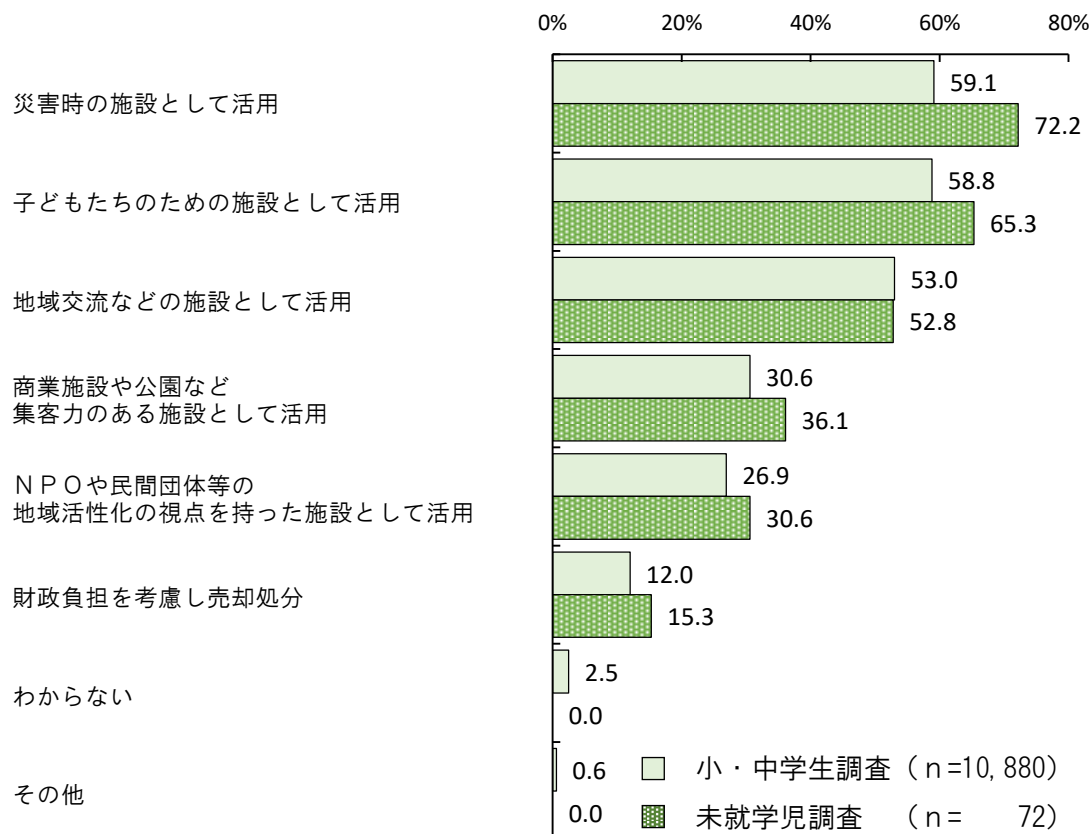
小中一貫教育グループ校別でみると、《美和中学校》・《清水両河内中学校》で「学校施設の整備状況」が4割を超えて多く、《藁科中学校》で「1学年あたりの学級数」、「地域間交流の状況（小中一貫教育グループ校での活動状況）」が多くなっています。また、《清水第七中学校》で「通学区域（通学距離や通学時間）」が8割を超えて多く、《清水両河内中学校》で「地域・保護者等の意向」が約6割と多くなっています。さらに、《蒲原中学校》で「防災の観点による立地状況」が半数を超えて多くなっています。

学区の種類別でみると、《中山間地域》で「通学区域（通学距離や通学時間）」が約6割と少なく、「地域・保護者等の意向」、「地域間交流の状況（小中一貫教育グループ校での活動状況）」が多くなっています。また、《中山間地域以外の過小規模地域》で「1学年あたりの学級数」が4割と多く、「防災の観点による立地状況」、「学校施設の整備状況」が少なくなっています。

[小・中学生調査：問10・未就学児調査：問8]

今後、学校統合などで学校が空き施設となった場合、どのような活用が望ましいと思いますか。

(複数選択可)

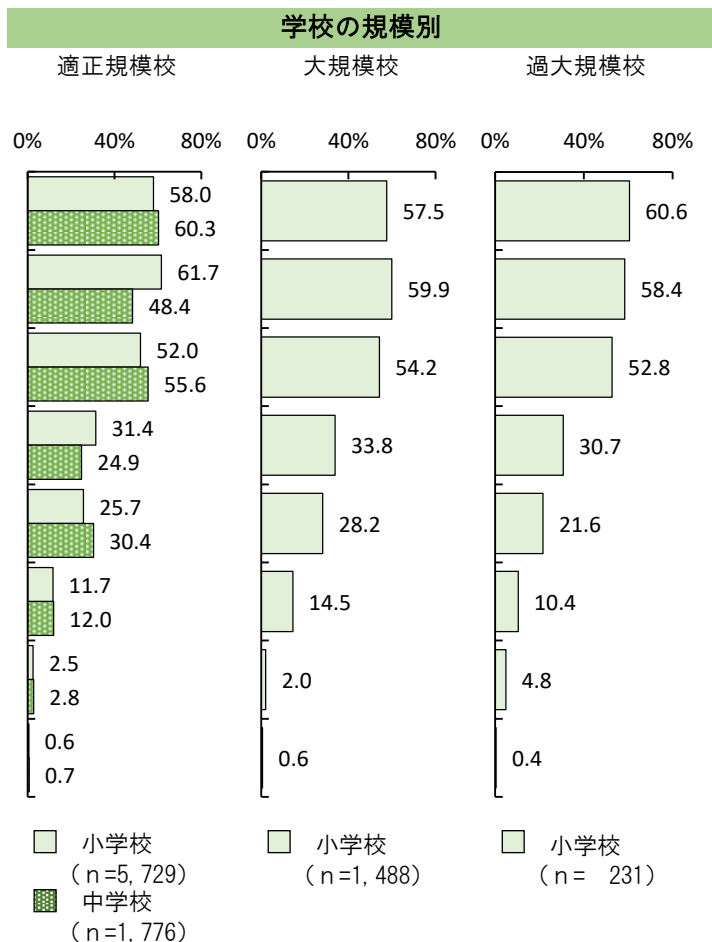


小・中学生調査では、「災害時の施設として活用」が59.1%と最も多く、次いで「子どもたちのための施設として活用」が58.8%、「地域交流などの施設として活用」が53.0%などとなっています。

未就学児調査では、「災害時の施設として活用」が72.2%と最も多く、次いで「子どもたちのための施設として活用」が65.3%、「地域交流などの施設として活用」が52.8%などとなっています。

学校の種類別でみると、《小学校》で「子どもたちのための施設として活用」、「商業施設や公園など集客力のある施設として活用」が多くなっています。

学校の規模別でみると、小学校・中学校ともに《過小規模校》で「財政負担を考慮し売却処分」が1割を下回って少なくなっています。また、《【小学校】過小規模校》で「災害時の施設として活用」、「地域交流などの施設として活用」、「商業施設や公園など集客力のある施設として活用」が多く、《【小学校】過小規模校》・《【中学校】過小規模校》・《【中学校】適正規模校》で「NPOや民間団体等の地域活性化の視点を持った施設として活用」が3割を超えて多くなっています。さらに、《【中学校】過小規模校》で「子どもたちのための施設として活用」が4割を下回って少なくなっています。

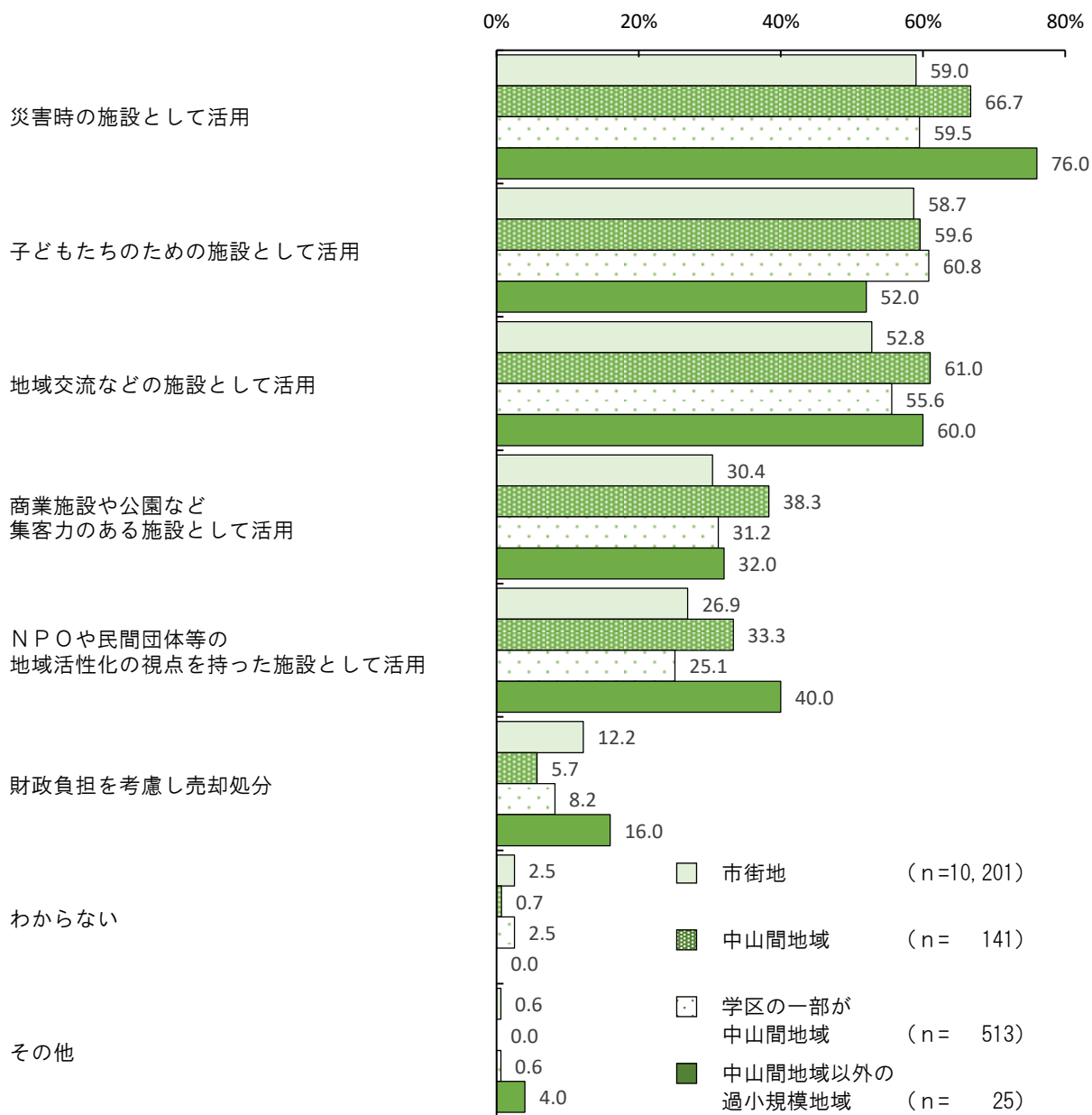


小中一貫教育グループ校別

※以下「中学校」は「中学校グループ校」のことを指す

	調査数（n）	災害時の施設として活用	子どもたちのための施設として活用	地域交流などの施設として活用	商業施設や公園など集客力のあ る施設として活用	NPOや民間団体等の地域活性化の視点を持った施設として活用	財政負担を考慮し売却処分	わからない	その他
全体の割合より 15ポイント以上多い									
全体の割合より 15ポイント以上少ない									
全 体	10,880	59.1	58.8	53.0	30.6	26.9	12.0	2.5	0.6
籠上中学校	262	64.9	65.3	51.9	35.1	24.0	12.2	1.5	0.0
末広中学校	278	59.4	69.8	54.3	31.7	26.3	10.4	2.5	0.4
安倍川中学校	222	51.4	56.8	52.7	32.0	25.2	14.0	2.3	0.9
美和中学校	151	69.5	53.0	57.6	28.5	29.1	9.9	2.6	1.3
城内中学校	374	54.8	55.9	54.3	27.3	28.6	14.7	2.9	1.6
安東中学校	891	57.8	54.7	56.7	33.8	33.8	16.4	1.7	0.8
東中学校	845	57.5	55.4	55.0	28.9	33.1	12.5	2.0	0.8
西奈中学校	398	64.8	67.6	55.0	31.9	26.4	7.5	1.0	1.0
観山中学校	388	57.2	61.1	55.4	30.7	23.5	11.1	2.3	0.5
竜爪中学校	318	59.4	61.0	53.5	31.1	25.2	6.9	3.1	0.0
賤機中学校	264	57.6	53.4	51.9	29.9	25.4	9.8	3.4	0.8
大河内中学校	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
梅ヶ島中学校	1	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉川中学校	7	85.7	42.9	85.7	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0
井川中学校	4	25.0	75.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
服織中学校	359	61.6	59.3	52.9	30.9	24.8	9.7	3.1	0.3
藁科中学校	34	73.5	64.7	76.5	38.2	44.1	0.0	2.9	0.0
大川中学校	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大里中学校	416	56.0	57.9	49.8	34.1	23.8	14.2	1.9	0.5
南中学校	366	58.5	56.3	52.5	30.9	26.0	12.6	3.3	0.5
中島中学校	89	60.7	67.4	64.0	19.1	24.7	6.7	1.1	1.1
豊田中学校	199	55.8	60.8	49.2	31.2	29.6	17.1	3.0	0.5
東豊田中学校	537	55.3	60.0	54.0	29.2	28.1	13.4	2.4	0.6
高松中学校	425	55.3	58.8	47.5	28.2	24.9	12.2	4.5	0.5
長田西中学校	349	59.3	56.7	53.3	26.9	22.3	10.6	2.6	0.6
長田南中学校	358	60.1	62.0	51.7	31.8	21.2	9.8	3.4	0.3
城山中学校	122	55.7	52.5	52.5	24.6	30.3	13.9	4.1	0.8
清水第一中学校	221	55.2	67.0	42.5	33.9	24.4	11.3	1.4	0.9
清水第二中学校	393	64.1	59.5	54.5	28.0	29.0	10.7	2.8	0.3
清水第三中学校	79	64.6	60.8	59.5	29.1	20.3	5.1	0.0	0.0
清水第四中学校	260	61.9	57.3	56.9	30.8	23.8	12.7	3.1	0.8
清水第五中学校	79	65.8	54.4	50.6	30.4	26.6	11.4	3.8	0.0
清水第六中学校	302	61.6	62.3	50.3	21.9	23.5	11.3	3.0	0.0
清水第七中学校	446	56.7	54.5	54.9	35.0	33.0	16.1	1.8	0.4
清水第八中学校	189	61.4	65.6	51.9	30.2	21.7	11.1	2.6	0.5
清水飯田中学校	443	62.3	56.7	48.5	30.5	23.5	11.1	2.5	0.5
清水袖師中学校	140	60.0	55.0	47.1	29.3	22.1	15.7	4.3	0.7
清水庵原中学校	175	54.9	64.0	57.7	30.3	21.7	8.0	1.7	1.7
清水興津中学校	227	58.1	57.7	44.9	30.0	21.1	8.4	4.4	0.9
清水小島中学校	47	78.7	66.0	61.7	40.4	27.7	4.3	0.0	0.0
清水両河内中学校	23	56.5	43.5	39.1	52.2	43.5	8.7	0.0	0.0
蒲原中学校	83	65.1	51.8	55.4	25.3	16.9	14.5	1.2	0.0
由比中学校	114	69.3	59.6	46.5	37.7	40.4	11.4	1.8	0.0

学区の種類別

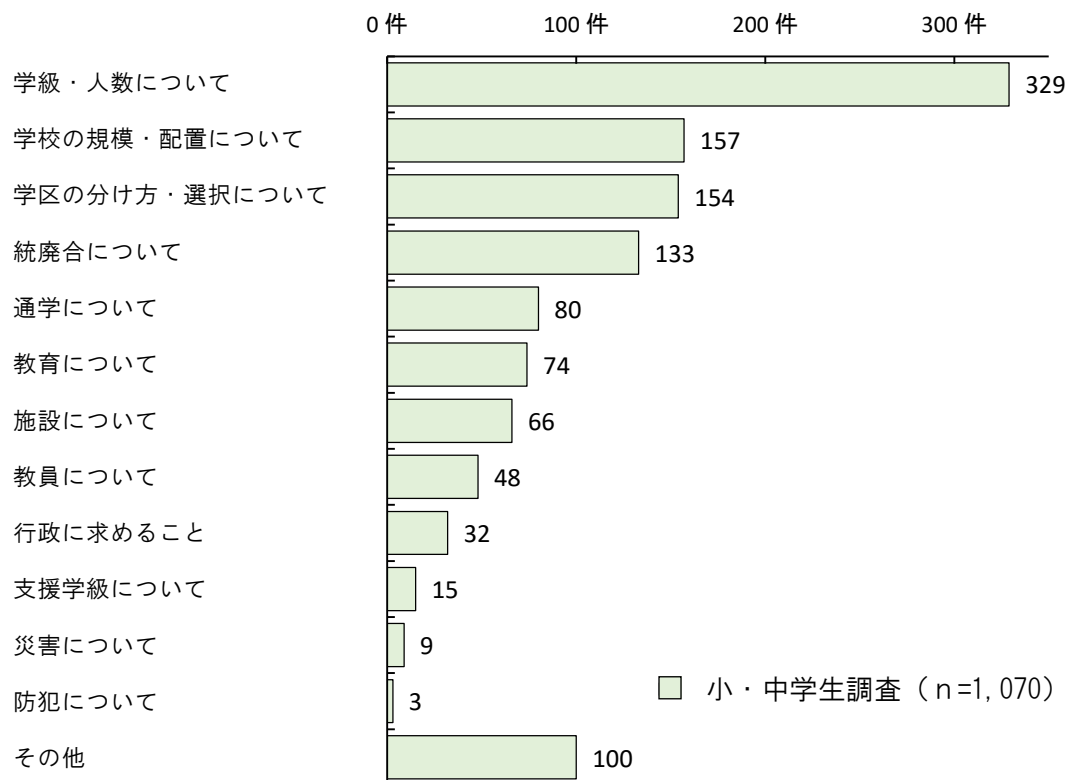


小中一貫教育グループ校別でみると、《 藁科中学校 》で「地域交流などの施設として活用」が7割を超えて多く、《 藁科中学校 》・《 清水小島中学校 》で「災害時の施設として活用」が7割を超えて多くなっています。また、《 清水両河内中学校 》で「子どもたちのための施設として活用」が半数を下回って少なく、「商業施設や公園など集客力のある施設として活用」が半数を超えて多くなっています。さらに、《 蒲原中学校 》で「NPOや民間団体等の地域活性化の視点を持った施設として活用」が2割を下回って少なくなっています。

学区の種類別でみると、《 中山間地域 》・《 学区の一部が中山間地域 》で「財政負担を考慮し売却処分」が1割を下回って少なく、《 中山間地域 》・《 中山間地域以外の過小規模地域 》で「地域交流などの施設として活用」が6割を超えて多くなっています。また、《 学区の一部が中山間地域 》で「子どもたちのための施設として活用」が約6割と多く、《 中山間地域以外の過小規模地域 》で「災害時の施設として活用」、「NPOや民間団体等の地域活性化の視点を持った施設として活用」が多くなっています。

[小・中学生調査：問 11・未就学児調査：問 9]

市立小・中学校の適正規模・適正配置についてご意見があれば、ご記入ください。



市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する意見を自由回答形式で聞いたところ、1,070人から1,200件の意見等があり、テーマ別にまとめると、「学級・人数について」が329件、「学校の規模・配置について」が157件、「学区の分け方・選択について」が154件などとなっています。

次ページ以降に、テーマごとに代表的な意見を抜粋して記載しています。なお、未就学児調査での意見数は11件(11人)のため、全件とも記載しています。

1) 小・中学生調査 (抜粋)

①学級・人数について (329 件)

- ・ 例え子どもが減っても、通学距離や通学時間を考慮して、すぐに学校統合とするのではなく、複式学級等の工夫をしてほしい。
- ・ 学級数を子どもの人数だけで決めるのではなく、支援が必要な子どもの状況等、その学年の特性によって学級数を増やす等の対応をしてほしい。
- ・ 集団から学ぶものは多いので、ある程度の人数は確保する必要があると思う。一方で、人数が多過ぎて教室に余裕がない、グラウンドが広く使えない等の問題への対策も検討するべきだと思う。
- ・ コロナ禍を経て、子どもがある程度大きな同学年の集団の中で、学び経験することの価値の大きさを痛感した。少子化だが、是非子どものために集団の中での学びを確保してほしい。
- ・ 学齢期に同年代の仲間と集団生活をする中で学ぶことや得ることはとても大きい。家庭では得られない学校の良さがあると思う。今しかできない経験や、学齢期に経験しておくべきことを確保してあげたい。少人数の良さもあるが、メンバーが固定されて人間関係が複雑になる。また、中学や高校でいきなり大きな集団に入ることによって馴染みずらくなる子どもも少なくないと聞くと、ある程度の人数の中で色々な価値観・多様性を認め合う心を育むことも大切だと思う。
- ・ 1学級 35 人では多過ぎると思う。教室が狭い。
- ・ 1学級あたりの子どもの人数が多過ぎると、担任の目が行き届かない。近頃は配慮を必要とする子どもや特別支援を必要とする子どもが増えている。1学級 20 人前後にすることで、そのような子どもへの支援がしやすくなると思う。子どもが減ったからと学級数や教員数を減らすのではなく、実態に合わせて1学級の人数を減らし、十分な指導を行き届かせることで子どもの学力を確保してほしい。
- ・ 特にコロナ禍では、学級数が多過ぎると行事の制限が多く、全学年が集まって発表したり迎える会をしたり、運動会を開催したりすることができず残念に思う。
- ・ 1年生が1人なので手厚い学習を受けているが、やはり同級生がいないのは寂しい。
- ・ 学級や子どもが少ない学校では、子ども同士の人間関係が悪くなった時にクラスを離すことができず、子どもや保護者にとって苦しい場面が多いのではないかと感じる。
- ・ 教員の多忙さを緩和するためにも、1学級あたりの人数を見直して習熟度に応じた学習を受けられるようにしてほしい。
- ・ 学級数が多くて毎年クラス替えがあるので、周りや馴染むのに時間がかかる我が子は、友達がゼロの状態です。新学期をスタートしている感じである。そのような子どもがいることも、知ってほしい。
- ・ 教員1人では限界があると思った。副担任やサポート等、1学級に2人以上の教員がいた方が良い。
- ・ 子どもがしっかり勉強できる環境を重視する。少な過ぎても良くないし、1学級あたりの人数が多過ぎても子ども一人ひとりに目が届かない心配がある。
- ・ 学級数よりも、1学級あたりの人数を重視してほしい。
- ・ 1学年あたりの学級数があまり多いと、様々な場面で時間がかかったり、教員の目が届きにくかったり、活動に制限が出たりするので、あまり多過ぎない方が良い。逆に少な過ぎる場合には、ある程度の人数がいなくてできないスポーツや活動の機会が持てないこともあると思うので、他校と合同で行う等の交流の機会があっても良いのではないかと感じる。
- ・ 少数学級は教員の目が届いて丁寧な教育が受けられるのでとても良いが、同学年の子ども同士のコミュニケーションが少なくなるか心配である。どんな状況でも、皆等しく教育を受けられることが保障されれば、人数は気にしない。
- ・ 1学級あたりの人数を少なくしてほしい。
- ・ 複式学級は、通常学級より学習面が不足するイメージがある。
- ・ 複式学級は、子どもにとって良い環境だと思う。

②学校の規模・配置について（157件）

- ・ 今通学している学校は、人数が多過ぎると思う。教員が子どもの名前を覚えて目が行き届き、子どもの尊厳が保たれる規模が良い。
- ・ 学区が広く、遠距離の登下校は安全面や防犯面で心配なことが増える。そのため、子どもの数よりも登下校にかかる時間等を考慮して学区を決めてほしい。
- ・ 小規模な学校を増やしてほしい。いじめ問題で学校に行けなくなった時でも、小規模な学校が近くにあればまた学校に通えるようになる。
- ・ 昔の分校規模でも良いのではないかと思う。教育免許のある方は仕事ができる。子どもは自宅から近い学校へ通える。確かに財政問題はあると思うが、減っている子どもにどこまでお金を投資できるかだと思う。
- ・ 小・中学校の規模が小さいと、大人数の高校で挫折してしまう子どもがいる。そのようなことも見据えて、ある程度の人数的で生活する経験も必要だと思う。しかし、少人数だから成長できる子どももいる。そのような子どもへの配慮や進路決定時の選択肢等もあると良い。
- ・ 子どもが少ない地域等、通学に時間がかかり過ぎてしまう点は改善できれば良い。それについては、学校施設の配置のみならず、教育環境や住環境による地域差も関係してくると思うので、適正規模で配置できるように行政全体での取り組みが必要だと考える。
- ・ 西豊田小学校は、市内でもトップクラスの児童数と聞いた。少子化でも多くの子どもがいる学校なので、ありがたいことだと思う。一方で、校舎が狭いことが気になる。教室も廊下も子どもがぎゅうぎゅうで、学用品を置くロッカーや棚の広さも不足している。参観日に子どものいる教室を覗いたが、隣の席との間隔が狭過ぎて、とてもソーシャルディスタンスなんて取れないと思った。
- ・ 少人数学級が複数できるようにして、オンライン授業等で他校との交流を行ってほしい。スクールバスを出して、多少遠くても1学年に複数学級ある学校に行った方が良い。
- ・ 適正規模や適正配置については人それぞれ意見が違うと思うので、小規模校でその学校ならではの特色や少人数だからこそできるリモート授業、ネットを使って個人の学力に合わせた授業形態を試みたり、他校にはないものをつくったりして、学区外からでも希望者が入学できるようにすれば良いのではないかと考える。
- ・ 子どもが少ないと、閉鎖的な環境だと感じる。子ども同士は仲が良くお互いを深く知ることができるだけでなく、教員の目が行き届くといった良い面もある。しかし、多感なこの時期は沢山の友達や教員の考え方に触れて、視野を広げてほしい。
- ・ 子どもが徒歩で通学することは健康維持や体力向上のために良いので、現状の配置を維持した方が良い。地域の避難所としても機能する。
- ・ 中山間地域のように子どもが少な過ぎる学校は確かに子どもの教育環境として問題があると思うが、逆に服織小学校や服織中学校のように子どもが多過ぎる学校にも問題はあろうと思う。どうしても教員や大人の目は行き届きにくくなるし、近年は家庭での教育や指導の質が昔に比べて落ちていていると思う。適正な教育環境という意味では、小規模校だけでなく、大規模校も何とかしなければいけないような気がする。
- ・ 適正規模・適正配置は、地域の状況によって変わる。子どもは地域の中で育つので、地域の状況を汲み上げて考えることが大切だと思う。
- ・ 学校は、子どもが社会に出る前に集団生活を練習する場でもあると思うので、様々な個性の人が集まるよう、規模を調整するべきだと思う。沢山の子どもがいても、障がいや個性のある子どもが生活・学習ができない学校では、集団にする意味があまりない。
- ・ 子ども一人ひとりがきちんと見える、集団の中に埋もれてしまわない規模が望ましいと思う。規模が大き過ぎると子どもの姿を見られる行事や発表会があまりなく、6年間子どもが友達と楽しむ姿や頑張る姿を見られないのは保護者として寂しい。どのように対応するべきかわからないが、子どもの成長をしっかり見られる規模が望ましいと思う。

③学区の分け方・選択について（154件）

- ・ 子どもが徒歩で安全に通える範囲がベストだと思う。
- ・ どの地域に住んでいても、通う学校を自由に選択できるようになれば良い。自宅から学校まで遠くても通いたい学校があれば通えば良いし、通学に時間がかかり過ぎると思うなら近くの学校に通えば良い。選択できれば保護者や子どもの意見を反映させることができるし、魅力ある学校にしようとか各学校で何らかの取り組みを行うと思うので、子どもの少ない学校も活気が増すのではないかと考える。
- ・ 少人数の学校を残す価値はあると思う。大規模学校がどうしても性分に合わない子どもは、必ずいる。少人数の学校への転校という選択肢があれば、長期にわたる不登校を免れることもできる。逆に人数が少な過ぎることで密度が濃過ぎる人間関係に辟易し、不登校になる子どももいると思う。

- ・ 選択学区はやめた方がよい。学区外から通っていると、保護者が行事に参加しづらく色々な問題があると思う。
- ・ 学区の端っこの家庭は、特別な申請なく学校を選べるようにしてほしい。
- ・ 保護者としては登下校の安全性が一番気がかりなので、なるべく近くの学校に通えるよう、過疎地域の学校も残すべきだと思う。しかし、最も優先されるべきは通う本人や保護者の意向だと思うので、子どもが多い学校に通いたいのなら通える配慮も必要だと考える。
- ・ 統廃合を進める前に、学区の見直しでどの程度学級数の均衡化が図られるかの試算を市民に示してほしい。
- ・ 重い荷物を持って登下校をしている子どももいると思うので、学区等は考えた方がよい。
- ・ 引越し等で学区外に住んでいても卒業した小学校の地域の中学校に通えるようにしてほしい。多少通学距離があっても、本人や保護者の意向があれば許可してほしい。
- ・ 小・中学校の学区を見直し、最も通学しやすい学校に通うことができるようにしてほしい。
- ・ 子どもが減ると学区が広がることがあるので、通学路の整備等の広域的な配慮をお願いしたい。
- ・ 高校のように特色から学校を選択できるようになるとよい。
- ・ 越境で通う家庭の審査をもう少し厳しくした方がよいのではないかな。
- ・ 小中一貫教育をするなら、小学校から中学校に上がる時に学区が変わらない方がよい。
- ・ 通える範囲の学校をもう少し自由に選択できたらよい。

④ 統廃合について (133 件)

- ・ 過疎化が進んだ地域に小学校がなくなり、子どもの声が聞こえなくなることは、地域にとって本当に寂しいことである。統廃合の必要性が生じた時は、その地域の理解を得て、できれば地域活性化の施策とセットで進めてほしい。
- ・ 子どもが減っている現状では仕方がないが、自分の育った学校がなくなるのは寂しい。
- ・ 子どもの数に合わせた適正規模について検討することが必要な一方で、適正配置は学校が災害時の避難所や地域活動の拠点として機能することを考慮しなければならないと考える。例えば、統合等により廃校になる学校があっても、地域にはなくては困る事情もあると思う。そのため、安易に施設を手放すのではなく、施設の継続的な活用方法も含めて地域と話し合いながら進めていくことを忘れてはいけないと考える。
- ・ 自治体レベルでその場しのぎの統廃合をしているように見受けられる。国も含めて、長期的な計画を立てて施策を行う必要があると思う。
- ・ 無理な統合等は、必要ない。人数の少ない学校は、頻繁に近隣の学校と一緒に授業やクラブ活動をする等、沢山の友達と交流する機会があれば良いと思う。
- ・ 出生率が低下しているので学校統廃合は致し方ない流れだと思うが、バスや電車といった交通網が発達していない地域では、学校が遠くなった場合の通学方法に問題がある。学校の在り方を検討する際には、児童クラブやその他子育て支援サービスの利用可能時間等も一緒に検討してほしい。
- ・ 統合については、現在通っている子どもや保護者、これから子どもを通わせたいと思っている若い人の意見を尊重した方がよい。子どもや孫を通わせていない人の意見ばかり聞いていると、絶対に反対意見が出てくる。
- ・ 統合による遠距離通学を考慮して、車で送迎ができるように徒歩通学の子どもの動線と車の動線が交わらないようにしてほしい。安全を考慮した駐車場の整備と通学バスを希望する。
- ・ 海が目の前にある学校は、なるべく早く少しでも離れた地域の学校と統合した方がよい。東北の震災を思い返すと、防災訓練も大事だが、海が目の前では助からないのではないかなと思う。
- ・ 中山間地の小規模校としてまさに統合された学校に子どもを通わせているが、開校時に校舎が間に合わなかったり、開校してから問題が露呈することがあったりと、憤慨し落胆もした。それでも子どもは楽しく通っており、9月完成の新校舎を楽しみにしている。
- ・ 学級数が少ない場合は、通学時間等に配慮して統合を考えても良いのではないかな。学級数が少ないと、クラスでいじめ等があっても、その子どもと何年間も同じクラスにいなければならない。小学校の6年間で沢山の友達と関わることで、コミュニケーション能力を高めることが大切だと思う。社会に出て色々な人と関わる練習を子どものうちからしておく必要があると思う。
- ・ 廃校になった学校を取り壊して土地を売却することで、財政負担を軽減させることは大事だと思う。
- ・ 少子化が進んでいる現状を鑑みると、統廃合はやむを得ない。統廃合のメリットは、財政面の健全化や一定の人数を確保することで子どもへの多様な刺激があること等だと思う。デメリットは遠方の子どもの通学負担だと思うが、通学バスの手配等で対処可能だと思う。また、廃校施設は商業的に利用価値を持たせることが十分可能なので、観光資源としての活用も見込めると思う。

- ・ 足久保小学校と美和中学校の統合中止の影響を受けた子どもがいる。子どもは統合に対してあまり良いイメージを持っていなかったため、統合が楽しみになるように話をした。子どもの気持ちが上向きになったところで、中止になった。安倍口小学校や美和小学校等から多くの反対意見が出たと、噂を聞いた。私も子どもも大きく振り回された。やると決めたなら皆が同じ方向を見るように努力して進んでほしい。一番大変な思いをするのは、子どもである。
- ・ 小学校と中学校が近い場合は、どちらかに統合して新しく小中一貫校の施設にすれば良い。

⑤通学について（80件）

- ・ 荷物が重いので、身体に負担のない通学距離に学校が配置されると良い。
- ・ 子どもの通学時間等に配慮した学区を構築し、通学時間や通学距離を常識ある範囲としてほしい。
- ・ スクールバスがあると良い。
- ・ 通学に時間がかかる子どももいるので、地域によってはバスの導入、中学生は自転車通学があっても良いと思う。
- ・ 通学するのは子どもなので、安全面から通学距離は長くない方が良い。通学距離が長くなるのならば、保護者の送迎や送迎バスの運用を検討してほしい。
- ・ 中学校からは誰でも自由に自転車通学を可能にしてほしい。
- ・ 自転車通学の範囲を再検討してほしい。
- ・ 交通量が多い道路が通学路なので、心配している。家庭によっては、隣の学区への融通が多少あっても良い。
- ・ スクールバスの用意は必然だと思う。子どもが公共バス等も利用しやすくなるよう、規定を見直す必要があると感じる。
- ・ 在籍している小学校は大雨で学校敷地内や通学路に水溜まりができるので、雨水の排水環境を整備してほしい。車道の半分以上が水で浸かっている場所も多々ある。過去に通学路の側溝部分に足が挟まり、大怪我をした人がいるという話を知人から聞いた。私達は駿河区から清水区へ引っ越してきたが、駿河区ではこのような水の溜まり方は見たことがない。安全に通学できる環境になってほしい。

⑥教育について（74件）

- ・ 水泳は外部施設で外部の先生が担当していて、とても良いと思った。もっと回数が増えると良い。担任以外が受け持つ授業がもっと増えると良い。
- ・ 集合授業にこだわる必要はない。学びたい授業や興味がある授業に参加できる環境が整っていると良い。
- ・ 土曜日の午前中だけでも、授業の復活を願う。授業日数が足りないので授業をサラッと行っており、子どもが理解できないまま授業が進んでまた理解できないという負のループになっていると思う。授業をじっくりやれば、成績が上がり、子どもの知能レベルも上がる。
- ・ 過疎地域の子どもだけが長い時間をかけて遠くの学校に通うのではなく、スクールバスを運用する等して中心部の子どもが過疎地域に3か月間くらい留学できるシステムをつくってみてはどうか。少人数学習を体験したり、子どもの数を確保したりできるのではないかな。
- ・ 指定学区を廃止し、学校に特色を持たせてほしい。例えば、スポーツに力を入れる学校、英語に力を入れる学校、穏やかな子どもを集めて協調・優しさ・思いやりに重点を置く学校等。子どもの特性が伸ばせるように、いつでも転校できるシステムがほしい。不登校児童減少につながるよう、Zoomでの学習を主とする学校もほしい。
- ・ 現在の小中一貫教育に意味があるのか疑問である。施設一体型なら理解できるが、1つの小学校から複数の中学校に分かれる場合は、全くメリットを感じない。少数ならば尚更である。
- ・ 各学校にスクールカウンセラーやALTを毎日常駐させる等、教育にお金をかけてほしいと強く思う。
- ・ 塾ありきではなく、学校での教育で完結できる人数が望ましいのではないかなと思う。
- ・ 小中一貫教育を進めてほしい。
- ・ 低学年は、学力別の授業の方がペースや難易度等を子どもに合わせてやすいと思う。できる子どもは更に学力を伸ばし、勉強が苦手な子どもはゆっくりしたペースで確実に基礎が理解できるという幅のある学習ができるようになれば、子どもも楽しく勉強ができる気がする。勉強が得意な子どもは退屈で、苦手な子どもはわからなくてやる気が出ない授業より、個人のレベルに合った授業で学力を伸ばし、勉強することを楽しいと感じてくれるとありがたい。
- ・ 多様な集団の中で刺激し合い切磋琢磨するために、ICTを活用する等して学校間の学習交流機会を設けて学校同士の横のつながりを持つことで、学習の質を向上させることができたら良いと思った。

- ・ 市内中心地の学校は明らかにICT活用が進んでいて、保護者が授業や課題を確認できて子どもの活動を身近に感じることができる。しかし、教員が少ないので、教員の年齢層が高くなると、全く活用していない教科もある。授業中だけChromeを使うのではなく、病気療養や自宅待機等で授業に参加できない子どもが当たり前に参加できるシステムを静岡市全体で進めてほしい。プロのエンジニアを各学校に配置し、どこの学校に通っていても魅力的なプログラムを与えてほしい。
- ・ 学級を増やすと教員が足りなくなるのなら、中学校や高校と同じように教科担任制にして美術や音楽、書道は専門講師を招いて行えば良い。教員も休暇を取りやすくなる。また、教員の当たり外れをなくするために定期的に教員が他校で教鞭をとる機会を設け、子どもに刺激を与えることも必要である。
- ・ 公立校は小中一貫教育に注力するよりも、学年に応じた教育を着実に行ってほしい。地域文化の良さを感じられる教育プログラムを実行してほしい。
- ・ オンラインを活用してカリキュラムを見直し、A学校の教員の授業をB学校の子どもが学べる環境ができれば良い。最終的には教え方が上手な教員が全員に教えられれば、教員の役割分担が進んで負担が減ると思う。

⑦施設について (66件)

- ・ 廃校になった施設は、博物館ではなく島田のようなグランピング施設や市民が使いやすいイベント施設、学童等の放課後に子どもを預かる施設にしてほしい。また、色々な方との交流ができる図書館やカフェ等と隣接する施設も面白い。
- ・ バリアフリーを進めた方が良い。怪我をした子どもは、移動教室が大変である。休み時間に次の教室までの移動が間に合わないこともある。教室が空いているのなら、上の階を空き教室にしても良い。
- ・ トイレが汚くてトイレを我慢する子どもが多い。和式から洋式への工事等をお願いしたい。
- ・ 空いた学校施設を売却した資金を、学校の老朽化対策や修理に充ててほしい。
- ・ 子どもが減ったら小学校の施設にそのまま中学部をつくる等、柔軟な考え方が必要だと思う。
- ・ エアコンがない教室があり、勉強に集中できないことがある。
- ・ 子どもが減って空き教室が増えるようなら、地域に特別支援学校の分校をつくってほしい。
- ・ 保護者の送迎等のための駐車場を確保してほしい。
- ・ 運動部の休日の自主練習場として、学校の体育館やグラウンドを使用したい。または、自主練習場がほしい。
- ・ 空き教室は地域の活動に開放して、地域で子どもを育てる拠点としてほしい。
- ・ 避難所としての役割を担う施設として活用してほしい。
- ・ 小学校にも更衣室がほしい。今の時代、低学年でも男女一緒に着替えることは有り得ない。せめて、カーテンを付けることは難しいだろうか。

⑧教員について (48件)

- ・ 目が行き届くように授業は担任と副担任で行い、交互にサポート役を行う。小学校は、早急に中学校のような教科担任制にしてほしい。
- ・ 教員の専門性が活かされるように配置してくれれば良い。専門分野ではないものを無理に教えてもらうほどわからない授業はない。
- ・ 学校の規模や配置も、働く職員の資質によって良くも悪くもなると思う。
- ・ 子どもがいじめ問題やモンスターペアレント問題等は学校で処理するのではなく、外部が介入すべき。そのような専門職を学校に配置すべき。
- ・ 管理職も含めて教職員の異動が多い。3年前後で移動する大人に、9年間地域で教育を受ける子どもや保護者の気持ちがわかるとは思えない。地域の意見を聞いて教育に活かそうと本気で考えるのであれば、せめて管理職がころころ変わり、その度に方針が変わる現状を変えなくてはならない。
- ・ 少子化とはいえ、子どもの人数やグレーゾーンの発達障がいを持つ子どもの人数に対して教員が少な過ぎると思う。普段の授業すら困難なものになっていたり、行事が縮小されたりして実際に影響が出ていることは、その負担が全て教員に押し掛かっている結果だと思う。既に子どもに影響が出ている。
- ・ 教員が少ないように思う。支援級が増えたので、教員の負担を考えてもう少し増員するか、退職した教員が手伝いに来る制度が必要だと思う。
- ・ 支援が必要な子どもが非常に多い割に、教員の目が行き届いていないように思う。支援員を常に学級に配置し、手伝いが必要な子どものサポートをしてほしい。少しでも授業に集中できる環境をつくってほしい。
- ・ 職員の負担が増えないよう、配慮してほしい。

- ・ 少子化に伴う適正規模・適正配置等の環境是正は重要だと思うが、教員の労働環境が改善されなければ、こうした改革がされたところで機能するのか疑問に思う。子どもにとって望ましい教育環境を考えると、教員の質や人員の確保は最重要だと思う。教員の労働環境の是正を望む。

⑨行政に求めること（32件）

- ・ 同じ政令指定都市でも浜松市はICTを活かした教育活動が充実しており、子どもが持って帰れる程の端末数をいち早く確保している。静岡市の行政努力が不足していると思われても仕方がないのではないかな。
- ・ そもそも子どもが減っていることが問題なので、子どもを育てやすいまちにしてほしい。
- ・ 人口流出・人口減少への対応ができていないのに適正配置をしても徐々に縮小していくので、根本的な解決にはならない。
- ・ 未来のことを考えて子育て支援を充実させ、人が集まる地域にしてほしい。

⑩支援学級について（15件）

- ・ 特別支援学級にだけ複式学級が当たり前に編成されることに、疑問を感じる。支援学級に在籍している子どもの保護者は専門的な教育を受けることにより、本人の持つ能力が最大限発揮できる環境を望んでいる。
- ・ 人数にかかわらず、どの学校にも支援学級をつくってほしい。
- ・ 発達障がいを抱えた子どもが増加しているので、通級指導を受けられる施設を増やしてほしい。現状は行政区に1か所しかないので、移動に往復1時間半程度を要する。授業を抜けて行っているのだから、できるだけ通常の授業が遅れないよう、各学校にあることが理想的だと思う。
- ・ 空いた学校に不登校やグレーゾーン等の支援を必要とする子どもや家庭のための小中一貫校をつくってほしい。
- ・ 西豊田小学校は、昔から視覚特別支援学校や南部養護学校等との交流がある。また、わかば学級という特別支援学級がある。様々な個性を持った子どもとも分け隔てなく関わられるように学んでいる。子どもも様々な個性を持った人に偏見を持たずに優しい心で関わられるようになっていく。身体障がいを持つ子どもを受け入れられるよう、学校施設のバリアフリーや車椅子トイレ等の改善を進めていく必要があると思う。

⑪災害について（9件）

- ・ 飯田中学校の裏の山が大雨や地震等で崩れてこないか心配している。整備が必要だと思う。
- ・ 津波の到達が予測される位置にある学校は、保護者として不安がある。その学校を近くの学校と合併させるか、該当地域の人は学校を選択できるようにしてほしい。学校の運営に支障が出るようであれば、入学予定の家庭に対して2年程度前に入学意向を聞いて検討する等してほしい。
- ・ 大雨警報・洪水警報が出ていても休校にならないが、安全性をもう一度検討してほしい。暴風警報が出ていなくても暴風のこともあるので、小さな子どもが傘を差して通学することが危険だし、不安である。特に通学に10分以上かかる場合は、早めに学校や市から登校時間の変更等の安全への呼び掛けをしてほしい。

⑫防犯について（3件）

- ・ 学校の周囲にある建物や路地、商業施設等における子どもの安全と地域トラブル等を検討する機会（第三者機関等）をつくってほしい。小学校のプールの近くに独身寮や細い路地があって生活の中で校内が見える状況なので、不審者等の心配もしている。
- ・ 小学校に外部の人間が自由に入るので、子どもの安全がとても心配になる。外部の人が入らないよう、きちんとした工夫があると安心である。

⑬その他について（100件）

- ・ 学校の人数・規模によって部活の種類が異なることは、不公平である。地区の学校に通っていても、近隣学校の部活動に入部できるようにしてくれれば、選択の幅が広がる。進学予定の学校に希望する部活がないから私立を受験する子どもも多い。部活動の拠点校を決めて入部できる学校を近隣校含めて2～3校にすれば、クラスと部活動、友達の幅も広がるのではないかな。
- ・ 受験して入学する学校や特別な教育方針の公立学校が少ないので、身近な場所にできたら嬉しい。

- ・ 荷物が 15 キロと重く、それを持って歩いては成長や骨への影響がありそう。教材を置けるスペースを確保してほしい。1～2年生は部活の道具を置くスペースがないので持ち帰るが、それを気にしない大人がいることに驚く。
- ・ 登校拒否や不登校等で学校に行けない子どもが増えている。主要5科目重視の教育ではなく、部活動や自然環境、道徳等にも重点を置いたフリースクールや外部講師による授業が受けやすい拠点が各学区にあると良い。
- ・ 山間部の学校が統合に動いているという噂を聞いた。オクシズでも空き家バンク等を利用して地方から人を受け入れているが、子どもがいる家庭等に絞って受け入れたら良いのではないかと。
- ・ スクールバスを出して、過疎地域の子どもにもできるだけ多くの子どもと交流する機会をつくった方が良い。たださえコロナ禍で他者との接触に制限が強いられたので、他人と上手くコミュニケーションが取れないように見受けられて将来が不安である。
- ・ 放課後にゆっくり教室やグラウンド等で、友達とコミュニケーションが取れる機会を用意してほしい。適正規模にすることでそれが実現するのであれば、適正配置を望む。
- ・ 子どもが減っても、民間に協力してもらいながら部活動の多様性を維持してほしい。部活動が減ってしまうと、個性を活かした活動が減ってしまう。教員の負担も減らさなければならないと思うので、外部コーチを利用できるシステムをつくるべきだと思う。
- ・ P T A活動や登下校の見守り等は共働き家庭には負担なので、地域シニア等の外部に委託して雇用を生んだ方が効率的なのではないかと思う。
- ・ 子どもが減ることを想定して考えることも大事だが、教育の中で人生のプランを学ぶ時間をもっとつくり、少子化を止めることも行っていくべき。
- ・ 人数が少なくなり、P T A活動の保護者負担が偏っている傾向がある。皆が平等になるようにしてほしい。
- ・ 小規模校の良さもあるので一概には言えないが、中学校で一緒になる小学校同士の交流は頻繁にある方が良い。
- ・ それぞれの地区で色々な事情があると思うので、慎重に進めていかなければいけないと感じた。
- ・ 若い人が広い地域に満遍なく住めるようにするべき。街中に集中し過ぎている。

2) 未就学児調査 (全数)

①学区の分け方・選択について

- ・ 小学校1学年に子どもが1～5人程度しかいない場合は、学区外に通うという選択ができるようにしてほしい。少人数学級を希望しない世帯は、他の地域に引っ越すか、私立に行くか、してしまう。
- ・ 規模や配置よりも、学区によって学力に大きな差が生じていることの方が気になる。近隣学区であれば無条件で選べる等、もう少しフレキシブルになれば良い。

②学校の規模・配置について

- ・ 学区の学校に通わせることに疑問を持っていなかったのですが、適正規模・適正配置について考えたことがなかった。ただ、住んでいる地域によって子どもが受けられる教育・支援が異なることは不公平だと感じる。住まいを変えることは難しいので、どこに住んでいても誰もが同じ教育を受けられるよう、適正について意識された学校が必要だと感じた。
- ・ 地域によって異なるかもしれないが、適正規模は臨機応変に個々で選ぶことが理想だと思う。例えば、この部活が強いからこの学校に入る等。我が家は田舎にあるので、選ぶほど学校はない。少子化が更に進んだ将来に備えて、早く小中一貫校にしてほしい。質の良い学校づくりをお願いしたい。

③教育について

- ・ 何が適正で何が適正ではないのかわからないが、小河内や宍原の少子化を考えたら、他校のように小中一貫校にしてもらえたら中学に進学する時の子どもの心の負担が少なくなるのではないかと思った。

④統廃合について

- ・ 子ども同士の交流や刺激は少人数よりも大人数の方が糧になると統計発表されているので、小規模校を統合することを検討してほしい。通学時間の問題に対してはスクールバスを手配する等して保護者が同意できる施策となるよう、自治体に頑張ってほしい。
- ・ 学校を統廃合してしまうと若い世代や移住者が減り、更に子どもが減る可能性がある。財政負担はあるが、できるだけ地域の要望を聞いて学校を残したり、ICT活用で子どもの学習に地域差がないようにしてあげたりしてほしい。
- ・ 統合することばかりを考えず、少人数でちゃんと教員の目が届く学校づくりに期待している。
- ・ 山間地域で1学年10人にも満たない学校は近くの学校と統合し、統合先の学校施設や教育の推進の充実に充ててほしい。
- ・ 子どもがあまりにも少ない場合は、統合も視野に入れて検討してほしい。

⑤その他

- ・ 子どもが少なくなったから合併という後手な考え方よりは、小・中学校だけでなくこども園や地域の交流拠点も含めた未来を考慮したポジティブな考え方が働いてくれると良い。

静岡市の子どもたちにとって望ましい教育環境についてのアンケート
【 集計・分析調査結果 】
報 告 書

令和4年10月

静岡市 教育委員会

〒424-8701 静岡市清水区旭町6番8号
TEL : 054-354-2505 FAX : 054-354-2472